

社会医療法人・社会福祉法人
栄光会

2020 年度 年報

Eikoh-kai Group Annual report



次

会長挨拶	1	・ 2020年度看護部目標	56
理事長・総院長挨拶	2	・ 2020年度看護要員推移	57
I 社会医療法人 社会福祉法人 栄光会 概要		・ 外来/内視鏡/手術室中材	58
・ 栄光会創立の精神・理念、基本方針	6	・ 3A病棟（ホスピス）	59
・ 社会医療法人栄光会の概要	7	・ 3B病棟（ホスピス）	61
・ 社会医療法人栄光会の沿革	11	・ 2C病棟（ホスピス）	64
・ 社会医療法人栄光会の歴史	12	・ 4A病棟	66
・ 栄光会グループ 組織図	15	・ 4B病棟	69
・ 栄光会グループ 職員状況	16	・ 5A病棟	71
・ 外来診療予定表	17	(3) 医療事務	
II 社会福祉法人 栄光会の現況		・ 医事課	74
1 特別養護老人ホーム ころろ	20	・ 診療情報管理室	75
III 社会医療法人 栄光会の現況		2) 栄光会ファミリークリニック	82
1 地域連携室		3) 栄光会訪問看護ステーション	85
・ 患者サポートセンター	26	3 介護事業本部	88
・ ホスピス地域連携室	28	・ 栄光会ケアプランサービス	90
2 医療事業本部		・ 介護付き有料老人ホームかめやま	91
1) 栄光病院		・ 栄光会通所リハビリテーション	92
・ 総合診療科	32	・ 栄光会ヘルパーステーション	93
・ 循環器内科	33	・ 介護事業本部栄養管理課	94
・ 呼吸器内科	34	4 伝道部	96
・ 糖尿病・内分泌内科	35	5 地域協働部	100
・ 消化器内科	37	6 ボランティア統括部	104
・ 外科・消化器科	38	7 本部事務局	108
・ 脳神経内科	39	・ 経営管理部	109
・ ホスピス	40	・ 財務・経理課	110
・ 在宅医療センター栄光	42	8 その他	
・ 健診センター	44	・ 医療安全管理委員会	114
(1) 診療技術部		IV 研修状況	
・ 薬剤課	46	1 院内・院外研修状況	
・ 放射線室	48	・ 新入職員研修実施状況	118
・ 臨床検査室	49	・ 看護部院内研修	119
・ リハビリテーション課	50	・ 院外研修・院外発表の状況	120
・ 栄養管理課	51	2 対外研修の状況	
・ 医療機器安全管理室	52	・ 栄光ホスピスセンターこれまでの歩み	126
(2) 看護部		・ 2020年度院外からの研修	132
・ 看護部長挨拶	54		
・ 看護部の理念	55		

これまでの40年を振り返り この2021年度に臨む

社会医療法人栄光会・名誉会長/社会福祉法人栄光会・理事長

栄光病院・名誉ホスピス長 下稲葉康之

栄光会が呱呱の声をあげたのは、昭和55年・1980年10月であった。以来、40年余、幾多の紆余曲折はあったが、栄光会のオーナーである神の導きの下、特徴ある「医療・介護複合体」として整えられてきた。

*これまでの40年を振り返ると

- 1) まずは、特にホスピス病棟での患者さん・スタッフの関りから、ごく自然に生まれた「癒し癒される」医療の在り方は、やがて法人全体の基本的な理念となった。換言すれば、栄光会の特徴は、偏に「患者・要介護者、およびその家族の喜びと幸せにお役に立ちたい」との独特の理念にある。
- 2) 栄光会は医療・介護事業全般に亘り、各領域に裾野広く事業を展開してきた。
 - * 外来（総合・専門・患者サポートセンターなど）・病棟（ホスピス・包括ケア・神経難病・回復期）、
 - * 訪問診療（在宅医療センター・ホスピス地域連携室・訪問看護ステーションを有し、訪問診療・看護を行う）
 - * 更に、「健診センター」・「消化器内視鏡センター」・「ケアプランサービス」など
 - * また、介護事業（通所リハ・有料老人ホーム・訪問ヘルパーなど）にも当初から着手した。結果的には、これからの「超高齢・多死社会」の深刻化するニーズに対応する「地域包括ケアシステム」の、ほぼ全域を網羅する体制を構築したことになる。これは、一法人としては際立った特徴である。
- 3) これからの「超高齢社会」に向き合うには、どうしても地域住民との連携・協働が必要不可欠との判断から、「志免西地域協働ネットワーク」・「NPO法人志免地域支え合い互助基金」を創設した。近隣の町内会・民生児童委員会・志免町社会福祉協議会・地区小学校・医療や介護事業者等が参画して、この数年、その活動もかなり活発となった。ただ、残念ながら、この度の「コロナ」により、現在休止状態となっている。
- 4) 栄光会は、その創立当初より地域住民の方々を始め、医師会や教会関係、そして多くの業者の方々が、当法人の設立理念をご理解下さり、更には「パートナー」となってご支援下さった。今日あるは、そのご支援に負うところは大きい。大変有難く、感謝に堪えない。

*これからに臨んで

- 1) 当面の課題は、コロナ禍としての業績不振を出来るだけ早急に改善する。
- 2) と同時に、ウィズ／アフターコロナにおける「新常態」としての、栄光会の新たな業務スキーム（枠組みを伴った計画）を検討する必要がある。また、中長期的観点からも、慎重かつ大胆に検討すべきで、極めて大切な課題である。
- 3) 折しも、この7月には、法人として新幹部体制がスタートする。スタッフ各位がしっかりと栄光会存続の意義・目的を共有し、新体制の下に一丸となり、奮い立ってなお一層精励されんことを、祈りつつ期待する。

2021年度に向けて

社会医療法人 栄光会 理事長
青戸 雄司

2020年度はコロナ禍に始まり、コロナ禍で終わった感のある1年でした。新型コロナウイルス感染症による法人への多大なる影響により、当初の年度計画が実際には達成困難となり、大幅な赤字を計上せざるを得ませんでした。栄光会全体にとって極めて厳しい経営状況となり「非常事態」の一年でありました。実際に数名の職員に新型コロナウイルス感染者が発生し、職員の家族や関係者等に発熱者やPCR陽性の感染者の発生はあったものの、幸いにも院内感染やクラスターの発生を抑えることができました。

2021年度は栄光会40年の歴史を踏まえた上で、新たなステージを目指して、今まで以上に地域住民の身近な存在として、住み慣れた場所・地域で安心して最期まで、暮らしをサポートすることを基本目標としました、今後も体温チェック、手指の手洗い消毒の励行、マスク着用などの標準予防策や三密を避ける等の感染拡大防止対策の徹底励行に努めると共に、新型コロナウイルスワクチン接種や発熱者への検査等を含めて緻密な対応を行っていく予定であります。同時に「コロナとともに生きる」いわゆるwith CORONAを想定した経営戦略が不可欠と考えております。

ところで、2021年7月1日より社会医療法人栄光会の理事長を交代することになりました。栄光病院院長井上裕医師が理事長を兼務することになります。理事長在任中4年間という短い期間でしたが、公私にわたり一方ならぬご芳情を賜りましたことを謹んで御礼申し上げます。今後は、社会医療法人栄光会においては、引き続き副理事長として新理事長を補佐すると共に、社会福祉法人栄光会においては、現在の下稲葉理事長の後任として理事長を拝命することとなりました。微力ではありますが、当法人の『癒し癒される医療・看護・介護』をモットーに地域医療に貢献すべくひたすら邁進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

2021年度に臨んで

社会医療法人栄光会 総院長

折田 泰彦

栄光会（栄光病院）の建院の精神は、すべての施設に「ホスピスの心を」ということです。

「これらのわたしの兄弟たちに、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたし（キリスト）にしたのです。」という聖書の言葉が病院を導く聖句となり、キリストに仕えるように患者さんに仕えるということが、当然のように病院を導く理念となっています。

そのように仕えれば、患者さんの感謝で癒されるという「癒し、癒される」との言葉が標語となり職員の心を支えています。

患者さんは「身体的訴え」と同時に、患者さん自身も気づいていない「人格を尊重して！という根源的訴え」を持っています。

栄光会はこの「こころ」と「からだ」の二つのニーズに応えようという明確な目標を持っています。

更に創立以来、①地域医療、②救急医療、③ホスピス、④健康管理（健診）という具体的目標を掲げ、それを担当する人材を充てて来ました。

そのため、最新の医療技術や知見、設備の導入及びそれに見合った人材育成に取り組むのみならず、尊厳を尊んでほしいというニーズに応えるため、「心の面」の教育に配慮しています。

そのため、週三回の朝礼や、学会、研修会などへの出席を奨励しています。

発足当時以来、自己完結型の療養施設の必要を感じ、次第にそれが増え、グループ（総勢500人弱の職員）に発展してきました。昨年度から、こどもクリニックと亀山クリニックが合併して「栄光会ファミリークリニック」として、新しくオープンしました。

これらすべての施設に「ホスピスの心を」というのが私どもの目標です。もちろんこれのためには、自助努力以外に、神様の守り、各地の協力牧師やその教会の祈り、地域の方々や、医師会、大学病院、金融関係などのご理解と協力なしにはできないことです。

今後に向けて：日本の医療環境は、日本経済や新型コロナの例を引くまでもなく、グローバル化の波に翻弄されているという事実は否めません。今まで、上のような「ホスピスの心」、①患者サービスに注力したことが、②病院経営、③働きやすい職場という、企業の三大基本要件の残り二つを引っ張ってきました。

これまでそうであったからこそ守られたように、これからもキリスト教病院としての精神、「ホスピスの心を」を堅持しつつ時代の荒波を乗り越え、地域の皆様や時代の要請に応えて、未来に向かって柔軟に対応して行ってほしいと願っています。

社会医療法人 栄光会 社会福祉法人 栄光会 概要

栄光会創立の精神・理念・基本方針

栄光会創立の精神

この最も小さい者の一人にしたのは
わたし(キリスト)にしてくれた
ことなのである。 ~ 聖書 ~

栄光会理念・基本方針

癒し癒される

- キリスト信仰に基づいた全人的で最善の
医療・看護・介護を目指します
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族 そして職員も
互いに癒し癒される関わりづくりに励みます
- 患者さん・利用者の方々・そのご家族の
権利・プライバシーを尊重します
- 地域の医療機関・介護福祉施設と連携し
総合的なサービスの提供に努めます
- 患者さん・利用者の方々の全生涯にわたり
その幸せと生きがいづくりに尽くします

【栄光病院】

外来

24 時間、いつでもみなさんが最善の診療が受けられるような診療体制を整え、院内の各科や地域の医療関係機関との連携を図って、一人ひとりの患者さんを総合的に診療しています。また、同時に地域医療の充実と向上に努めています。

- 総合診療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 外科
- 脳神経内科
- 糖尿病内科
- 泌尿器科
- 整形外科
- リハビリテーション科
- 肛門科
- ホスピス外来（相談）

在宅医療・訪問看護・在宅ホスピスケア(在宅医療センター、訪問看護ステーション)

高齢化社会の到来や新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、在宅医療・訪問看護の必要性は高まるばかりです。当法人ではいち早く専従・専任のドクター・看護師チームを組んで24時間・365日いつでも訪問できる体制をとりました。具体的には'90年代後半には訪問看護ステーションを開設し、'06年4月には栄光会傘下の「亀山クリニック」について『在宅療養支援診療所』の認可を得るとともに、'10年4月には「栄光病院」が『在宅療養支援病院』としての認可を得、病院及び両クリニックとの連携強化を行いました。そして、'13年4月には「在宅医療センター栄光」をオープンし、より一層充実した在宅医療を推進しています。'18年6月には、「栄光会訪問看護ステーション」を栄光病院敷地内に移転し、病院との連携をさらに強化しております。'20年5月、亀山クリニックとこどもクリニックを統合し開設した「栄光会ファミリークリニック」(『在宅療養支援診療所』)においても、在宅医療にさらに積極的に取り組んでおります。

健康診断・ドック・栄養相談(健診センター)

’12年7月に健診センターが稼働を開始し、日頃の健康管理によって病気を未然に防ぎ、病気を早期発見するため、高血圧・ガン・心臓病などの成人病予防の各種成人病検診、人間ドック、内視鏡検査、健康・予防意識の向上を図る働きが強化されています。今後、健康に関するデータを情報システムによって把握・管理し、さらに充実した予防医療の取り組みを行っていきます。

リハビリテーション

体力回復や術後の機能回復について、パワーリハビリ機器を完備したリハビリテーションルームの運用に加えや病棟・ベッドサイドでの訓練も行っています。専門のスタッフが一人ひとりの患者さんに合ったプログラムでバックアップします。

救急医療

栄光病院は二次救急告示病院として、地域住民のみなさま方の急な発熱・痛みや苦しみ、突発的な事故などにも対応できる設備やスタッフで24時間・365日体制の医療を行っています。またその実績が認められ、2009年12月、社会医療法人として認可されています。

オープンシステム（開放型病院）

地域医療の向上・充実のため、医師会との協力のもとに、開放型病院として取り組んでいます。今後はさらに機能を充実させ地域医療を担う病院として、地域の皆様の期待に応えていく所存です。

【クリニック】

●栄光会ファミリークリニック

診療科目：内科・小児科・呼吸器内科・アレルギー科

栄光会ファミリークリニックは、’20年5月に、「亀山クリニック」「栄光会こどもクリニック」を統合し、運営を開始しました。

『全世代型のクリニック』として、これまで以上に患者さんに信頼される身近なかかりつけ医として地域に根ざした医療を実践するとともに、栄光病院における専門医療・検査・入院などとの連携を密にしています。また在宅療養支援診療所として患者さんやご家族の要望に応えるため在宅医療を強力に推進しています。

【介護保険事業】

介護は医療・看護と一体でなければならないという理念のもとに、栄光会ファミリークリニックに併設する「医療介護施設かめやま」を中心として、'00年4月介護保険法施行とともに、次の通り関連事業に着手しています。

【関連事業】

- 栄光会ケアプランサービス（居宅介護支援事業所）
- 栄光会訪問看護ステーション（訪問看護、訪問リハビリテーション）
- 栄光会ファミリークリニック 栄光会通所リハビリテーション（デイケア）
- 介護付き有料老人ホーム「かめやま」
- 栄光会ヘルパーステーション（訪問介護）

【栄光病院の施設概要】

栄光病院は、その源流を昭和初期 炭鉱付属として診療を始めた亀山病院に求められます。地域住民の皆様からの厚い信頼を受けてきた伝統を受け継ぎ'86年4月、キリスト教主義の病院として その名も福岡亀山栄光病院に改め、現在の医療介護施設かめやまの地に新築・移転しました。その後'99年9月には特別医療法人の認可を受け(それと同時に病院名を「栄光病院」に改名しました)、'05年11月には現在の地に新築・移転オープンしました。さらに'09年12月には救急医療の実績が認められ新たに「社会医療法人」の認可を受けました。つねに患者さんのニーズにお応えすべく各種施設を備えています。

●許可病床数 178 床

●看護単位 外来 ・ 6 病棟

【内訳】 緩和ケア病棟 A ・ B ・ C 3 病棟 (71 床)

看護配置 7 : 1

地域包括ケア病棟 (45 床)

看護配置 13 : 1

障害者施設等入院基本料病棟 (28 床)

看護配置 10 : 1

回復期リハビリテーション病棟 (34 床)

看護配置 13 : 1

- 救急指定病院 24 時間受診可
- 健診センター
- 重症患者管理施設
 - 心拍、呼吸、血圧監視装置
 - 人工呼吸器、除細動器
 - 心臓ペースメーカー(体外式)
- 消化器内視鏡室
- 気管支鏡検査
- リハビリテーション施設
 - 各種リハビリテーション施設
 - 各種理学療法機器(含 電気ハリ)
 - パワーリハビリ機器
- 中央材料室
- MR I
- 16 列マルチ・スキャンCT
- X線透視撮影装置
- マンモグラフィー
- 迅速血液ガス・電解質測定装置
- 心臓超音波装置
- 腹部超音波診断装置、その他

社会医療法人栄光会の沿革

昭和の初頭	亀山病院(炭鉱付属病院)としてスタート
昭和55年10月	院長 下稲葉 康之 就任
昭和56年 5月	院長 藤江 良郎 就任
昭和57年 4月	救急指定病院 認可
昭和61年 4月	福岡亀山栄光病院(キリスト教主義の病院として現「医療介護施設かめやま」の地に移転)
平成 元年 5月	栄光ホスピスセミナー第1回を開催
平成 2年 4月	ホスピス病棟増築
平成 2年 9月	緩和ケア病棟認可(西日本初 全国で5番目)
平成 3年 7月	医療法人 福岡亀山栄光病院 認可 在宅医療・訪問看護及びデイケア(通所リハビリテーション)スタート
平成 4年 3月	病院納骨堂の建立
平成 5年 2月	ホスピス110番開設
平成11年 9月	特別医療法人 栄光会 栄光病院 認可(福岡県では初、全国で3番目)
平成12年 4月	介護保険法施行に伴い居宅介護支援等介護関連8事業に着手
平成12年 7月	開放型病院認可
平成13年12月	病院機能評価 V. 3 受審(平成14年2月 認定)
平成15年 4月	社会福祉法人 援助会 「聖ヨゼフの園」(北九州市八幡西区)譲受
平成15年 8月	診療所 栄光会クリニック博多の森 開設
平成17年11月	新病院竣工、移転 及び 亀山クリニック開設
平成18年 4月	介護保健施設「グロリア」、特定施設入所者生活介護「かめやま」開設
平成19年 2月	病院機能評価 V. 5 更新・受審(平成19年3月 認定)
平成20年 1月	下稲葉 康之 理事長、藤江会長 就任(藤江会長は平成25年12月末で退任)
平成20年 3月	病院機能評価 付加機能 緩和ケア受審
平成21年12月	社会医療法人 栄光会 認定(福岡県では4番目)
平成23年 4月	住宅型有料老人ホーム「安息」・栄光会ヘルパーステーション 開設
平成24年 1月	病院機能評価 V. 6 更新・受審(平成24年4月 認定)
平成24年 4月	栄光病院新館 竣工(ホスピス病棟、健診センター 他)
平成24年 5月	ホスピス新病棟稼働、病棟再編成
平成24年 7月	健診センター稼働
平成25年 9月	栄光会こどもクリニック開設(栄光会クリニック博多の森を小児科に)
平成26年 5月	社会福祉法人 栄光会 発足
平成27年 4月	下稲葉理事長 『栄光会フィロソフィ(経営理念)』上梓
平成27年 8月	特別養護老人ホーム「こころ」開業
平成29年 1月	病院機能評価 3rdG Ver:1.1 更新・受審(平成29年4月 認定)
平成29年 7月	社会医療法人 栄光会 会長 下稲葉康之、理事長 青戸雄司 就任 社会医療法人 栄光会 栄光病院 院長 井上裕 就任
平成30年 5月	ケアプランサービス・訪問看護ステーション 移転(栄光病院敷地内へ)
平成30年 9月	介護老人保健施設「グロリア」 閉鎖
平成30年12月	住宅型有料老人ホーム「安息」 休止
令和 2年 5月	栄光会ファミリークリニック 開設(亀山クリニック・栄光会こどもクリニック統合)

■ 社会医療法人栄光会の歴史

『 私たちは「こころ」も「からだ」もともに癒され
幸せに生きる医療・看護・介護”を目指しています 』

社会医療法人 栄光会 はキリスト教の精神に基づいて、健康管理、日常診療、救急医療、在宅医療、終末期医療(ホスピスケア)などの医療とともに、介護事業も強力に推進し、人間の全生涯にわたり、地域に開かれた医療・看護・介護を目指して取り組んでいます。悩みや痛み、苦しみを共にし、「こころ」も「からだ」も癒される医療・介護の充実と、同時に患者さん・ご利用者・ご家族など一人ひとりの幸せと生きがいに応えることを目指しています。

炭鉱病院からキリスト教病院に

社会医療法人 栄光会 栄光病院は昭和の初め、志免町亀山に炭鉱付属の亀山病院としてスタートしました。時代は移り変わり、エネルギー革命によって石炭が石油へと転換されると、炭鉱は閉山。亀山病院は付属病院としての使命を終え、地域の一病院として診療を続けていました。'70年代～'80年代の亀山病院は、老朽化が激しく、消防署などから再三改築を迫られる状態でした。そのような中'86年4月、旧病院を 現・医療介護施設かめやま の地に新築移転しました。当時、院長であった藤江良郎医師(元・会長)は、下稲葉康之医師(現・名誉会長 兼 名誉ホスピス長)、折田泰彦医師(現・総院長)らと共に、キリスト教病院として、福岡亀山栄光病院と名前も新たに再出発させたのです。

それは、これまでの診療に加え、まだ「ホスピス」という言葉になじみのない頃に、終末期医療に真正面から取り組む全国的にも珍しい存在の病院でした。

地域の人々の理解と協力に支えられ

キリスト教病院としての再スタート直前、町内会・婦人会・老人クラブなどの代表4～5人が訪ねてこられました。そしてこんな質問をされました。「クリスチャンではない私たちも、診てもらえるのでしょうか?」。地域の方からの素朴な質問です。栄光病院の藤江元会長、下稲葉名誉会長(兼名誉ホスピス長)、折田総院長の3人をはじめ、スタッフの10%程はクリスチャンで、栄光病院の医療精神はキリストの癒しを礎としています。一方、地域には仏教徒や無宗教の方もたくさんおられます。栄光病院は、宗派や信仰の有無に関係なく、24時間診療や訪問看護にあたっています。地域の方々に「クリスチャンであろうがなかろうが一切関係ありません」とお答えしたところ、ある日、病院に大きなふろしき包み2個が届けられました。開けてみると手縫いの雑巾がぎっしりつまっていて、「ぜひ病院で使って下さい」という言葉が添えられていました。このように栄光病院を中心とする栄光会各施設は創立の時から、このような地域の方々の理解と、多くの教会関係者の祈りと支えによって、現在があるのです。

人と人のふれあいを通して

栄光病院の診療内容は内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・リハビリテーション科・麻酔科・肛門科など 150 床からスタートしました。すぐにベッドは満床になり、その数か月後に 178 床に増床し、その内、24 床がホスピス病棟でした。当初、ホスピスは一般病棟と混在でしたが、'90 年 3 月、念願のホスピス病棟が完成し、'98 年 5 月には 36 床に増床、'05 年 11 月、病院の移転を機に 50 床へ増床しました。その後も、地域の患者さん、関係医療機関からの強いニーズに応える形で、'12 年 6 月に、新病棟の増築・病棟再編をおこない、ホスピス病棟 71 床という全国で最大の病床規模を有する病院になりました。栄光病院では旧病院時代の'82 年から終末期医療に取り組んでいます。告知を受けている、いないにかかわらず、終末期の患者さんにとって、いたずらな延命医療より心と身体を共に癒すケアを目的にして安らかな生活を送ることを大切にしています。最善の医療設備の他に、病院や施設の建物内には礼拝堂を設け、患者さんやご家族、関係者などの結婚式や前夜式（お通夜の事です）・お葬式も執り行っています。一見、医療とは関係ないことのように思われますが、医療の目的は人間の幸せ。患者さんの人生をトータルに考えると、医療の中で「死」は決してタブー視すべきものではなく、希望と喜びをもって「死」を迎えることができるかどうか大切です。それは、死を目前にしたある患者さんが言った「私はこんなに幸せでいいのでしょうか」という言葉に集約されるのではないのでしょうか。その根底には、患者さんとそのご家族、医師、看護師などのスタッフ、牧師やボランティアのみなさんなどとの心と心のふれあいがあります。

そして、未来へ。

栄光病院は'99 年 9 月、特別医療法人として、医療の安定性及び永続性を確保するため新設された法人として、福岡県では 1 番目、全国で 4 番目の認可を得ました。

同じ'99 年には開放型病院の認可を受け、地域の開業医の先生 100 数名以上が賛同登録するなど病診連携が順調に進んでいます。数年前より紹介率は 20%を超える状況となっています。

'01 年には、病院の質的レベルの評価を受けるために、日本医療機能評価機構による「病院機能評価」(V.3)の審査を受け、'02 年 2 月に無事認定を得ました。その後'07 年には「病院機能評価」の初めての更新を受け(V.5)、翌年 緩和ケア病棟 50 床について「病院機能評価付加機能」として評価をいただきました。更に'12 年 1 月には 2 度目の更新(V.6)、'17 年 1 月には 3 度目の更新(3rdG Ver : 1.1)を無事執り行うことができました。

'03 年には、旧病院から同じ志免町内ではあるものの約 0.7km 西方の地に、新病院建築を計画し、'05 年 11 月無事竣工、移転しました。また旧病院は増改築工事を経て、1F は亀山クリニック（現・栄光会ファミリークリニック）として、その上階には介護老人保健施設「グロリア」や介護付き有料老人ホーム「かめやま」などを('06 年 4 月竣工)を併設、運用するようにしました(この施設を総称して法人内では「医療介護施設 かめやま」と称しています)。

以上により、医療、看護、介護を 3 本柱とする、より地域に密着した病院及びその関連施設を完成させたことになりました。その後、'11 年には新たに住宅型有料老人ホーム「安息」の稼働とリハ

ビリテーション機能の強化を目的とした「通所リハビリテーション」の拡充も行っています。

一方、'09年12月には社会医療法人としてより一層公益性の高い法人格の認可も受けました。これは24時間365日の救急医療の実績が認められたことによるものです。

その後、病院においては'11年度より新病棟の建築に入り('12年4月竣工)、同年6月より病棟再編による新体制、同年7月より新「健診センター」がスタートするなど大きな変化の年となりました。また、'13年4月には、「在宅医療センター栄光」がオープンし、在宅医療に一層注力しています。また、「栄光会クリニック博多の森」が小児医療に特化する事となり同年9月より「栄光会こどもクリニック」としての運営が始まりました。更には福岡県による'14年事業としての特別養護老人ホーム申請(80床、内ショートステイ10床)が認められ、その名も特別養護老人ホーム「こころ」としました。その後も着々と計画は進み、'14年5月には社会福祉法人 栄光会が発足し、その理事長には社会医療法人 栄光会 の下稲葉名誉会長が兼務で就任しました。その後'14年9月には特別養護老人ホーム「こころ」が着工し、予定通り'15年7月には竣工、同年8月より開業の運びとなりました。また、'20年5月には、亀山クリニックと栄光会こどもクリニックを統合し、全世代対応・地域密着のクリニックとして「栄光会ファミリークリニック」の運営を開始しました。

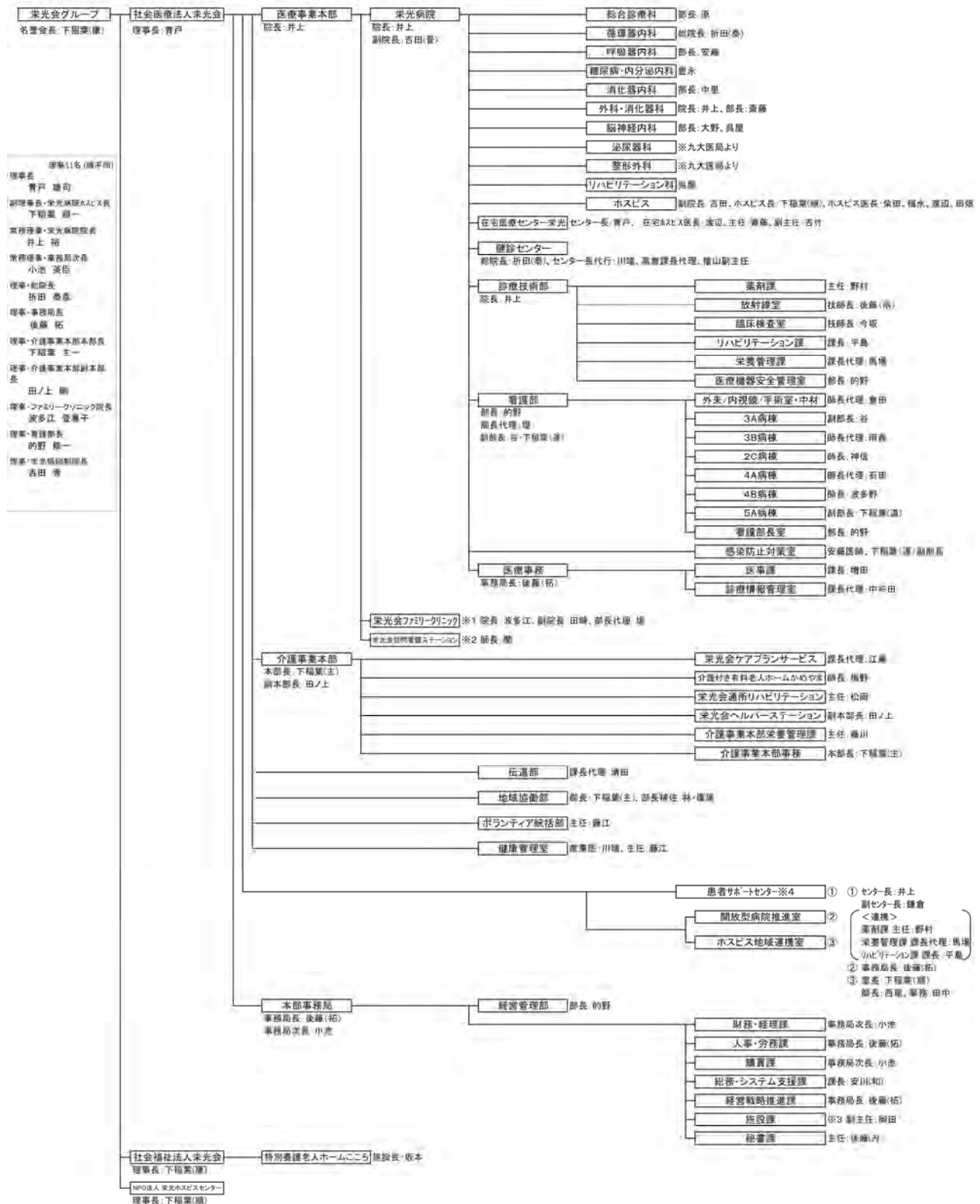
現在、社会医療法人・社会福祉法人合せると職員数450名を超える大所帯となりました。栄光会グループとしては、産婦人科を除く全ての人生ステージに対応する医療・看護・介護の体制を持ったことになりました。

今後、地域医療を担う医療機関としての機能を一層向上させ、市中の大規模病院や地域の診療所との連携をさらに密にすることによって、地域住民のみなさまが安心して暮らせる地域医療圏完結型の医療体制を構築し、在宅医療と介護・福祉を統合した患者さん・利用者の方々・ご家族のトータルな支援ができる体制を築き上げたいと思っています。

これからも、建院の理念であるキリスト教精神を堅持しつつ、患者さん・ご利用者本位の医療・看護・介護を目指して進んでいきます。

栄光会グループ組織図(2021.04.01.現在)

※敬称略



■ 栄光会グループ 職員状況 (2021. 04. 01. 現在)

名誉会長	1	薬剤師	4
理事長	1	放射線技師	5
総院長	1	チャプレン	1
副理事長・ホスピス長	1	管理栄養士	5
院長	3	歯科衛生士	1
副院長	1	臨床工学士	1
医師・常勤	12	事務職員	16
医師・非常勤	1	医事課	15
事務局長	1	クラーク	12
看護部長	1	診療情報管理士	2
看護師	179	健診事務職員	2
准看護師	7	医療介護施設 事務職員	9
保健師	1	夜間管理・常勤	1
ケアワーカー	80	送迎職員	3
ケアマネージャー	9	生活サポーター	2
相談員	6	宿直	4
理学療法士	20	休職中	24
作業療法士	12	派遣職員	2
言語聴覚士	5		
音楽療法士	1	栄光病院	338 (再掲)
助手	3	医療介護施設かめやま	70 (再掲)
臨床検査技師	5	特別養護老人ホームこころ	52 (再掲)
合 計			460

■ 外来診療予定表【栄光病院】(2021.04.01.現在)

曜 日		月		火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
総 合	①	原	呉 屋	布 巻	原	青 戸	安 藤	原/安藤	豊 永	豊 永	青 戸	原/安藤	手 越
	②	当番医		鶴 田		原		斎 藤		鶴 田		手 越	
	③			豊 永									
外 科		井 上		井 上		井上/斎藤		斎 藤		斎 藤		井上/斎藤	
専 門・ 予 約 外 来	循 環 器	折田加				畑 島	折田義		林 谷				
	呼 吸 器				安 藤					安 藤		内海(第1土曜) 二宮(第3土曜)	
	糖 尿 病		豊 永			豊 永			福 永 (西日のby15時迄)				
	脳神経内科	鶴 田		大 野		呉 屋		大 野		呉 屋			
	整 形 外 科		山 口	本 村				原雄人 (am10:00~)					
泌 尿 器 科												九 大	
内 視 鏡		中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	中 里	原	原	中 里	中 里
気 管 支 鏡							安 藤				安 藤		
ホ ス ピ ス ※ 予 約 制 関 係	ホスピス相談	吉 田 下稲葉順 福 永 田 畑		下稲葉順 福 永 田 畑	(吉 田)	柴 田 福 永		吉 田 下稲葉順 柴 田 (田 畑)		下稲葉順 (柴 田) 田 畑	(吉 田)	吉 田 (柴 田) 田 畑	
	ホスピス外来	吉 田 下稲葉順 柴 田 田 畑 (渡 辺)		下稲葉順 柴 田 田 畑 (渡 辺)	福 永 16:00~	下稲葉順 (渡 辺)	福 永 16:00~	吉 田 下稲葉順 田 畑 (渡 辺)		下稲葉順 田 畑 (渡 辺)	福 永 15:00~		
健診センター	①	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	川 端	(川 端)	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	折田泰	(川 端)
	②	川 端	川 端	川 端	川 端	布 巻		川 端	川 端	川 端	川 端	川 端	

※注) 表中の表示について「/」・「隔週」の意味。表示医師が原則交代で担当します。

○診療時間は、午前9時～午後5時00分（昼休み12時30分～13時30分）となっています。なお、午前中の受付は12:00までとなっておりますのでご注意ください。また、午後の診療終了間際の受付につきましては、検査等、診察時間の兼ね合いから、夜間当直医の診療へ切り替わることがありますので、ご了承ください。ただし、急患は何時でも受け付けております。

○「専門外来」は、原則として予約制です。

ご予約がないときは、お待ち頂くことがありますので、ご了承ください。

なお、ご予約に関するお電話は、午後(13:30-17:00)にお願いいたします。

(緊急はその限りではありません)

○「ホスピス相談・ホスピス外来」は、予約制です。事前に必ずお電話でご予約ください。

○月が変わった時は、あらためて保険証をご提示ください。

■ 外来診療予定表【栄光会ファミリークリニック】(2021.04.01.現在)

内科・呼吸器内科・アレルギー科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
波多江	—	波多江	—	手越	—	波多江	—	波多江	—	波多江	—

小児科

月		火		水		木		金		土	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—	田崎	田崎	田崎	田崎	田崎	—

社会福祉法人 栄光会 現況

社会福祉法人 栄光会 特別養護老人ホーム こころ

施設長 坂本 久美子

こころ方針

おもてなしの心で 入居者さまお一人お一人の

幸せと生きがいのある生活をサポートします

概要

今年6年目を迎えた特養こころは、全室個室型のユニットケアを提供しております

日本の高齢者介護におけるケアの考え方、どのようにすれば安心して過ごし、生きていてよかったと思っただけなのか、いつも自分自身に問いかけながら施設づくりをおこなっております。

入居70名＋（短期入所）ショート10名の定員80床

要介護3から要介護5までの方が入居対象です。平均要介護度4.1です

事務スタッフ5名 看護師4名 理学療法士1名 管理栄養士1名 介護士35名

2021年度 目標

感染予防に努め施設の存続を図る

2020年度は、コロナに振り回された1年でした。

今年度もとにかく感染予防に努め、コロナ禍を乗り切る予定です。

現在は職員のPCR検査を1回/週 環境整備、職員の食事環境、体調管理に努め入居者のコロナワクチン接種が安全に終わることができるよう、協力しているところです。

今年度もタイムリーな入所判定会議の開催により、入居を待っておられる方に少しでもはやく御入居していただけるよう努力していきたいと考えております。

開設時から202名の入居があり、施設看取りは91名になりました。

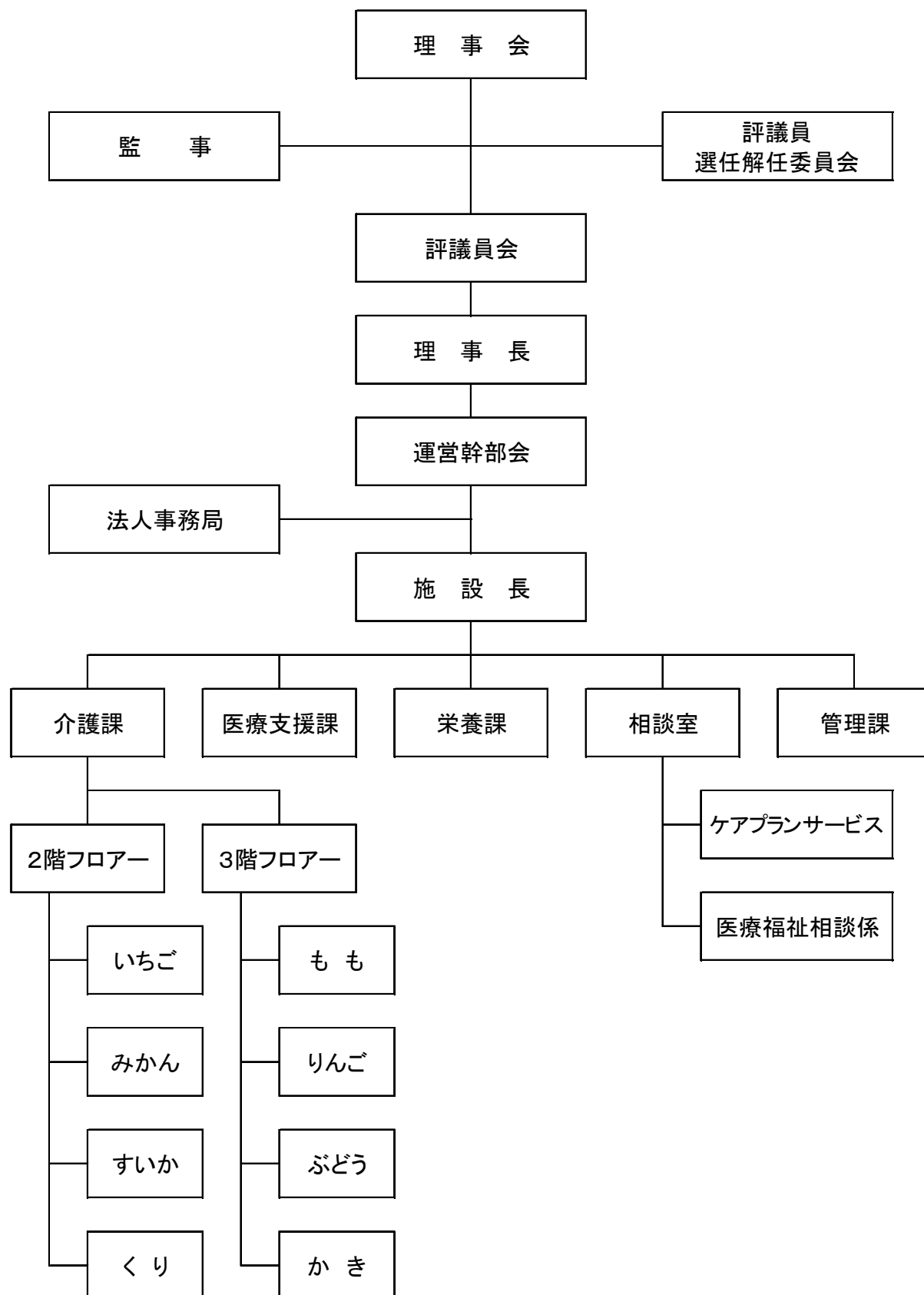
全国の特養の要介護3以上の方の受け入れが始まり6年目です。

過去の特養とは比較にならないほど入退居者の人数が増えております。

昨年度は31名の方の看取りがありコロナ禍の為か、状況の厳しい方が多かったように感じています。

施設での看取りについては、隣接している栄光病院がありホスピスマインドを持って、これからも入居者、ご家族がこころに来て良かったと思ってもらえるよう「看取り体制」を構築していきたいと思っております。

施設内での活動（習字、お花、折り紙など）やご家族の面会、散髪、マッサージなど全ての交流が出来なくなっている状況で、毎日の生活に少しでも楽しみがあるよう屋上菜園や少人数でのレクリエーション活動、おやつ会など笑顔の見える施設にしていきたいと奮闘中です。皆様のご協力よろしくお願いたします。



社会医療法人 栄光会 現況

地域連携室

■ 患者サポートセンター

センター長 井上 裕
副センター長 鎌倉 富雄

職場紹介

1. 職員構成

- 前方支援（看護師）副センター長：鎌倉 富雄
古賀 悦子
緒方 千代（2021年3月末日で退職）
和田 真知子（2021年3月1日より配属）
- 後方支援（MSW） 課長代理：松尾 宗忠（2021年3月より休職）
齊藤 直子（2020年4月1日より復職）
矢羽田 有希子（2020年8月21日より復職）
黒田 優子（2021年3月より休職後、3月末日で退職）
白坂 真也（2020年4月1日より入職→10月末日で退職）

2. 業務内容

- ・入退院支援 ・医療福祉相談（患者相談） ・地域医療連携（病病連携） ・広報活動 その他

2020年度を振り返って

前方と後方支援の看護師とソーシャルワーカーが、一連の入退院支援を通してそれぞれの役割と専門性を尊重し、自部署の連携や纏まりを強化していこうとする中で、スタッフの入れ替わりも度々あり、体制をその都度見直す必要があった。ソーシャルワーカーの退院支援を含む相談件数についても3012件（2018年度）→3940件（2019年度）→4694件（2020年度）と年々増加してきており（表①）、介入のニーズ、必要性が高くなっていることを認め、業務量としても増えている。また、回復期リハビリテーション病棟の体制強化加算に伴うソーシャルワーカーの専従要件、地域包括ケア病棟での退院支援強化のための担当制等で退院支援強化が図られた。しかしその半面、担当者が担当部署で単独活動することが増え、結果、退院支援が部署完結型傾向となり、自部署内の連携、コミュニケーションが課題となった。スタッフの退職、体調不良による休職などが重なり、マンパワー不足となったことから2021年3月より回復期リハビリテーション病棟の専従要件を外すことにより、体制再構築に努めた。激動の一年となり、自部署内の連携や協力の重要性を考えさせられる年ともなったが、スタッフ一人一人がその重要性を再認識し、それぞれの専門性と役割を果たすことで何とか乗り切ることができた。

患サポスローガン：「患者さん・ご家族に寄り添った入退院支援をめざそう！」
～患サポの心は一つ！いつも笑顔はつなげよう～

2021年度に向けて

新入職、配属のスタッフへの教育をすすめ、新体制での入退院支援の質の向上を目指し、患者さんご家族に寄り添った介入が出来るように努めていく。病床稼働率の維持や病病連携による広報活動に

より、病院経営にも貢献できるように努めていきたい。

スタッフの健康を守りつつ、より効率的でスムーズな入退院支援を目指し、関連部署との更なる連携、協力を図っていきたいと考えている。

2016年度～2020年度 相談受付延べ件数

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
月	延べ件数	延べ件数	延べ件数	延べ件数	延べ件数
4 月	364	311	250	254	365
5 月	381	299	309	253	369
6 月	353	319	290	258	453
7 月	317	303	293	305	484
8 月	334	322	319	320	487
9 月	286	267	234	326	485
10 月	338	294	257	416	470
11 月	293	300	216	400	365
12 月	290	275	203	372	345
1 月	290	298	204	353	312
2 月	346	282	195	326	278
3 月	341	311	242	357	281
計	3933	3581	3012	3940	4694

※2018年度は9月より、入院相談を別に集計しております。

2020年度 入院相談件数

	4A	4B	5A	お断り キャンセル	その他 (ホスピス等)	計
4 月	21	3	13	8	0	45
5 月	15	3	9	4	0	31
6 月	17	4	16	10	0	47
7 月	20	7	7	4	0	38
8 月	19	4	17	2	0	42
9 月	16	4	14	5	1	40
10 月	15	3	11	10	0	39
11 月	15	5	11	7	0	38
12 月	28	7	14	2	0	51
1 月	17	2	12	14	0	45
2 月	18	5	3	14	0	40
3 月	17	4	15	11	0	47
計	218	51	142	91	1	503

■ ホスピス地域連携室

ホスピス地域連携室 室長 下稲葉 順一
師長 西尾 雅代

職場紹介

1. 職員構成

室長：下稲葉順一 師長：西尾雅代 看護師：田中佳代 事務：田中陽子

2. 業務内容

- ・ホスピス 110 番としてホスピスに関する問い合わせに対応
- ・ホスピス相談日程調整
- ・ホスピス相談後、ホスピス病棟案内
- ・ホスピス外来予約対応
- ・ホスピス病棟入院計画及び紹介元の医療機関連携室と連絡調整

2020年度を振り返って

昨年度（2020年度）ホスピス相談の件数は683件と前年度（2019年度）658件より増加したが、年間総入院数は昨年度342名と前年度363名より減少した。

以前の相談では転院依頼が多く、相談後すぐに入院に向けて日程調整を行っていたが、近年緩和ケア施設の増加により他の施設にも複数相談を計画されるケースが増えており、相談後すぐに入院が決まらないケースや、自宅療養を希望し外来フォローや在宅医療へ依頼の件数が増加している。

また、新型コロナウイルス感染対策として、ホスピス病棟では、ご家族の面会制限（面会時間は15分以内・家族2名、感染拡大時は毎日⇒1回／週）を行い、外出・外泊は禁止となった。このため、入院後早々に退院を希望する患者さん・御家族が増え、一定の病床稼働が得られない状況となった。

ホスピス地域連携室としても感染予防のため、施設や地域のクラスター発生の有無を毎日確認し、感染発生情報があれば転院時期の調整や再度感染確認作業が必要となった。

また、体制に変更があれば、各施設連携室に連絡と共に受け入れ状況を伝えるように心がけた。転院時は、院内感染委員会の指針に基づき、『転院患者チェックリスト』を使用して連携室を介し、事前に感染の危険性がないことを確認した上で転院調整を行っている。

このように新型コロナウイルス感染症拡大に伴い連携業務は多様化また複雑化し、感染対策と家族ケアを中心とした質の高いケアの提供という課題に苦慮した一年であった。

2021年度に向けて

新型コロナウイルス感染により生活様式も変化しているため、今までのホスピス対応を礎に、多くの方々に信頼を頂けるように連携室より各医療機関・地域医療に奮闘しておられるクリニック・CM・福祉事業所等との連携強化に努めていきたい。

年度統計

2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
直接入院	2	1	1	2	4	5	5	3	2
入院希望	23	22	19	30	24	20	26	22	22
外来フォロー	4	14	16	13	4	10	5	5	13
在宅	4	2	4	5	3	1	2	5	5
連絡待ち	12	14	22	18	21	17	21	15	12
合計	45	53	62	68	56	53	59	50	54

	1月	2月	3月	合計	
直接入院	0	3	5	33	計 312
入院希望	22	22	27	279	47%
外来フォロー	12	6	4	106	16%
在宅	6	4	2	43	7%
連絡待ち	13	19	13	197	30%
合計	53	54	51	658	100%

連絡待ち内訳

入院	51
外来開始	27
在宅開始	8
他院	4
紹介元で看取り	5
治療中・連絡なし	102

年間総数

入院	363	55%
外来開始	133	20%
在宅開始	51	8%
他院	4	0.60%
紹介元で看取り	5	0.80%
治療中・連絡なし	102	16%

2020年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
直接入院	2	3	3	4	1	3	4	2	4
入院希望	29	23	18	21	19	18	24	18	17
外来フォロー	13	11	9	9	8	10	8	11	8
在宅	4	2	2	7	4	4	2	5	9
連絡待ち	26	23	29	20	29	15	22	13	15
合計	74	62	61	61	61	50	60	49	53

	1月	2月	3月	合計	
直接入院	0	1	3	30	計 261
入院希望	19	15	10	231	38%
外来フォロー	6	10	12	115	17%
在宅	5	7	7	58	8%
連絡待ち	19	12	26	249	37%
合計	49	45	58	683	100%

連絡待ち内訳

入院	81
外来開始	34
在宅開始	14
他院	30
紹介元で看取り	23
治療中・連絡なし	67

年間総数

入院	342	50%
外来開始	149	22%
在宅開始	72	11%
他院	30	4%
紹介元で看取り	23	3%
治療中・連絡なし	67	10%

〈ホスピス相談件数/入院判定〉２０１９年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
相談日に直接入院	2	1	1	2	4	5
入院希望	23	22	19	30	24	19
外来フォロー	4	14	16	13	4	10
在宅ケア	4	2	4	5	3	1
連絡待ち	12	14	22	18	21	18
合 計	45	53	62	68	56	53

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談日に直接入院	5	3	2	0	3	5	33
入院希望	26	22	22	22	22	27	289
外来フォロー	5	5	13	12	6	4	102
在宅ケア	2	5	5	6	4	2	42
連絡待ち	21	15	12	13	19	13	192
合 計	59	50	54	53	54	51	658

〈ホスピス相談件数/入院判定〉２０２０年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
相談日に直接入院	2	3	3	4	1	3
入院希望	29	23	18	21	19	18
外来フォロー	13	11	9	9	8	10
在宅ケア	4	2	2	7	4	4
連絡待ち	26	23	29	20	29	15
合 計	74	62	61	61	61	50

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談日に直接入院	4	2	4	0	1	3	30
入院希望	24	18	17	19	15	10	231
外来フォロー	8	11	8	6	10	12	115
在宅ケア	2	5	9	5	7	7	58
連絡待ち	22	13	15	19	12	26	249
合 計	60	49	53	49	45	58	683

医療事業本部

職場紹介

1. 職員構成

原 一生 : 総合内科専門医 消化器病専門医 消化器内視鏡専門医
 青戸 雄二 : 総合内科専門医
 安藤 俊二 : 呼吸器専門医 アレルギー専門医 内科認定医
 豊永 雅恵
 布巻 直美
 鶴田 裕子 : 内科認定医 神経内科専門医
 手越 静子

2. 診療内容

総合内科では下記の範囲の診療を行っています。

- ① 生活習慣病の管理
- ② 急性熱性疾患の精査・治療
- ③ 各種疾患のプライマリケア

2020年度を振り返って

COVID-19の影響もあり、インフルエンザ他の感染症患者が例年と比較して激減した。玄関先での検温や発熱者受診時のゾーニング、防護具の着用、手洗いの徹底、院内にてCOVID-19迅速抗原キット・核酸検査を導入し院内感染対策を行った。

2021年度に向けて

COVID-19流行下であり本年度も院内感染対策を継続しつつ、上記診療を行う。更に本年はCOVID-19ワクチン接種にて、地域の集団免疫獲得に取り組み、ウイルスとの共生社会に備えてオンライン診療の体制の充実を図っていく。

年間統計

2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初診	234	163	199	198	261	177	178	246	195	167	147	186	2351
再診	1131	996	1071	1195	1156	1103	1182	1131	1277	1117	1087	1315	13761
計	1365	1159	1270	1393	1417	1280	1360	1377	1472	1284	1234	1501	16112

職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、循環器内科の外来部門と病棟部門にたくさんの患者さんを抱えていました。急性心筋梗塞は、当時大学病院もすぐには受け入れてくれず、自院で、I V C Rで対応するか久留米の新古賀病院に頼み込むということで対応していました。心臓カテーテル検査の施設を導入するかどうかの決断を迫られて、多額の費用と人員を必要とすることから断念し、現在に至っています。大学その他の施設もすぐ急性心筋梗塞を取ってくれるようになり。今は対応できるようになっています。外来は非常勤医師で週三日対応しています。

2. 職員構成

1) 外来部門

医 師：折田加奈子	月曜午前
畑島 皓	水曜午前
折田義也	水曜午後
林谷俊児	木曜午後
折田泰彦	月曜午後&随時病棟部門

2) 病棟部門

急性期でなくて、対応できそうな患者さんのみ受け入れ、内科の先生方が担当しています。循環器内科の常勤医が待たれるところです。

3. 診療内容

心臓カテーテル検査とR I 検査以外は、冠動脈C T、心エコー、ホルターE C G、トレッドミル、頸動脈エコー等ほとんどの検査を検査室の助けを借りて行っています。

2020年度を振り返って

九大循環器内科からの先生方が、引き続き診療していただき、助けてもらっています。時々救急来院される患者さんは九大や済生会福岡病院などにお世話になっています。年度初頭から新型コロナの影響で他科同様、深刻な打撃を受けました。

2021年度に向けて

急性の循環器疾患も受け入れることができるように循環器内科の常勤医のリクルートが望まれます。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門

常勤医師 安藤 俊二

非常勤医師 （九州大学より月2回）

病棟部門

安藤 俊二（4 A病棟医長）

2020年度を振り返って

本年度は常勤医師1名（安藤）、外来のみの非常勤医師1名の体制で診療を行いました。

非常勤医師は月2回の土曜日の午前の診療で、健診での胸部レントゲン異常の精査も行っています。

当科の主な検査は気管支鏡検査ですが、本年度は0で、肺癌診断における気管支鏡検査は遺伝子解析が求められており、当院での肺癌診断のための気管支鏡検査は困難となっています。

入院診療は4 A病棟で行いました。本年度の入院総数は93例で、昨年度より約43例減少し、コロナ禍における病院全体の稼働率の低下が当科にも影響していると考えます。疾患別では肺炎（細菌性、誤嚥性）が17例と最も多く、全体の18%を占めています。睡眠ポリグラフィー検査目的の入院が4例で、睡眠時無呼吸症候群の診断、CPAP療法の導入、導入後のCPAP圧の再評価を行っていますが、新規症例は減少傾向です。慢性閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎）の急性増悪が5例、気管支喘息発作は1例と少なく、吸入ステロイドを主体とした外来治療が定着したためと考えています。肺癌は9例、治療後の経過観察、ホスピス目的の入院が主でした。呼吸器疾患以外では心不全が12例、尿路感染症が4例、その他の疾患（脱水症、廃用症候群、腎不全等）が36例で、呼吸器疾患以外の一般内科診療も全体の39%と多岐に渡って行いました。

2021年度に向けて

外来診療では患者数の増加に伴い、待ち時間も増加していることが問題であり、効率的な診療、予約時間、人数の調整を行ない、待ち時間の減少を目指します。

入院診療では常勤医師1名のため、重症例の受け入れは困難ですが、患者様のQOLを重視した治療を御家族、コメディカルスタッフともコミュニケーションをとりながら行っていきたいと考えています。

当院では新型コロナウイルス感染症の治療目的での入院は行っていないませんが、治療後のリハビリテーション、経過観察目的での転院受け入れは、急性期病院との連携を取りながら行っていきます。

地域包括ケア病棟としての診療、退院支援の再考、稼働率の向上を目指して、よりコスト意識を持った診療を心がけていきたいと考えています。

職場紹介

1. 職員構成

外来部門・病棟部門： 常勤医師 豊永 雅恵

2. 診療内容

看護師（糖尿病療養指導士）・管理栄養士とチームを構成し、糖尿病専門外来を行っています。医師による診察の他、看護師による保健指導、外来教育、フットケア指導・胼胝処置、栄養士による食事指導など多職種が専門性に特化した指導を行い、更に連携することにより、専門外来として厚みのある診療を行っています。

また、予防医学として合併症の定期検査も重要であり、眼底検査・ABI・頸動脈エコー・心エコー・負荷心電図検査等を組み、また癌の合併も多く、腹部エコー・CT・消化管内視鏡検査等も必要に応じ組みます。検査により、専門施設でのPCI治療・CABG手術を行ったケースや癌の手術に繋がったケースもあります。

近年、透析導入患者の増加が医療経済上問題視されており、年間医療費が1兆7000億円と総医療費の4%を占め、少子高齢化が進む中で社会保障の運営が厳しくなる懸念があります（糟屋地区の透析導入率は他地域より高い）。中でも、糖尿病性腎症が原疾患として第1位となっており、腎臓専門医に紹介する手前の早期の段階での、血糖の厳格管理を含めた進行予防が重要と考え、当院においても、専門チームによる透析予防指導を行っています。

毎年、HbA1c・血圧・eGFRの維持・改善者の割合を厚生局に報告しており、尿中アルブミン量も含め、改善を認めています。

食習慣・生活習慣の変化や高齢化などにより糖尿病患者は年々増加しており、全ての患者が糖尿病専門施設にかかることは現実的に困難です。しかしながら、患者自身は上記のような合併症の定期検査や重症化防止に専門施設での診療を望んでおり、それを実現化するため、全国的に“糖尿病地域連携パス”の取り組みが進められています。普段は、かかりつけ医で診療を受けながら、半年～年に1回は専門施設で治療の見直しや合併症検査、生活指導を受けるというものです。当院でも、この“地域連携パス”に取り組んでおり、現在、登録医の先生方よりご紹介頂き、何名かの患者様のパスを進行中です。

病棟では、主に糖尿病教育入院・血糖コントロール入院（術前血糖コントロールを含む）を行っており、教育入院については、2週間コースの他、軽症者・働き盛りの患者向けの1週間コースも行っています。病状や患者の理解度等によりますが、最短で2泊3日コースもあります。看護師・栄養士・薬剤師・運動療法士とチームを構成し、当院では集団教室ではなく、患者への“個人指導”を特徴としており、患者様の都合により、入院日を調整できます。

2020年度を振り返って

- ・糖尿病地域連携セミナーの代わりとして、『症例検討・診療に役立つ情報』を紙面にて、連携施設の先生方・看護師様宛に発送しました（2020／5月・8月・11月・2021／2月・5月）。

○2020年5月 症例検討2回目＋薬剤科（中島薬剤師）

「当院でのSGLT2阻害薬の使用経験について」

○2020年8月 症例検討3回目＋看護部（田羽田主任）

「貯“筋”のすすめ ～新型コロナ自粛生活における運動療法について」

○2020年11月 症例検討4回目＋栄養課（藤村管理栄養士）

「糖尿病患者さんの糖質制限について」

○2021年2月 症例検討5回目＋医師

「新型コロナ自粛生活における糖尿病診療について」

○2021年5月 症例検討6回目＋医師

「高齢者における糖尿病治療薬の選択について」

- ・粕屋内科医会の学術講演会をweb上にて行いました（2020年8月）。

「糖尿病性腎症重症化予防のための生活指導」 演者：豊永 雅恵

- ・新たに、スタッフ3名（薬剤師1名、看護師2名）が日本糖尿病療養指導士の資格取得試験に合格しました。院内のCDE取得者が9名に増えました。

2021年度に向けて

糖尿病地域連携診療、糖尿病教育入院、外来透析予防指導の充実と、地域連携セミナーの開催（COVID-19感染拡大を考慮し、紙面・WEB・メール等）を継続していきたいと思います。また、院内においては、勉強会（・学会）・資格取得などでレベルアップをはかっていきます。

職場紹介

1. 職員構成

消化器内科部長兼内視鏡センター長： 中里 貴浩

2. 診療内容

- ・消化器内科では内視鏡検査と特殊治療。その他、胃瘻交換、PTEGなどを行っています。
- ・内視鏡センターでは、健診経鼻から拡大内視鏡を用いた精密検査や、ESDなどの特殊治療まで幅広く検査や治療を行っています。
- ・主な装備は、オリンパスELITEシステム2台、ファイリングシステムSolemio QUEV、上部6本（290Z、HQ290、1200N 2本、XP290N 2本）、下部2本（PCF290ZI、PCF-PQ260L）、ERCP1本（JF260V）、炭酸ガス送気システム2台などです。
- ・検査室2室を、医師1名、内視鏡技師2名、看護師1名、洗浄員1名で運営しています。

2020年度を振り返って

- ・コロナ禍の影響で、検査件数は前年度より、上部5.2%、下部は18.4%減少しました。
- ・検査数以上に、癌の発見数が前年より大幅に減少しました（胃癌-69%、大腸癌-44%）。コロナ禍による全国的な傾向で、由々しき事態と考えております。
- ・内視鏡技師が1名退職しましたが、病棟から1名復帰し、内視鏡技師は4名を維持しました。
- ・最新／最高画質の経鼻内視鏡（1200N）2本が新規導入されました。

2021年度に向けて

- ・前年度の年報で危惧していた通り、コロナ禍での受診抑制による消化管癌の発見遅れが現実問題となりつつあります。ワクチンの普及による感染終息を祈るばかりです。
- ・我々の施設では、感染対策をはじめとする様々な改善を行い、「安全・安楽・高精度」をモットーに、必要な検査をこれまで通り意欲的に行っていきます。

診療実績

- ・2020年度は、2849件（上部2466件、下部383件）の内視鏡検査を行い、食道癌3例、胃癌5例、大腸癌5例を発見しました。
- ・大腸ポリペクトミー110件、止血術2件、PEG6件、その他消化管異物除去など35件の特殊治療を行いました。胃瘻交換は61件でした。

職場紹介

1. 職員構成

院長： 井上 裕
部長： 斎藤 純

2020年度を振り返って

本年度の外科スタッフは常勤医2名体制であり、病棟入院患者は5A回復期リハビリ病棟と合わせ常時20名程度が外科常勤医の受け持ち患者である。栄光病院外科は2017年3月をもって手術場を閉鎖し全身麻酔による手術治療を中止した。その後4年が経過し消化器系疾患（急性期疾患および術後リハビリ）および整形外科リハビリを中心に入院患者さんを診察・治療してきた。今年度特記すべきこととしては新型コロナウイルス感染症の蔓延にて稼働率が極端に低下したこと、及び入院・退院時の対策が煩雑化したことである。

外科診療を充実させるため2020年度に工夫したこと

- 1) 消化器センターとの連携を深め、適切症例を可及的すみやかに地域の中核病院に紹介し、治療（手術）終了後の療養を中心に病棟業務を組み替えたが、順調に多くの外科系病院と連携が取れている。
- 2) 従来糟屋地区および福岡市の中核病院の医師との定期的ミーティング（年二回）を開催してきたが、本年度はコロナ禍にて密な関連を保つことができなかった。
- 3) 患者サポートセンターが稼働することで入退院が一元化でき従来よりもスムーズな診療を行えるようになった。

今後の展望

- 1) 外科外来手術やその他消化器疾患については今後も積極的に診察・治療（外来・入院）を続ける予定であり、外来患者の増加を図り更に外来治療の充実については努力していく所存である。
- 2) 乳癌検診については健診センターの充実とともに被検者数の拡大に努めていきたい。
- 3) 整形外科専門医が不在ななか外科系医師二名で整形外科リハビリ診療を行っているが、整形外科専門医の週3回外来診療と密に連携を取りながら診療を一層充実させていくつもりである。
- 4) コロナ感染症が常態化する中で、感染対策を一層充実させることとなるだけ多くの患者の入退院を図るべく努力を続けたいと考える。
- 5) コロナ感染症が一日も早く収束することを願いつつ、2021年度の外科診療を続けていきたいと考える。

職場紹介

1. 職員構成

常勤医： 大野 雅治、呉屋 五十二

非常勤医：鶴田 裕子（外来のみ）

2. 診療内容/業務内容

神経疾患（脳血管障害、認知症、てんかん、神経系感染症、末梢神経疾患、筋疾患、神経難病、頭痛など）を中心とした診療、病院の需要に応じて総合内科外来診療、脳波判読、筋電図・神経伝導検査施行、NST回診（呉屋医師）、訪問診療（大野医師）

担当病棟：神経難病センター、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟

2020年度を振り返って

4B病棟（神経難病センター）の稼働率は年度を通して低かった。レスパイト入院の件数も前年度より減少した。COVID-19の感染拡大に伴い面会制限が行われたことが入院の減少につながったと考えられる。外来患者数の減少も感染拡大に伴うところが大きいのと考えられる。訪問診療の件数は増えており、これも感染拡大の影響があると思われる。

2020年度も回復期リハビリテーション病棟での脳血管障害を診療できる専従医不在の状態が解消されず、主に呉屋医師がこれに携わった。

神経伝導検査・筋電図検査数は前年度同様であった。

2021年度にむけて

診療の質の向上

4B病棟の目標稼働率の達成、そのための適切な入退院調整、他病院との連携。

神経難病患者を受け入れ、そのQOLの向上を目指す。

在宅療養支援のため定期的なレスパイト入院、訪問診療。

画像検査（特にMRI）や神経筋生理学的検査を積極的に行う。

2020年 年間統計

脳神経内科外来患者数：2374

訪問診療：9件

（ALS 1、MSA 1、SCD 1、PD 4、PML 1、Myelitis 1）

* ALS：筋萎縮性側索硬化症、MSA：多系統萎縮症、SCD：脊髄小脳変性症、PD：パーキンソン病

PML：進行性多巣性白質脳症、Myelitis：脊髄炎

検査件数：CT 302、MRI 146、エコー131、脳波12、神経伝導検査・筋電図32

レスパイト入院：8名、21件

4B病棟稼働率（月別平均、%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
79	76	76	78	91	84	82	84	83	76	79	81	81

職場紹介

1. 職員構成

名誉会長・名誉ホスピス長：	下稲葉康之	ホスピス医：	福永頼子
副院長・ホスピス主監：	吉田 晋	(同)	田畑 香
ホスピス長：	下稲葉順一		
ホスピス医長：	柴田 冬樹		
在宅ホスピス医長：	渡辺啓太郎		

2. 診療内容/業務内容

- ① 外来：ホスピス相談（他院より当院への転入院・外来通院・在宅医療などの相談）
ホスピス外来（ホスピス相談後の患者の外来）
- ② 病棟：3A病棟24床、3B病棟24床、2C病棟23床 計：71床
入院目的：全人的ケアの提供
疼痛などの身体症状マネジメント、レスパイトケア、在宅移行への準備、看取りなど
- ③ 在宅：別途報告あり
- ④ その他
 - 1) NPO法人栄光ホスピスセンター
栄光ホスピトラ発行、グリーフカウンセリングなど
コロナ禍のため現在、栄光ホスピスセミナー（年2回：医療者・一般の方対象）、
栄光ターミナル口腔ケア研修会などについては中止中です。
 - 2) 講義・講演
医学部生、看護学生、高校生（医学部クラス）などを対象
 - 3) 研修の受け入れ
コロナ禍のため現在研修受け入れはおこなっておりません。
 - 4) 学会活動など
日本緩和医療学会、日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会

2020年度を振り返って

昨年度（2020年度）は、病棟運営において新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けた年度となりました。以下に直近5年間（2016年度～2020年度）のホスピス病棟関連の統計を示させて頂きましたが、平均病床利用率は77.2%と当院ホスピス病棟が3病棟、71床となって以来、最も低い利用率となった年度となりました。入院患者数・退院患者数は2019年度に次ぐ多さでしたが、平均在院日数が31.8日と最も短くなっています（数年前と比較すると約10日程度短縮）。昨年度からコロナウイルス感染症対策として、家族の面会制限、外出・外泊の禁止などを行わざるを得なかった影響で、可能な限り、自宅で過ごすことを希望する患者さん・ご家族が増えたことが要因だと考えています。病床利用率は減少しましたが、生存退院患者数・予約外入院数はこれまでで最も多く、病棟業務は多様化

し多忙を極めました。それに加え、前述したように新型コロナ感染症対策も同時に行わなくてはならず、これまで私たちが当たり前に行ってきたケアが提供できないことに苦悩した一年でもありました。この一年、関わる患者さん・ご家族のために、『こころ』をこめてケアに従事してくれたスタッフ皆に感謝の思いです。

2021年度にむけて

ホスピス病棟担当医師5名体制（1名欠員状態）はわかりませんが、何とか患者さん・ご家族また地域のニーズにこれまで同様応えていけるように、『こころ』を込めて励んでいく所存です。

今年度も最大の問題・課題は、新型コロナウイルス感染症対策となるでしょう。昨年度から感染対策のため、ご家族の面会を制限したり、これまで当たり前に行ってきた病棟行事を中止せざるを得ない状況となっています。必要不可欠なこととは理解しつつも、本当に断腸の思いです。患者さんにご家族を『つなぐ』ことに力を注いできた私たちが、『分断』することを余儀なくされているからです。

ただこのような時期だからこそ、栄光病院が長年培ってきた、ホスピスの『こころ』を、『寄り添う力』を発揮すべき時だと思っています。そして、その思いは、患者さん・ご家族に必ず伝わると信じています。

私たち栄光病院ホスピススタッフは、私たちがこれまで大事にしてきた、栄光ホスピスの『こころ』を、栄光ホスピスの『理念』＝『全人的ケア』を再認識し、『感染対策』と『質の高いホスピスケアの提供』、『健全な病棟運営』という課題にしっかりと対峙していきたいと思っています。

2016～2020年度統計

年度	入院 患者 数	退院 患者数	死亡 退院 患者数	生存 退院 患者数	予約外 入院数	日数別の 退院患者数			平均 病床 利用 率	平均 在院 日数	ホス ピス 相談
						0-30 日	31-60 日	61日 以上			
2016 年度	565 名	561 名	483 名 〈86%〉	76 名 〈14%〉	133 名 〈24%〉	323 名 〈57%〉	128 名 〈23%〉	110 名 〈20%〉	92.9%	42.8 日	675 名
2017 年度	583 名	588 名	504 名 〈86%〉	84 名 〈14%〉	149 名 〈26%〉	357 名 〈61%〉	119 名 〈20%〉	112 名 〈19%〉	88.4%	42.8 日	692 名
2018 年度	587 名	585 名	478 名 〈82%〉	107 名 〈18%〉	160 名 〈27%〉	364 名 〈62%〉	124 名 〈21%〉	97 名 〈17%〉	83.6%	37.0 日	667 名
2019 年度	645 名	653 名	481 名 〈74%〉	172 名 〈26%〉	189 名 〈29%〉	405 名 〈62%〉	135 名 〈21%〉	113 名 〈17%〉	89.9%	36.0 日	658 名
2020 年度	622 名	636 名	439 名 〈74%〉	197 名 〈26%〉	216 名 〈29%〉	430 名 〈62%〉	120 名 〈21%〉	86 名 〈17%〉	77.2%	31.8 日	683 名

病を抱えていても自宅で過ごせるために～COVID19のある中での在宅療養

職場紹介

1. 職員構成

医師 3名（内科 1名、脳神経内科 1名、緩和ケア 1名）
看護師 3名（副主任 1名 常勤 1名 パート勤務 1名）
事務 1名（主任）

2. 業務内容

コロナ感染下の時代は大事な家族の終末期であっても面会制限があり、入院を選択しない患者・家族がいる。しかし一方で介護力の低下や症状悪化で在宅療養の限界を迎えた場合は入院を選択することもある。

地域医療を担う医療者も今までは患者の状態が悪化すれば入院を勧めたら良かったが、体調が悪化しても看取りを含めて、在宅療養支援の強化する意識が必要である。

コロナ感染の有無に関わらず、病気を抱えていても病院だけでなく自宅や施設で生活できるような地域環境の実現のために栄光病院の在宅医療センター栄光は訪問診療を行っている。

療養場所の制限がないことは患者・家族にとって重要なことであり、できるだけ地域で暮らすことのできる環境や安心感を提供することに繋がる。

当科はホスピス病棟もある在宅医療部門であり、がんの症状や精神的苦痛緩和の症状緩和を病院受診せずとも自宅で提供できるようにしている。

また、在宅療養中に入院が必要な体調、精神的苦痛や介護困難になった場合は栄光病院のホスピスも使用できるようにしている。

2020年度を振り返って

栄光病院の在宅医療センターは、1. 地域のがん治療病院や、当院や他院の退院支援、2. がん治療病院の症状緩和や療養について院外に出向いての面談、3. 施設療養の支援を軸に置いた在宅療養を行っている。

2020年度の新規患者数は130件。往診を含めた自宅訪問数は1,503件／年であった（図2）。自宅看取りは89件で在宅療養困難で当院ホスピス入院後死亡は36件であった。在宅医療のみが正解ではなく、病状や家族の心配から、残された時間が短くても入院することが本人や家族にとって安心できる対応であれば入院も勧めている。

昨年度は在宅療養から入院後の看取り数51件であったため、入院を避ける方向で患者・家族は病気の療養を考えている。

2020年度は新規依頼や訪問件数が増加している。また、自宅での旅立ちが2倍以上に増加している。病状が悪くても自宅で過ごしたい要望が高かった。

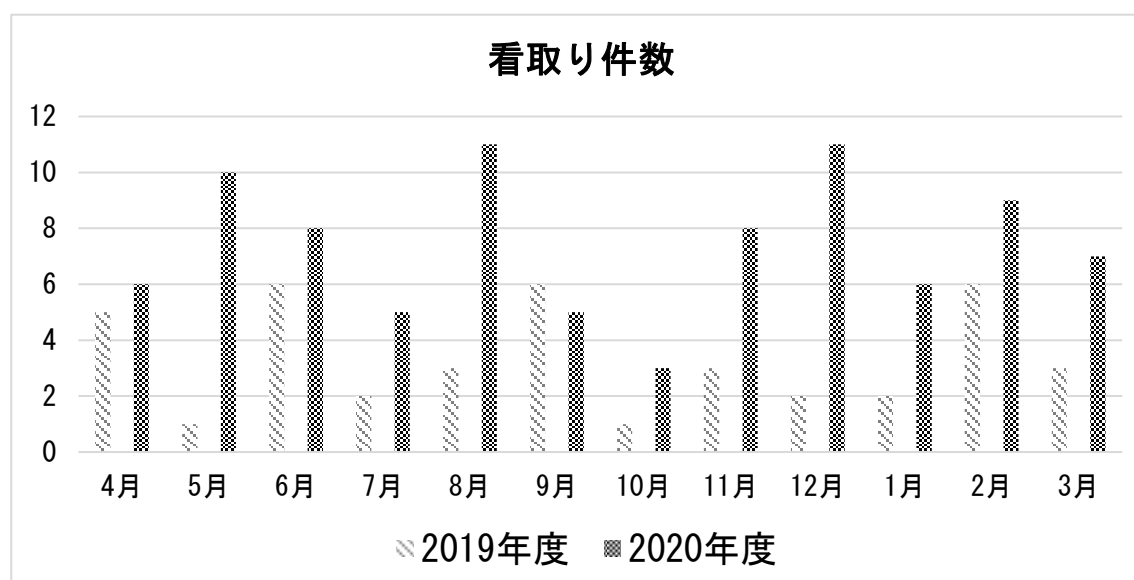
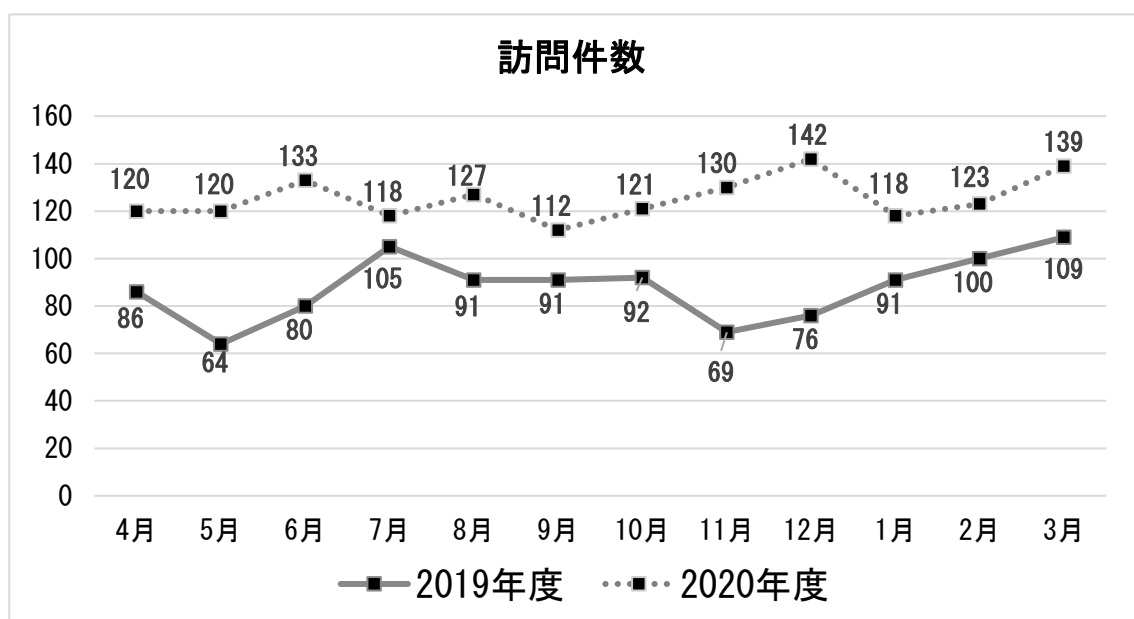
2021年度にむけて

今後できるだけ依頼を断ることなく、また迅速に往診に向かうことを心がけてゆく。

医師の対応が困難な場合は当科の看護師派遣を行い、現場での対応を厚くすることで、利用者の安心を得るようにしている。

地域での医療の広がりのためには、訪問看護ステーションや施設との協働も必要で、医師だけでなく当科の看護師も地域の看護師、薬剤師やケアマネージャーと連絡を切れ間なくできる関係性強化を図り続ける。

2019～2020年 年間統計



職場紹介

1. 歴史

栄光病院は創立以来、①地域医療②救急医療③ホスピス④健康管理（健診）の4本の柱を掲げてスタートしました。今もこれは変わりませんが、④の健診は開院当時、一般外来の中で行っていました。当時の藤江院長と折田副院長がそれを担っており、様々な健診の基礎を作りました。平成24年（2012年）ホスピス病棟の増築増床（現2C病棟）に伴ってその一階に新たな健診センターが働きを開始しました。1 親切・2 快適・3 迅速・4 正確・5 安全・6 テーラーメイドをキーワードに受診者の数も増加の一途をたどっています。

2. 職員構成

1) 健診運営課

医 師：折田 泰彦、川端 隆史

看護師：吉村 敦子(外来所属)

事 務：檜山 典子、椎橋 涼子、小納谷 知佳、畑田 雅代

2) 健診促進課

事 務：高倉 誠一

3. 診療内容／業務内容

健診・ドックは一般健康人が対象です。日本人の死因はがんが30%、動脈硬化（心臓病・脳卒中）が30%を占めています。いずれも無症状で進行しますので、その早期発見と早期治療を目指します。各種がん検診、企業健診などがそうです。時代の要請に応じてドックも各種オプションを備えています。

事務職員は、各種健康組合などとの折衝、各企業への営業、電話での健診の予約、事前のご案内の送付、診察介助、検査の場所へのご案内、健診が終わると検査結果のまとめ、パソコンへの打ち込み、料金の計算・受領、報告書の送付等、多岐に亘る仕事をこなしています。

2020年度を振り返って

年度初頭から新型コロナの影響で、4・5月は休診となり、深刻な打撃を受けました。6月初頭から、職員と受診者の体温測定・マスク着用、待合室の天窓常時開放、椅子の間隔・隔離、視力・聴力測定時の測定者のフェイスガード着用などを行い、健診終了時及び必要に応じ適宜、機器や椅子のアルコール清拭などを行ない、休診の部分を取り返すための努力の結果、前年度を上回る実績を取り戻しました。関係各課、特に内視鏡室には多大のご協力を頂きました。

2021年度にむけて

今年度も年度初頭からコロナの影響はありながら、職員がすべてのことにおいて習熟し、受診⇒結果報告の期間が短くなってきています。

今年度も前出のキーワードを守り、関係各課の御協力を得ながらやっていく所存です。

昨年度の休診の部分を取り返すための努力を関係各課との調整を図りながらやって行く所存です。

よろしくお願いします。

診療技術部

職場紹介

1. 職員構成

薬剤師 4名

調剤助手 2名

2. 業務内容

院内入院患者の内服薬・外用薬・注射薬の調剤

入院患者に対する服薬指導

各種委員会等への参画

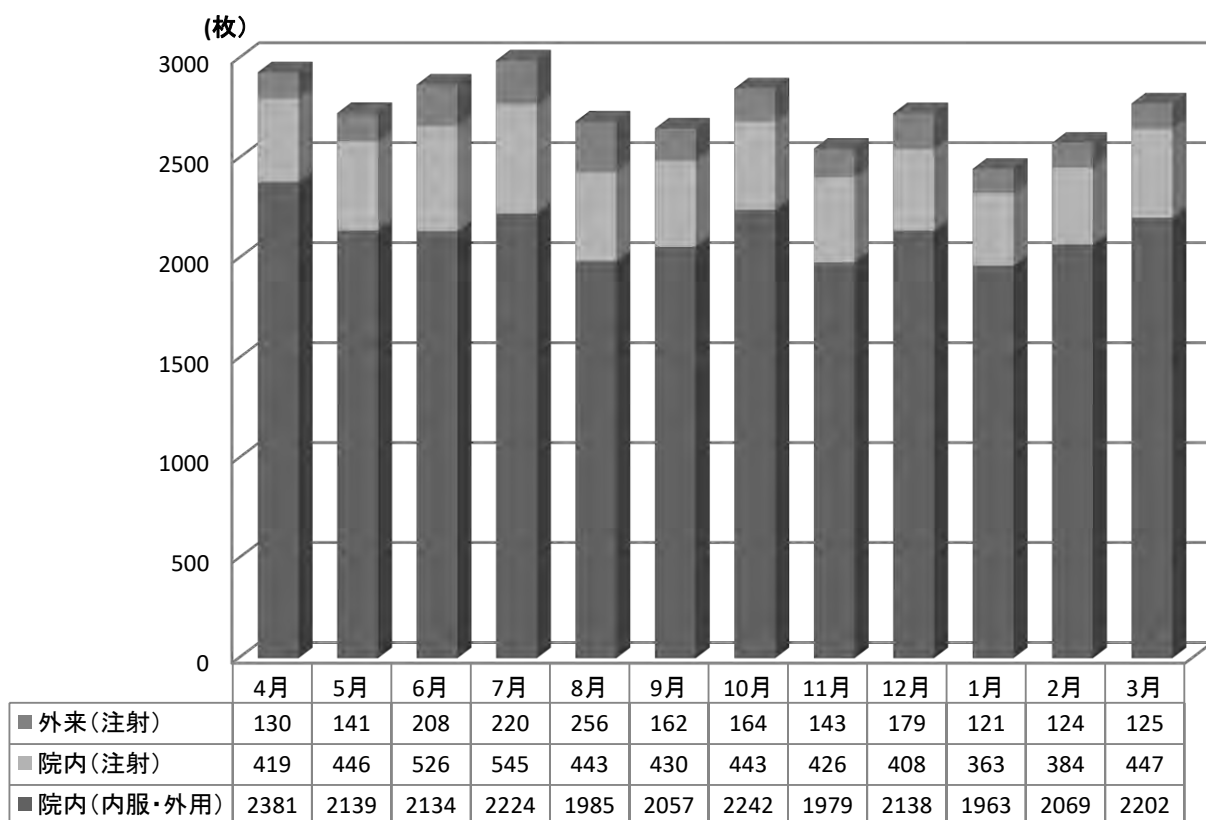
2020年度を振り返って

厚生労働省は、後発医薬品の使用推進のため、外来診療における処方箋の記載様式を銘柄指定から一般名処方（一般名の名称に剤型及び含量を付加した記載）に変更するよう推進してきた。当院外来診療でも2020年7月より導入したが、馴染みの薄い一般名への入力変更により、外来診療時での負担増や診療時間の遅延などが懸念されたが、大きなトラブルもなく、現在では全外来処方箋の約7割で加算点数が取得できている。今後も、新規に上市される後発医薬品についてオーダリングの医薬品マスタを更新し、一般名での処方への切り替えを促すなど継続的な取り組みが必要である。一方、後発医薬品については、一部の後発品医薬品メーカーで、その品質に対する信頼性を揺るがす事案や原薬を含め医薬品の全世界的な流通が逼迫する問題が度々起こっている。その度に、採用薬の変更や在庫の確保に翻弄されることが頻発している。大規模災害への備蓄の為にも、代替の無い必須の医薬品については、これまでの在庫の縮小化を見直すことが必要と思われる。一部の抗菌薬については、その取り組みを始めている。医薬品卸業界が返品を原則認めない方針を強める中で、使用期限切れによる医薬品の廃棄を抑えつつ在庫を確保する難しさがある。

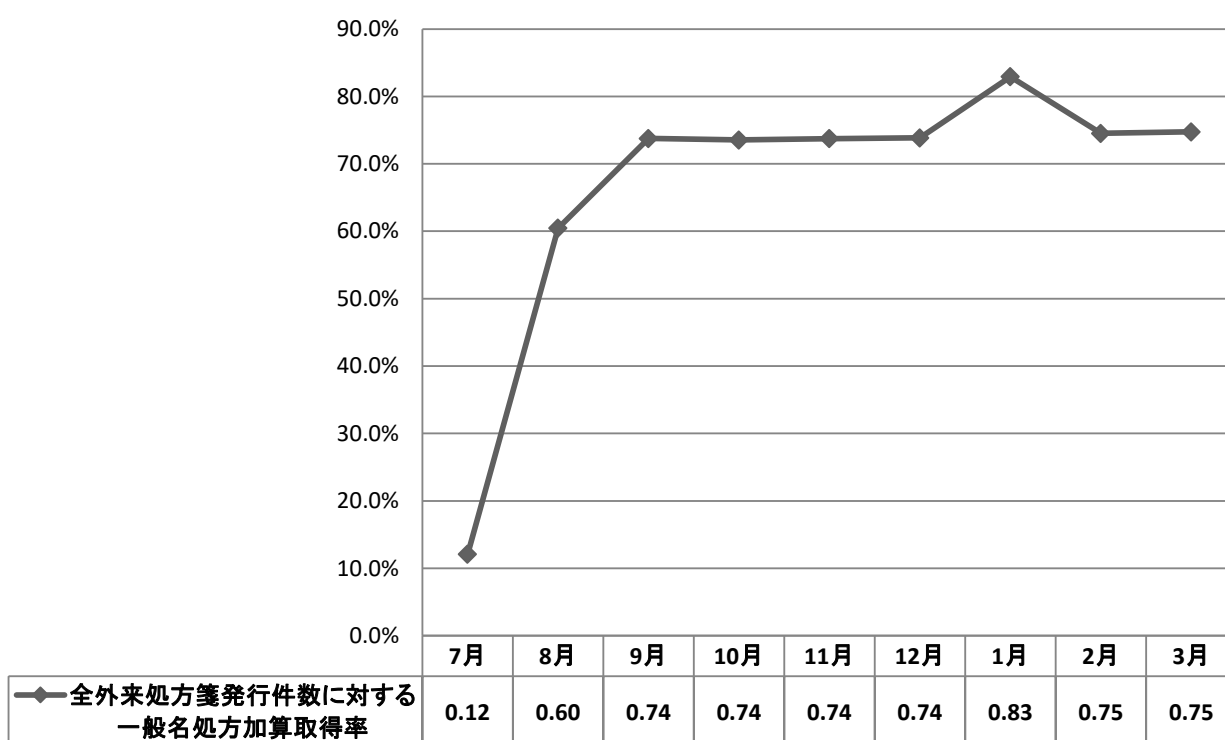
2021年度にむけて

2021年度に入り、新型コロナウイルスに対するワクチン接種が当院の医療従事者へ開始された。薬剤課としては、ワクチンの保管・管理と接種時のワクチン充填作業を担っている。今後、高齢者から一般住民へと対象者を広げ、できるだけ多くの地域住民に迅速に接種を行うことが必要となる。もし感染拡大が長引けば、3回目、4回目の接種も予想される。また、様々なワクチンが承認・使用されると予想され、それらに合わせた知識や適切な取り扱いの習得が必要となる。10月にはインフルエンザワクチンの接種も始まり、ワクチン関連の業務が、ある程度を占めることになるであろう。

2020年度 院内処方箋枚数



全外来処方箋発行件数に対する一般名処方加算取得率



放射線室

技師長 後藤 浩次郎

職場紹介

1. 職員構成

放射線技師 5名（男性3名、女性2名）

クラーク 1名（女性1名） 計6名

2. 業務内容

一般撮影、ポータブルX線撮影、骨塩定量検査、CT、胃透視、大腸透視、嚥下造影、MRI、MRCP、マンモグラフィー、健康診断撮影

2020年度を振り返って

2020年度は、依然として新型コロナウイルスの影響があり、マンモグラフィーと胃透視検査の件数は増加したものの、一般撮影、CT、MRIに関しては前年度を下回る結果となった。

新型コロナウイルスが落ち着き、病棟も正常に稼働し始めれば放射線室の検査も増加すると考えられる。

2019～2020年度 統計

一般撮影

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	695	718	843	861	820	611	718	761	735	617	507	609	8495
2020年度	521	321	722	755	778	671	794	717	768	624	596	725	7992

CT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	317	272	312	348	309	283	348	333	293	303	326	307	3751
2020年度	282	265	306	319	291	298	392	268	292	288	271	313	3585

MRI

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	80	79	112	109	102	84	98	81	75	79	80	71	1050
2020年度	63	66	92	89	74	74	94	95	90	60	71	115	983

胃透視

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	12	22	27	30	10	18	20	25	18	9	8	11	210
2020年度	5	0	15	25	17	26	48	39	39	19	30	13	276

MMG

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	23	7	0	1	2	28	21	15	31	20	16	13	177
2020年度	7	2	22	34	26	33	36	27	33	32	34	24	310

臨床検査室

技師長 今坂 正生

職場紹介

1. 職員構成

臨床検査技師 5名 クラーク1名（パート）

2. 業務内容

1). 検体検査 血液、尿、糞便等の分析

2). 生理検査 心電図、超音波、呼吸機能、脳波、トレッドミル、眼底カメラ、脈波

3. 検査機器

血球計数器、血液ガス分析装置、電解質測定装置、生化学自動分析装置、心電計、

24時間ホルター心電計、トレッドミル、超音波診断装置、肺機能測定器、脳波計、筋電計、無散瞳眼底カメラ、血圧脈波計、24時間血圧測定器、簡易型睡眠時無呼吸検査装置

2020年度を振り返って

コロナ禍の中、特に4月、5月の緊急事態宣言中は健診業務が休止となり検査数が激減した。その時は検査室スタッフを2チームに分け感染リスクを減らすための交替出勤を初めて経験した。6月以降は、検査数も徐々に回復してきたが、電話診療などもあり前年度比100%には届かなかった。今後も更なる院内感染防止の向上に取り組んでいきたい。

2016～2020年度 統計

(件)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
血液検査	4113	3581	3976	4208	3655
尿、便検査	7321	7190	7987	8876	8497
生化学・免疫(院内)	7350	6998	7057	7317	5682
血液・生化学・免疫(外注)	11779	11596	11403	12130	11400
細菌検査	352	332	315	257	182
病理・細胞診	511	481	447	372	279
心電図(負荷含む)	3668	3783	3981	4706	4609
ホルター心電図	69	38	38	59	60
肺機能	228	213	315	324	52
腹部エコー	1333	1238	1337	1366	1187
表在エコー	492	437	570	537	530
心エコー	471	360	386	420	340
脳波	33	27	20	37	18
眼底カメラ	129	138	256	297	314
血圧脈波	74	45	142	177	159
その他	29	23	23	14	22

リハビリテーション課

課長 平島 哲也

職場紹介

1. 職員構成

課長 理学療法士 平島 哲也 課長代理 理学療法士 石元 淳也
主任 理学療法士 長谷川裕介 他 理学療法士 11名 作業療法士 9名 言語聴覚士 6名

2. 業務内容

- 1) 入院、外来患者治療・訓練
- 2) 各部署カンファレンス、ミーティング参加
- 3) 義肢・装具業者との業務調整
- 4) 退院前訪問指導・住宅改修案作成・調査実施

2020年度を振り返って

新型コロナウイルスの感染対策を求められる一年でした。リハビリはその業務の大半で患者様と密接する必要があり、スタッフの感染対策の徹底およびリハ課業務体制の変更が必要でした。

リハスタッフの病棟専従体制への移行・グループ訓練および屋外訓練（外出訓練等）の中止・外来リハビリの一時中止など影響は業務の多岐におよびました。

これにより、院内感染を回避することができたと考えています。今後も継続して感染対策を徹底しながら、より良いリハビリを提供できるよう、業務内容の検討を行う予定です

2020年度 年間統計

(単位数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
PT	入院	4041	3750	3808	3147	3828	3823
	外来	99	0	0	126	129	171
OT	入院	2695	2686	2857	2171	2398	2275
	外来	28	0	0	33	39	36
ST	入院	1863	2024	1986	1818	1883	1950
	外来	36	0	0	60	9	8

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
PT	入院	4190	3807	4205	3678	4024	4527
	外来	227	177	209	37	30	121
OT	入院	2552	2421	2646	2116	2009	2421
	外来	37	34	47	0	2	18
ST	入院	2108	1771	1998	1856	1827	2017
	外来	20	22	32	6	50	0

■ 栄養管理課

課長代理 馬場 ひとみ

職場紹介

1. 職員構成

病院側責任者：馬場 ひとみ 管理栄養士 3名

委託側：(日清医療食品株式会社) チーフ 村山 智江

管理栄養士2名 栄養士3名 調理師3名 調理員3名 食器洗浄パート6名

1日実働人数 8～9名

2. 業務内容

1) 給食管理：入院患者、付添食、職員食

2) 栄養管理：入院患者

3) 栄養指導：入院患者（糖尿病教育入院を含む）、外来患者、特定健診

4) 栄光病院健康教室講義⇒新型コロナウイルス対策にて開催されず

5) すこやかライフフェア展示⇒新型コロナウイルス対策にて開催されず

2020年度を振り返って

（病院の食事）例年の嗜好調査は春・秋に行っていたが、今年度は夏・冬に行い、季節の違いによる嗜好の変化を検証した。また、食材費高騰等でメニューの見直しを余儀なくされ、限りある食材費の中でより満足感のある食事の提供に努めた。

糖尿病教育入院患者に提供する療養食は、より教育に沿った献立を用意した。

（栄養サポート）糖尿病教育入院の栄養指導プログラムを作成し、指導に入る回数が格段に増えた。

新型コロナウイルス対策で NST 回診数は減少したが、栄養指導件数については昨年度を上回る件数となった。

2020年度 年間統計

食種別食数（単位：食）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食	10811	10554	10121	10221	9973	9454	9565	9878	10199	10104	9678	10404
特別食	1744	1619	1425	1626	1870	2145	1966	1410	1670	2114	2095	1956
合計	12555	12173	11546	11847	11843	11599	11531	11288	11869	12218	11773	12360

栄養指導件数（単位：件）

※入院にはケア病棟の栄養相談を含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	25	15	19	26	18	27	37	35	30	38	39	50
糖尿病透析予防指導	5	2	2	6	3	3	5	7	4	2	0	6
入院	8	6	9	16	10	17	19	34	15	27	15	19
合計	38	23	30	48	31	47	61	76	49	67	54	75
保健指導	3	0	7	5	4	4	7	4	3	1	5	5
総合計	41	23	37	53	35	51	68	80	52	68	59	80

職場紹介

1. 医療機器安全管理室とは

栄光病院を訪れる患者が安心して治療を受け、そして療養できるように、医療機器を必要時迅速に供給できるよう機器の整備、保守点検を主業務とする部署である。

2. 職員構成

職員：飯田 多佳子（臨床工学技士）

室長：的野 修一（臨床工学技士）

3. 業務内容

1. 医療機器保守点検計画作成
2. 医療機器保守点検
3. 医療機器修理対応
4. 医療機器貸出し対応
5. 医療機器に関する情報収集
6. 医療機器新規、入替え購入時の機種選定
7. 医療機器に関する研修会実施
8. 睡眠時無呼吸症候群検査調整
9. その他

2020年度を振り返って

2020年度は例年通り年度初めに作成した年間計画に沿って業務を進める中、新型コロナの影響もあり機器の貸し出し等に際し、いつも以上に清掃、消毒を徹底して行ったが患者減少の影響か、一部機器の在庫に多少余裕がある状況が見受けられた。また2020年度は2年に一度の輸液ポンプをはじめとするポンプ類のバッテリー交換の年であったため飯田技士により計画的にバッテリーの購入、交換を行い、すべての交換を修了することが出来た。また、オーバーホールは行っていたものの小型シリンジポンプ等の老朽化に伴う動作不備等のトラブルも多い年でもあったため、機器の入れ替も含め今後の対応を検討する必要があると思われた。

2021年度にむけて

2021年度は保有機器の老朽化、メンテナンス終了、部品の供給停止等もあり、今後状況を見ながら機器入れ替え等検討していく必要があるが、今まで通り機器が安全にタイムリーに供給できるよう日頃の業務に励んでいきたいと思う。

看護部

2020年を振り返る時、「コロナに始まり、コロナで終わった一年」そう思ったのはおそらく私だけではないと思います。昨年の「2020年度に向けて」にも書いたように全部部門、全部署が今まで当たり前に出来ていたことが出来なくなる、もしくはその方法の変更を余儀なくされる、また今までになかった作業が増えるなど、改めてその影響の大きさに翻弄された一年だったと思います。そのような状況の中、看護部においては2019年度の離職率が10%を大きく上回ってしまった反省から「離職率0%を目指して」を大目標に①部署内、部署間のコミュニケーションの円滑化に取り組み、連携体制を強化する。②人材育成と自己啓発の推進により、人材の手着を目指す。という目標を立て、下記のような部署作りに取り組んできました。

- ・辞めたくないと思う部署作り
- ・自分の居場所を見つけられる部署作り
- ・自分の必要性、重要性を自覚できる部署作り
- ・やりがいを持って働ける部署作り

その結果このコロナ禍において医療従事者の負担が増し、疲弊していく状況下においても離職率が2019年度を大きく下回る結果となったことは、2020年度の大きな成果であり、その手にゆだねられた患者を何としても守り抜くという看護師長をはじめとしたリーダーたちと「誇り」と「使命感」をもって日頃の看護に当たってくれた各部署のスタッフに只々感謝する次第です。

さて、2020年度が終わり2021年度に入っても状況は好転するどころか悪化の一途をたどっているようにも見えます。しかし、この状況は私たちが改めて本来の医療、看護、介護の在り方を考えなおす良い機会ととらえることも出来るのではないのでしょうか。栄光会看護部は2021年度看護部の理念に立ち返し、①看護部理念“優”の心を基にした安全で質の高い看護の提供 ②互いに認め合いスタッフ全員の笑顔と元気を支える職場づくり ③安定した経営への積極的参加という三つの目標を掲げました。2021年度はこの三つの目標のもと地域住民の健康と幸せを守るため、そして栄光会の理念である“癒し癒される”を実現するために看護部一丸となって日頃の業務に励んでいきたいと願っています。

栄光会看護部 理念

優

～やさしさ～

“人の^{うれい}憂を背負える^{やさ}優しい看護師であれ”

人が^{うれい}憂を背負うと書いて、“^{やさしい}優”と読む。

私たちは、患者さんの“^{うれい}憂”（悩み、悲しみ、痛み、苦しみ）を覚悟を持って共に背負い、常に寄り添う看護師でありたいと思います。

栄光会看護部基本方針

- 1:私たちは、安全、安心、安楽な看護の提供に努めます。
- 2:私たちは、看護の専門性を追求し、知識、技術の向上に努めます。
- 3:私たちは、協調と信頼のもと、チーム医療の推進に努めます。
- 4:私たちは、地域包括ケアに貢献する、看護の提供に努めます。
- 5:私たちは、やりがいを持って、働き続けられる職場づくりに努めます。
- 6:私たちは、組織の一員として、積極的な経営参画に努めます。

2019年4月1日 栄光会 看護部

2020年度看護部目標

“離職率0%を目指して！”

1：部署内、部署間の

コミュニケーションの円滑化に
取組み、連携体制を強化する。

2：人財育成と自己啓発の推進により、 人財の定着を目指す。

上記2項目には、スタッフ一人ひとりが

※ 辞めたくないと思う部署作り

※ 自分の居場所を見つけられる部署作り

※ 自分の必要性、重要性を自覚できる部署作り

※ やりがいを持って働ける部署作り

そんな思いが込められています。

スタッフ皆がこんな思いで働くことが出来れば、長く働いてくれる人財が増え、患者さんに対する看護にも自ずと還元されていくことと思います。そのために何に、どう取り組んでいくか、皆さんも考えてください。

2020年4月1日 師長会

2020年度看護要員推移

社会医療法人 栄光会 栄光病院 看護部長 的野 修一

(単位:人)

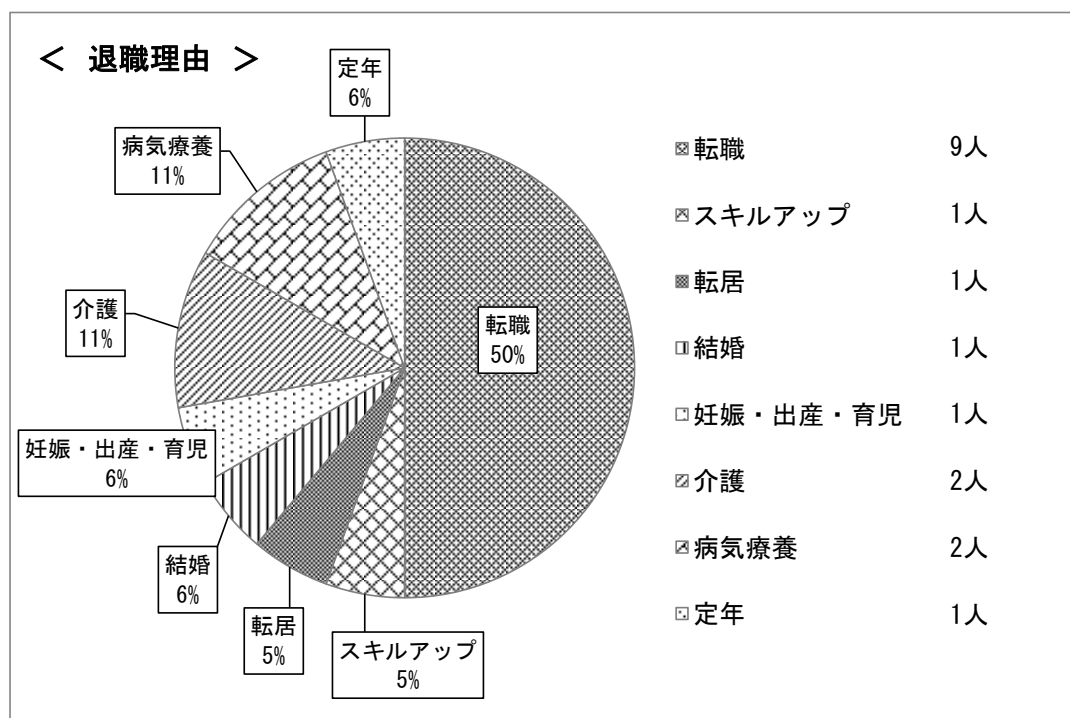
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
看護要員数 (月初値)	218	223	225	226	222	219	219
入職者数 (2日～翌月1日)	6	3	3			1	
法人内異動数 (2日～翌月1日)		+1 -1			-2		
退職者数	1	1	2	4	1	1	2

	11月	12月	1月	2月	3月	3月末日の 看護要員数	計
看護要員数 (月初値)	217	216	216	217	217	217 (注2)	
入職者数 (2日～翌月1日)			3	2	0 (注1)		18
法人内異動数 (2日～翌月1日)				+1			-1
退職者数	1		2	3			18

(注1) 2021年4月1日の入職者は含まれない

(注2) 2021年3月31日の退職者は含まれない

<退職率 8.3%>



職場紹介

1. 職員構成

師長代理:倉田 正子 主任:田羽田 裕子

他看護師 18名 (うち消化器内視鏡技師 3名、福岡糖尿病療養指導士 2名)

ケアワーカー 1名 クラーク 1名

2. 診療内容/業務内容

総合診療科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病内科

ホスピス、消化器外科、肛門科、整形外科、泌尿器科

3. その他の外来部門

中材、消化器内視鏡センター、(健診センター)

2020年度を振り返って

外来の2020年度目標は

『地域に根差した外来運営と外来看護の質の向上を目指しより良い患者サービスを提供する。』

1. お断り件数の減少、患者数と時間外初診率の増加。
2. 他部門、開放型、地域の病院との連携。
3. スタッフのスキルアップ。
4. 待ち時間の短縮。』

を掲げ一年間取り組んだ。

しかし今年度は今までに経験したことがない新型コロナウイルス感染症に関する様々な取組に追われた年度であった。慌しい中で常に標準予防策を念頭に置き、様々な状況を考慮しながら臨機応変な対応が求められた。発熱外来は法人の方針に沿った受入基準や、目まぐるしく変わる状況の中でスタッフの不安軽減の為に情報共有を最優先事項とした。

また今年度はコロナ禍による受診控え、インフルエンザの罹患数減少が大きく響き、時間外初診率の低下や患者数の低下が顕著であったが、専門外来の患者数は新患受付の問合せも多く減少はほぼなかった。

面会制限に伴う在宅患者増加に対し、突発的な体調不良にもスムーズに外来で対応できる様、関係各所や外来スタッフ間で必要な情報を共有し、患者さんとご家族が暮らし慣れた自宅で安心して過ごせる様に連携を図った。

待ち時間については声掛けやアナウンスを心掛け、待ち時間調査、予約票の変更も行ったがまだ十分とは言えず引き続き検討し改善できる様努めている。

スタッフのスキルアップは集合研修が限られた中で、オンデマンド研修の受講やコロナ禍においてPPE使用法の指導、再確認を行い知識不足による恐怖の軽減に努めた。

今年度は、コロナ禍に伴う不安な状況、平常時とは違う多忙さなどスタッフには負担を強いる場面が数多かったと思う。そのような中でもお互い協力し合いよりよい患者サービスの提供を念頭に、自分達に出来る事を精一杯取り組んだ。次年度は今年度得られた成果を継続出来る様、また新たな課題に向け検討改善に取り組んでいきたい。

職場紹介

1. 職員構成

師長：谷 幸子 主任：松藤 千代

看護師 23 名 看護助手 2 名 クラーク 1 名

2. 診療内容／業務内容

主として悪性腫瘍の患者又は後天性免疫不全症候群に罹患している患者が入院の対象者となる患者とその家族に対し「いのちの質の向上をめざす全人的ケア」をモットーに、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアをめざす。

2020 年度を振り返って

次のような目標に向けて取り組んできた。

1. 在宅：スタッフ全員が退院までのプロセスを理解できる

（家族への説明、社会資源の把握）

- ・退院時について困ったこと、不明点を聞き取り調査し、3 病棟合同の看護計画表を作成した。
- ・退院指導計画に基づいて、退院支援プランを組み立てたが、使用回数は少なかった。

2. 教育：病棟の e ラーニング受講、院内外の研修への参加率アップにむけて取り組み

- ・e ラーニング視聴は 2 ヶ月に 1 度ピックアップしたテーマを 100% 視聴するまで声掛けその内容に沿ったフリートーキングを実施した。
- ・院外研修、集合研修は新型コロナウイルス感染対策の為、参加できなかった。

3. 環境（患者サイド）：ベッドサイドの生活環境の整備

- ・毎月目標を挙げて、毎朝・夕のミーティング時に声掛けしていたが、周知徹底ができない為に抜き打ちチェックを行い、意識付けを図っていった。
- ・出来ていない所は、チェック表を活用し環境整備を行えるよう声掛けを行っていった。

4. 環境（看護師）：よりよく働ける環境づくり

- ・カルテチェックリストの運用でカルテ整理の意識付けが行えた。
- ・5S 活動を行い、働きやすい環境作りをしていくことが出来た。

5. こころのケア：来年度もこの職場で働きたいと思える

- ・1 ヶ月に 1 回フリートーキングを実施し、個々の意見を確認していった。
フリートーキングに参加できていない人もいたため、同じテーマで 2 回行い、言葉に出して伝える環境を作っていた。
- ・困ったことについてフリートーキング行い、自分の意見を言える環境を作っていた。

2021年度に向けて

1. 教育

- ・上半期テーマ：己を知る・他人を知る
- ・下半期テーマ：全人的苦痛を考える

2. 業務改善

- ・カンファレンスの充実

3. 療養環境整備

- ・看護師が気付いて

4. 働く環境

- ・スタッフの気付きをルール化して定着を図る。
- ・働きやすい環境を作る

5. 物品・備品整備

- ・資源を大切に使う
- ・毎月備品を重点的に整備していく

年間統計

病棟稼働状況

2020 (R2)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均患者数(目標23)	21.1	18.2	19.9	20.8	19.1	20.6	17.9	17.5	18	16.7	19.8	18.5
稼働率	88%	76%	83%	87%	79%	86%	74%	73%	75%	70%	82%	77%
のべ患者数	633	563	596	645	591	618	554	525	558	519	554	575
平均在院日数	33.3	27.6	23.4	38.1	31.8	33.2	33.8	30.8	47.2	39.1	34.7	40
転・入院患者数(転入数)	20	16	27	16	19(2)	16(1)	18	16	9(1)	15(1)	15	13
退院患者	17	22	22	17	17	20	14	17	14	10	16	15
(うち在宅移行)	4	6	4	5	3	9	1	1	5	0	2	4
在宅移行率	24%	26%	14%	29%	18%	45%	7%	5%	36%	10%	13%	27%
直近1年間平均在宅復帰率	25%	25%	24%	26%	26%	26%	26%	24%	24%	22%	21%	21%
平均待機日数	2.3	2	1.11	2.5	3.47	3.88	2.06	2.06	2.89	3.25	2.47	2.77

年間入院患者数200名 年間退院患者数202名(うち看取り患者数156名)でした。

訪問診療、訪問看護との連携により在宅での不安が軽減され、在宅で過ごす時間を持つ方が増え、緩和ケア病棟入院料Iの基準である、直近1年間の在宅復帰率が15%以上を達成できた。

職場紹介

1. 職員構成

看護師：21名（うち緩和ケア認定看護師1名） 看護助手：2名 クラーク：1名

2. 業務内容

3 B 病棟のミッションに沿ってがん終末期ケアをおこなう

3 B 病棟ミッション

- 1) ホスピス病棟の基本理念（患者とその家族に対し『全人的ケア』をモットーに症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアを目指す）に沿ったケア提供を継続できる
- 2) 個々が経営参画の意識を持ちつつ、質の高いホスピスケアを提供できる
- 3) これまで培われた組織力を次世代に継承できる
- 4) 個々がプロフェッショナルとしてビジョンを持ち、お互い切磋琢磨することができる

2020年度を振り返って

2020年度病棟テーマ：development ～育んできたものを発展させよう～

2020年度 3 B 病棟目標・計画・実際

I. 働きやすい職場風土を土台とした積極的な経営参画に努めることができる

1) 働きやすい職場風土の維持・促進

①哲学対話の開催

各個人の考え方などを知り理解することにより、チーム力を高める

②スタッフの特技を活かした、イベントの企画、開催

哲学対話をおこない、各スタッフの考え方や物の捉え方を知る事でチーム力向上につなげた。

イベントは COVID-19 の影響で思うように活動できなかったが、出来る範囲でウクレレ演奏やクリスマスカードの企画開催を通し、スタッフ間で協力する風土の維持・促進に寄与できた。

2) 経営改善を視野に入れた業務改善

①リクルートを目的とした看護部のホームページリニューアル活動

②1回/月 業務改善（経営を視野に入れた）活動を行う

他施設のホームページを参考に、ホームページ改定案を提出できた。また SNS 開設を計画し企画書作成にも取り掛かる事ができた。

始業前残業短縮に向けての活動もおこない、就業後残業時間の短縮にも寄与できた。

Ⅱ. 他部署との連携力を活かした地域包括ケアシステムの構築

1) スムーズな退院支援・退院調整におけるシステムの発展

①ホスピス3病棟統一した退院計画プロトコルの作成

②退院カンファレンスシートの作成

③ホスピスカンファレンスで入院患者1か月・3か月評価を行い適切な療養場所の検討
プロトコルも在宅退院カンファレンスシートもほぼ完成。しかし対象患者が下半期に少なく、
活用評価はあまり進んでいない。
療養の場の検討は、ホスピスカンファレンスで開催できている。

2) 他部署との連携力を活かした外出・泊におけるシステムの構築

①外出・外泊マニュアルの完成

②外出・外泊・退院時パンフレットの見直し・修正

③外部の訪問看護ステーションなどのコメディカルとの茶話会開催のみにteaセッション実施。
外出・外泊時のフローチャート完成、パンフレットの整備もできた。
茶話会に関してはCOVID-19の影響で開催は叶わなかった。

Ⅲ. 知識技術の向上を行い安心安全安楽な看護を提供できる

1) 専門的・全人的な質の高いケアを提供できる人材育成の維持・促進

①患者・家族の思いに寄り添ったケアを深める

②eラーニング・外部研修への参加の促進、伝達講習・報告書提出のシステム化

面会制限中の家族との連絡ノート作成や、廊下の壁の季節を感じさせる写真の展示などを通し、
患者・家族より良い評価を得ることができた。
定期的な1分間スピーチも全スタッフに依頼し開催。eラーニング視聴ススメポイント活用できて
いた。

2) 接遇の向上と倫理感を持った安心、安全、信頼できるケアの提供

①気づきのセンスの向上、患者サービスに活かす

②安心安全やマナー、倫理を含めたフリートーキングをおこない、接遇向上に努める

気づきノートを作成し、接遇のポイントの提示や家族への案内カード作成など、患者（家族）サー
ビスに活かすことができた。そのことが信頼できるケアの提供に繋がった。

2021年度に向けて

2021年度3B病棟テーマ： development ～育んできたものを発展させよう～

2021年度3B病棟目標

I. 質の高い専門的ケアを通して、安心・安全・信頼できる看護を提供する

1. 接遇・倫理観を含めた患者・家族が中心となる看護の知識・技術の向上（瀧間チーム）
2. 最適な療養の場をアセスメント・調整できるスキルを高める（白水チーム）

Ⅱ. 働きやすい職場風土の維持・促進

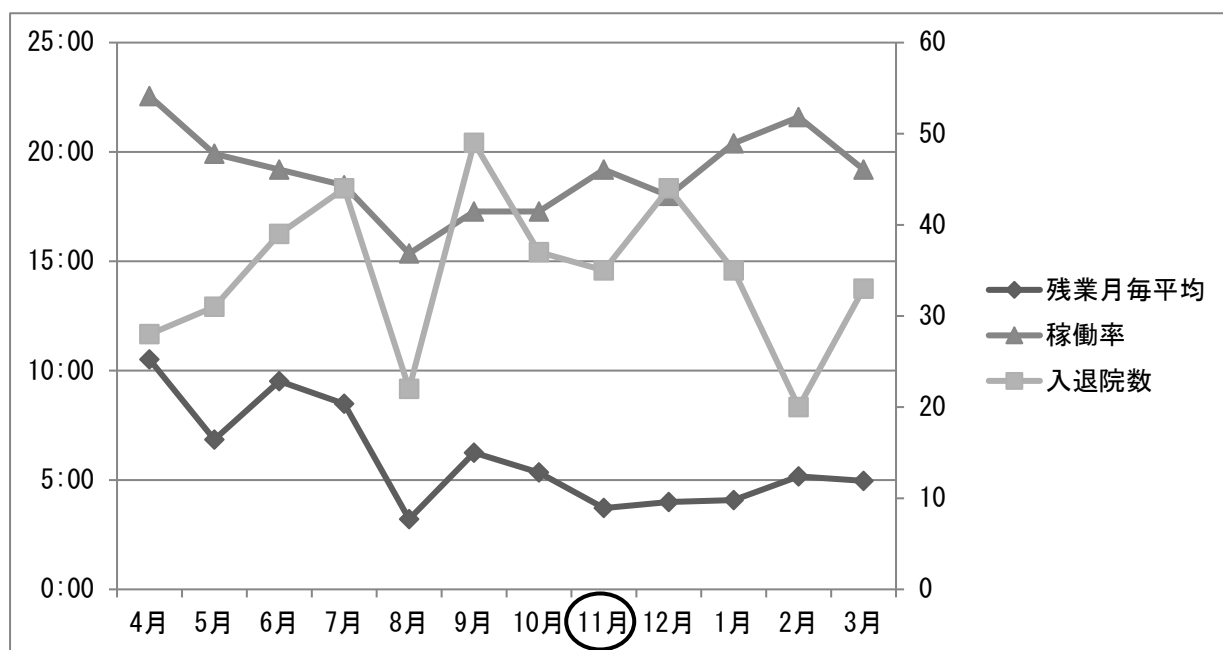
1. 多職種・他部署との連携力の向上（松野チーム）
2. スタッフ同士が支え合う事ができる環境の調整（永松チーム）

Ⅲ. 積極的な経営参画

1. コスト意識を高め、広報活動も視野に入れた業務改善（鹿毛チーム）

年間統計

始業前残業時間短縮の取り組みにおける就業後残業時間の推移



11月末より経営改善を視野に入れた業務改善チームを中心に始業前残業時間の短縮に取り組んだことで、申し送り時間も短縮し、就業後残業時間も短縮する結果となった。
この取り組みは、現在も継続している。

職場紹介

1. 職員構成

師長：神信 美砂

主任：村勢 加寿代

看護師 22 名（うち緩和ケア認定看護師 1 名、がん性疼痛認定看護師 1 名）

ケアワーカー 2 名、クラーク 1 名

2. 業務内容

栄光病院ホスピス病棟の基本理念である「患者とその家族に対し全人的ケアをモットーに、症状マネジメント・コミュニケーションを基軸に、家族への援助を行いつつ、スピリチュアルケアを目指す」に沿ってホスピスケアを提供する

2020 年度を振り返って

病棟目標：認め合う、ゆるしあう、支えあうチーム作りで、自分の強みを活かした
ホスピス看護の提供

実践： 1. 看護実践の役割モデルとなるリーダーシップを発揮する人材を育成する

- ① チームリーダーを理解するために事前レポート（看護観や目指したい病棟）を提出してもらい、面談する
- ② 1 年を通してチームでやりたいテーマを話し合ってもらい決定する
- ③ チーム目標と行動計画をチームで立案しリーダー会で発表する
- ④ 毎月のリーダー会で進捗状況の報告と、お互いのチーム活動に対して意見交換する
- ⑤ 病棟会でチームが企画した学習会を実施する

2. 定期の個人面談でスタッフの考えを知る

- ① 今までの臨床経験から、自分の強みをホスピスケアにどのように活かしていくか一緒に考える
- ② ホスピスで働く目的や意味についてアンケートをとり面談に活かす

結果評価：1 年間を通してのチーム活動は異動や休暇、中途採用でチームリーダーやメンバーが変わったがチームで協力して最後までやることはできた。各チームとしての達成感・満足度・がんばり度は 5 点満点の平均 4 点で評価はよかった。

しかし、個々の様々な経験や価値観が良くも悪くも、他者の考えを受け入れられない壁となっており、非公式の場で態度として表現されることがあった。

そのことで、カンファレンスの場で安心して自分の考えを伝える困難さを感じているスタッフがいる。活発なカンファレンスを実施できるための環境作りが今後の課題と考える。今年度はマニュアル的な見直しが主なことであったため、来年度以降は退院支援の質の向上につながる取り組みが必要である。

2021年度に向けて

2020年度はコロナ禍による面会制限やイベント縮小となり、行き届いたホスピスケアができていたかは不明である。特に、家族ケアについては面会制限の中改めて困難さを感じた。

医療者と家族間のコミュニケーションを密に細やかにとることで、様々な認識の違いや誤解を最小限にすることができるようにしていく。

また、カンファレンスの充実のためにも自分たちの価値観を自由にもち積極的に自分の考えを相手に伝えることができるコミュニケーション力をつけることや、安心して発言できる場の環境を作る必要がある。

2021年度病棟目標

1. 倫理カンファレンスの実施により、自分たちの倫理的課題に気づく力を高める
2. やりがいにつながる看護を実践するために、チームメンバーのやりたい看護をチームで支援する
3. 入院受けの体制作りで稼働率85%、1日平均患者数19.5名となる

年間統計

2020年度2C病棟入退院患者統計

入院数	退院数	死亡退院	予定外入院数	1日平均患者数	平均病床利用率	平均在院日数	平均待機日数
214名	221名	132名	71名	17.8名	77.6%	29.9日	2.93日

職場紹介

地域包括ケア病棟入院基本料1 算定
看護基準 13:1以上

1. 職員構成

医師： 外科医師 2名（病院長・外科部長） 外科・整形外科他担当
内科医師 3名（内科部長・総合内科部長・糖尿病専門医） 呼吸器・消化器内科他
看護師：23名
師長代理： 石田 美千代
主任： 岡崎 祥子
副主任： 藤田 皆奈（退院支援業務） ・ 増山 明子
（糖尿病療法指導士3名、災害支援看護師1名）
看護補助者：5名
主任：佐藤 久美
（介護福祉士2名）
病棟クーク：1名

2. 業務内容（地域包括ケア病棟）

地域包括ケア病棟（病床）には、3つの役割があるとされています。

1. ポストアキュート：急性期治療を経過し病状が安定した患者
2. サブアキュート：自宅や介護施設等において急性増悪した患者
3. 在宅復帰支援：在宅療養に不安のある患者

この3つの役割を果たすために、院内・地域内多職種協働による退院支援を実践することで地域において切れ目のない医療提供を行い、「ときどき入院 ほぼ在宅」を目指しています。

2020年度を振り返って

<病棟目標>

1. 職員満足度を上げ働きやすい職場を作る

①離職率10%以下

②パートナーシップを発揮し、お互いがフォローし合い豊かな絆を育む

日々の業務の中で、声を掛け合い『互助』の関わりをみんなで築き上げる関わりことができている。

「ありがとうございます」のスタッフ間の会話も多くみられた

③それぞれの強みを尊重し、生かせる場を作ることによってON・OFF共に満足度を上げる

④業務改善チームを中心に残業を減らす取り組みをする

処置表のリニューアル：医事課と相談し記入しやすくなった

持参薬の処理アンケートを作成し集計：入院時からの持参薬の検討、処方箋の処理方法の検討

2. 選ばれる温かみのある病棟を目指す

①入院患者を大事にし、専門職としての臨床力・人間力を磨き、安心・安全な看護・介護ケアを提供することで地域の方の信頼を得る

⇒eラーニングを積極的に視聴し活用することで専門職としての知識・技術を磨いた

②プライマリーが入院時から積極的に退院調整に関わり、多職種と連携し退院支援を行う
退院支援チームの発足、退院支援一覧表の運用、入退院支援カンファレンスの実施

③患者が過ごしやすい環境作り

(不必要な抑制はしない・安全で清潔な環境整備の徹底) ⇒毎朝ミーティングでの検討実施

3. 専門職としての品格を上げる

①私的な話は休憩室で行い、ナースステーションではない

気を付けてはいるが時に話してしてしまうことがあり、お互いに業務中であることを意識する

②患者・家族に対しては敬語で話し、TPOに適した対応ができる。

(time:時間・place:場所・occasion:場合)

<すてき*栄光ナース>

患者さんにご家族に安心・信頼・満足をお届けするために整えます。

言葉・態度・身だしなみ

チームワークで業務に取り組もう

目配り・気配り・心配り

今日も一日元気に笑顔で！！ ⇒毎朝、夜勤からの申し送り後、リーダーが読み上げて仕事開始

③スタッフ全員が共通意識を持ち、ジャンセンやデスカンファレンスを通して、質の良いカンファレンスを行い自己の振り返りや日常業務、看護・介護ケアに繋げていく

2021年度にむけて

<取り組むべき課題>

1. 時間外勤務を改善し退社できる職場環境づくり

①スタッフの欠員期間中、看護ケアの質を維持・継続していくための検討

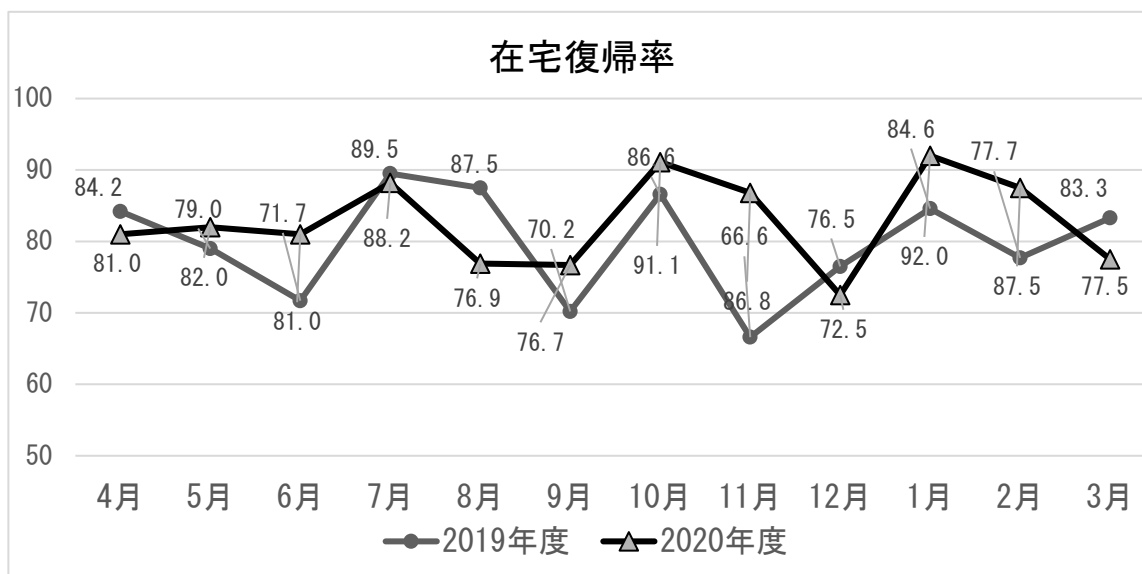
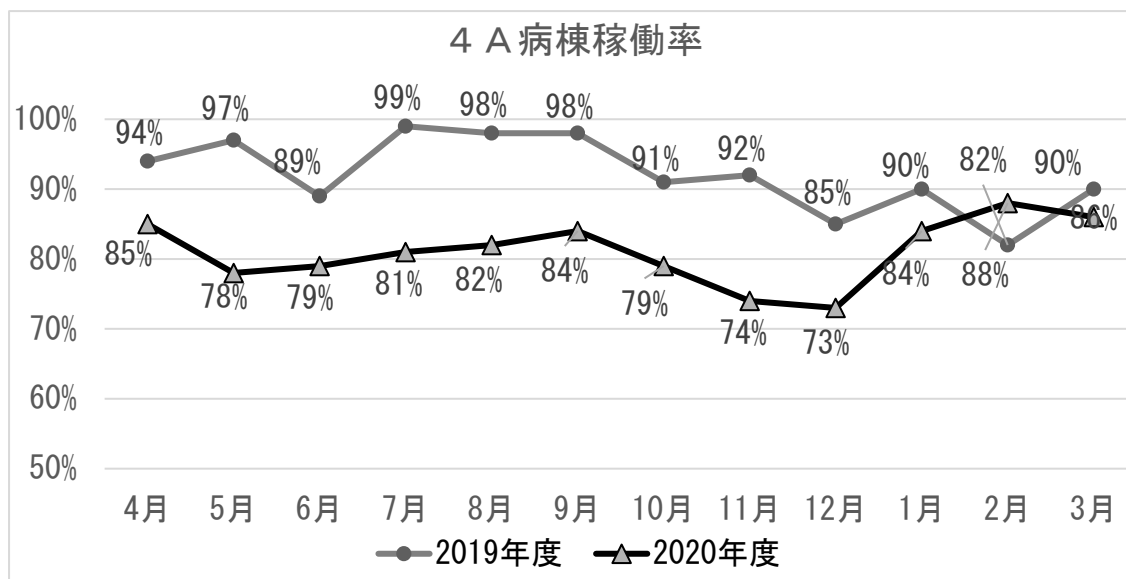
②薬剤処理等に係る手順の横断的(薬剤課・医局を含め)な見直し

2. 退院支援体制の構築

①患者サポートセンター、退院支援チームとの更なる協働

3. 病院機能評価受審の準備

2020年度 統計



職場紹介

1. 職員構成

看護師 20名 看護補助者 6名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

<病棟基本方針>

- ①地域の神経難病患者を主として受け入れていきます
- ②入院患者のADLを維持し、QOLを高めることで継続的で安全・安楽な医療看護を提供します
- ③癒し、癒される関係の構築を図ります
- ④レスパイトを通して在宅医療の支援を図ります

<4 B病棟の目指すべき医療・看護>

多職種専門職によるチーム医療を基本として、神経難病及び障害を持つ患者の療養生活におけるQOLの向上を目指す

<入院患者状況>

神経難病を主に対象とする病棟。主な疾患名は、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症など。

主な入院目的は、①病状評価のための検査 ②身体機能維持・向上を目指したリハビリ

③症状マネジメント ④合併症治療 ⑤呼吸器装着、胃ろう造設・交換 ⑥レスパイトのための短期入院 ⑦在宅療養指導 ⑧医療依存度の高い患者の長期療養～看取りケアなどへの対応を行っている

<病床数> 28床

2020年度を振り返って

【病棟目標】

1. 安心・安全な看護の提供

<評価>

医師及びリハビリスタッフによる勉強会開催などを通して、神経難病病棟としてのノウハウの蓄積に取り組んだ。デスカンファレンスや難渋症例などの振り返りにより、倫理的ジレンマや対応方法についてもチームで共有していった。

2. チームアプローチの充実

<評価>

診断カンファレンスにリハビリスタッフの参加を行うことを通して、患者状況の把握や目標の共有を図った。

3. 意思決定支援の充実

急変時処置や今後の経過についての意思決定など、進行性の疾患である神経難病患者が抱えるテーマに対し、より積極的に介入を進める必要性について学ぶ機会が多かった。次年度の課題とする。

2021年度にむけて

1. 神経難病病棟としてのノウハウを蓄積し、患者にとって安心・安全な看護を提供する
2. 意思決定支援の充実を図り、患者・家族の価値観を大切にした看護を提供する

職場紹介

1. 職員構成

師 長：下稲葉 道一 主 任：古賀 直子 副主任：平山 好恵
看護師 18名（上記含む） ケアワーカー 6名 クラーク 1名

2. 診療内容／業務内容

回復期リハビリテーション病棟

脳血管疾患や骨折術後など患者さんの急性期治療が終わり、リハビリテーションを集中的におこなう病棟となります。

在宅復帰を目標に各職種専門性を活かし、各患者さんにあった効率的なリハビリテーションを提供します。

2020年度を振り返って

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、1年間感染対策に奮闘する日々でした。その中でも入院中の患者さんには、面会制限や外出外泊禁止等の更なる制限が加わり、大変なストレス下での入院生活となっています。少しでも緩和できればと、工夫と努力をしているところです。この状況の中でも、在宅復帰を目指しリハビリに取り組まれている患者さんを見ると、頭が下がる思いです。

また、ご家族も入院中の患者さんの状況が分らず不安な思いでいるため、電話で日々の状況を伝えたり、Zoomでの面談やリハビリの様子を撮影し、家族会の時などに見て頂きました。

2019年度よりチーム力を高めるため、病棟スローガン「一致団結」を掲げました。

このスローガンも2年目となり、病棟一丸となって対応することが出来たと感じています。

また、職員も感染のリスクと医療従事者として様々な制限の中、大変な思いをしながら業務に励んでいます。

リハビリが一時的に停止した事もありましたが現在、クラスター等の発生はなく経過できており感謝です。

2020年度の病棟目標に

- I. 他部署との連携強化：コミュニケーション能力向上
- II. 業務効率の向上
を設定しました。

I. について

今年度は、コミュニケーション能力向上のため、コミュニケーション向上チームを中心に勉強会を実施しました。自分自身を見つめ直す良い機会になりました。

また、リハビリとの連携・業務改善のため毎週会合を持ち、問題可決のためスピード感を持って対応していきました。

まだまだ、コミュニケーション不足から来る連携不足があり、継続した取り組みの必要性を感じました。次年度も継続課題にしていきたいと思います。

Ⅱ. について

内服薬に関する管理方法の改善の必要性を感じ、各スタッフの意見を取り入れながら、今年度末に実施することが出来ました。実施しながら評価にもう少し時間を要しますが、効率的で完全性も高まったと感じています。

その他、オムツ表の改善や申し送りの時間短縮への取り組みを実施、看護助手業務の見直しやマニュアル変更等おこない、効果を上げることが出来ました。

2021年度にむけて

◇病棟スローガン

『一致団結』

◇5A病棟のあるべき姿

『在宅復帰』

1. 患者個々にあった看護・支援をおこなう
2. 【連携】各職種の専門性を活かし、効率的なりハビリを提供する

◇病棟目標

1. 安全で質の高い看護・介護の提供
2. 他部署との連携強化
3. 経営への積極的参画

年間統計

	平均病床率	在宅復帰率	重症者	重症者4点 (FIM16点) 以上改善
基準値		7割以上	3割以上	3割以上
2020年度 実績	88.2%	82.0%	38.3%	57.6%

医療事務

職場紹介

1. 職員構成

課長	増田	こずえ						
主任	上條	憲一	豊福	稔				
副主任	森岡	直美						
入院担当	山田	留実	久芳	志穂				
外来担当	城戸	綾乃	深野	良太	定村	千香子	藤本	悟史
							澤井	紋也
計 11 名								

2. 業務内容

- ・ 窓口受付
- ・ 会計業務
- ・ 診療報酬請求（レセプト作成・点検・総括・請求）
 - 外来（在宅医療含む）：月平均 2000件
 - 入院：月平均 250件
- ・ 各種文書受付
- ・ 未収金管理
- ・ 他院からの問い合わせの対応等

2020年度を振り返って

- 京セラ式病院原価管理手法導入後（2014年7月開始）、診療報酬請求後のデータを「病棟別」・「診療科別」・「医師別」に集計し現在も継続している。診療報酬請求後の査定内容については、医局の先生方に報告を行い、部署内でのミーティングや、勉強会を通して把握することに努めた。
- 2020年度は、COVID-19感染症対策に奔走した1年でした。「電話再診」「入院患者家族の面会制限」など、これまでにはほとんど無かったことが始まり、職員一丸となり対応した。
- 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時・特例措置」に基づく加算点数や新規点数などが次々と決まり、最新情報の収集に努めた。
- 2020年10月より、レセプトの「摘要」欄へ「診療内容の入力」と「コード番号」の入力が必須になり、両方の入力がないものについては、返戻対象となった。
- 経費についてはコスト削減を意識し、未収金については、他部署と連携し早期の対応を継続して行った。
- 患者対応では「接遇向上」に努めた。

2021年度にむけて

- 「法人全体の収入増加ならびに患者満足度向上を支援し、法人の必要収益の確保をサポートする」ことを部署のテーマとし努力していきます。

診療情報の精度向上に努め、スタッフ間における情報共有の支援者として
業務の円滑な遂行を図る

職場紹介

1. 職員構成

課長代理 中牟田 美千代
室 員 中畑 順子

2. 業務内容

- 1) 入院診療記録の保管管理
- 2) 入院診療記録の整理・点検
- 3) 退院時要約（サマリー）の早期推進と管理
- 4) 国際疾病分類（ICD-10）に基づく疾病コーディング
- 5) 「診療情報管理システム」へ情報登録、統計業務
- 6) 入院診療記録のアリバイ管理、貸出業務
- 7) 「DPC退院患者調査」データの作成業務
- 8) 全国がん登録データ作成業務
- 9) 診療情報管理委員会の運営

2020年度を振り返って

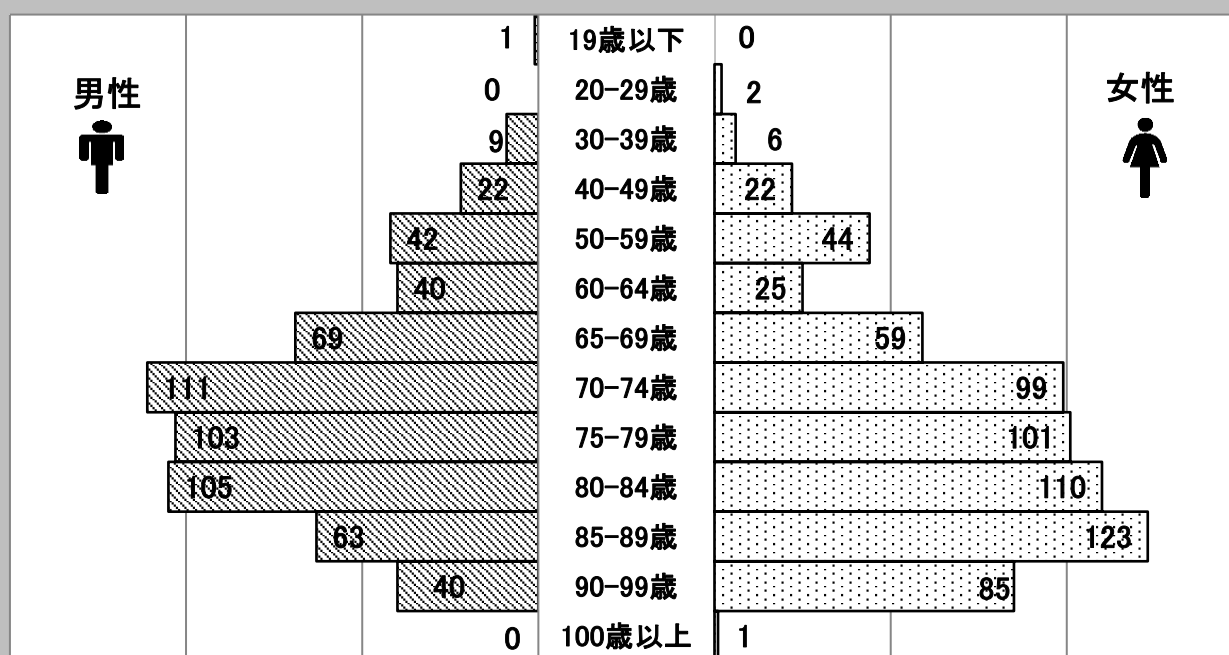
本年度も診療記録記載の充実を目指し記録の見直しや点検を行い診療記録の向上に努めた。

退院14日以内サマリー作成率は、先生方にご尽力いただき毎月90%以上を維持できている。

DPC退院患者調査においては、2020年度は医療保険、介護保険のレセプト情報等のデータベースとDPCデータを連結させるために、新たに生年月日・性別・氏名（カナ）を含む

「Kファイル」が追加された。また地域包括ケア病棟入棟／退棟のADLスコアも新規に追加され、要介護度・要介護情報が入力必須となった。毎年度調査項目の見直しが行われるが今後も柔軟に対応していきたいと思う。

男女別/年齢階層別 全病棟退院患者件数 (総件数:1,282件)



地域包括ケア病棟 疾病中分類別・上位疾病別・病名数

番号	順位	分類名	件数	構成比 (%)	延べ在院日数	平均在院日数	平均年齢
1	1	腸のその他の疾患	35	8.0	473	13.5	75.5
2	2	糖尿病	34	7.7	428	12.6	62.1
3	3	その他の型の心疾患	27	6.2	853	31.6	87.1
4	4	筋障害	25	5.7	1,140	45.6	82.3
5	5	外的因子による肺疾患	18	4.1	719	39.9	82.1
6	6	代謝障害	15	3.4	487	32.5	74.4
7	6	胆のう・嚢、胆管及び膵の障害	15	3.4	337	22.5	75.4
8	8	食道、胃及び十二指腸の疾患	14	3.2	316	22.6	79.1
9	8	消化器系のその他の疾患	14	3.2	165	11.8	72.3
10	10	脳血管疾患	13	3.0	531	40.8	78.2
11	10	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	13	3.0	495	38.1	76.0
12	12	皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	12	2.7	285	23.8	83.5
13	12	消化器の悪性新生物〈腫瘍〉	12	2.7	370	30.8	80.3
14	12	胸部〈郭〉損傷	12	2.7	562	46.8	76.5
15	15	腸管感染症	11	2.5	123	11.2	65.5

対象期間の総退院件数:439件

障害者施設等病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① G12 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	計	19	32.2
	男	7	36.8
	女	12	30.0
② G20 パーキンソン病 G21 続発性パーキンソン症候群	計	15	25.4
	男	5	26.3
	女	10	25.0
③ G90 自律神経系の障害	計	8	13.6
	男	2	10.5
	女	6	15.0
④ G23 基底核のその他の変性疾患	計	4	6.8
	男	2	10.5
	女	2	5.0
⑤ G31 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	計	3	5.1
	男	0	0.0
	女	3	7.5

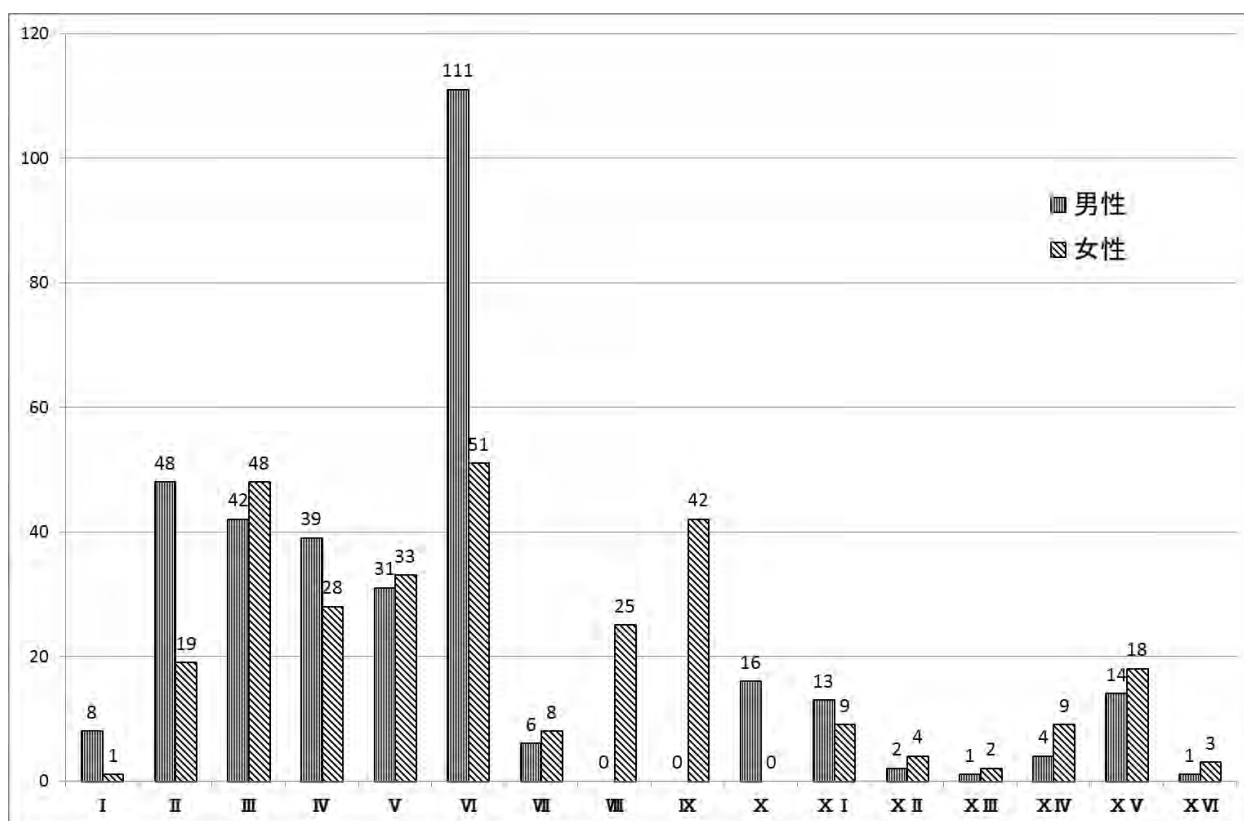
総退院件数	計	59	100.0
	男	19	32.2
	女	40	67.8

回復期リハビリテーション病棟 上位疾病割合

		件数	構成比(%)
① 脳梗塞	計	37	25.0
	男	21	30.0
	女	16	20.5
② 大腿骨骨折	計	29	19.6
	男	6	8.6
	女	23	29.5
③ 脳内出血	計	22	14.9
	男	13	18.6
	女	9	11.5
④ その他の骨折	計	21	14.2
	男	8	11.4
	女	13	16.7
⑤ 頭蓋内損傷	計	7	4.7
	男	4	5.7
	女	3	3.8

総退院件数	計	148	100.0
	男	70	47.3
	女	78	52.7

緩和ケア病棟 男女別・悪性新生物部位別 件数



部位		男性	女性
I	口唇、口腔及び咽頭	8	1
II	食道、胃	48	19
III	小腸・結腸・直腸・肛門及び肛門管	42	48
IV	肝・肝内胆管・胆嚢及び胆道	39	28
V	膵	31	33
VI	呼吸器及び胸腔内臓器	111	51
VII	中皮及び軟部組織	6	8
VIII	乳房	0	25
IX	女性生殖器	0	42
X	前立腺	16	0
X I	腎盂・腎・尿管及び膀胱	13	9
X II	眼、脳及びその他の中枢神経系	2	4
X III	甲状腺	1	2
X IV	部位不明	4	9
X V	リンパ組織、造血組織及び関連組織/骨髄異形成症候群	14	18
X VI	その他	1	3

【診療圏別・男女別・退院患者件数】

診療圏	合計	糟屋郡志免町	糟屋郡宇美町	糟屋郡篠栗町	糟屋郡須恵町	糟屋郡新宮町	糟屋郡久山町	糟屋郡粕屋町	福岡市東区	福岡市博多区	福岡市中央区	福岡市南区	福岡市西区
男	605	162	84	20	53	3	4	36	38	104	6	19	2
女	677	186	79	17	71	2	6	34	35	130	10	17	4
計	1,282	348	163	37	124	5	10	70	73	234	16	36	6
構成比(%)	100.0	27.1	12.7	2.9	9.7	0.4	0.8	5.5	5.7	18.3	1.2	2.8	0.5

診療圏	福岡市城南区	福岡市早良区	大野城市	春日市	古賀市	宗像市	福津市	太宰府市	筑紫野市	前原市・糸島市	那珂川市	大牟田市	柳川市
男	2	4	17	8	2	1	1	12	17	—	—	—	1
女	2	4	18	5	2	—	1	10	11	2	1	1	—
計	4	8	35	13	4	1	2	22	28	2	1	1	1
構成比(%)	0.3	0.6	2.7	1.0	0.3	0.1	0.2	1.7	2.2	0.2	0.1	0.1	0.1

診療圏	八女市・八女郡	朝倉市・朝倉郡	北九州市	飯塚市	直方市	京築 (行橋市・豊前市・ 京都郡・築上郡)	その他(九州内)	その他(九州外)
男	—	1	1	—	1	1	4	1
女	1	3	8	2	—	2	9	4
計	1	4	9	2	1	3	13	5
構成比(%)	0.1	0.3	0.7	0.2	0.1	0.2	1.0	0.4

**栄光会ファミリークリニック
栄光会訪問看護ステーション**

職場紹介

1. 職員構成

院長 波多江登喜子

副院長 田崎英範

医師 青戸雄司(在宅診療)、眞柴温一(水曜日)

看護師 堤千香子、小林千恵、久保山佳子、馬場恵美子、石井咲紀、田中節子、池松千沙

医事課 安河内晶子、深江美幸、下田律子、南里郁子

2. 診療内容

内科、呼吸器内科、アレルギー科、在宅診療(在宅療養支援診療所)

小児科

2020年度を振り返って <内科>

5月1日より「栄光会こどもクリニック」と「亀山クリニック」が合併し「栄光会ファミリークリニック」として新しくスタートし、0歳から100歳以上までの患者さんを診させていただくことになりました。

内科はCOVID-19感染症のために電話再診などで対応することもありました。また、皆さんがマスク着用、手洗いなどの感染対策を行っているため感染症が少ない年度でした。インフルエンザも一例も発症しませんでした。逆にCOVID-19感染症に対応するため発熱外来を設置しPCR検査を福岡市や粕屋郡に依頼することも頻回でした。幸い一例もCOVID-19感染症の陽性者はありませんでした。

2020年度の特徴は訪問診察の件数が150名前後まで増加したことです。これはCOVID-19感染症の影響よりも高齢者の増加と経済的に施設入所が困難なため自宅療養を希望される方が多くなったためと考えられます。しかし、そのために午後は訪問診察に専念することとなり外来診察は午前のみとなりました。

禁煙外来、アレルギー性鼻炎に対する免疫舌下療法、睡眠時無呼吸症候群の治療、肺がん検診も継続して行いました。

小児科と合併することにより子ども達の親、祖父母世代の方が内科受診を合わせて行うことができるようになり患者さんにとって便利になった印象です

2021年度に向けて <内科>

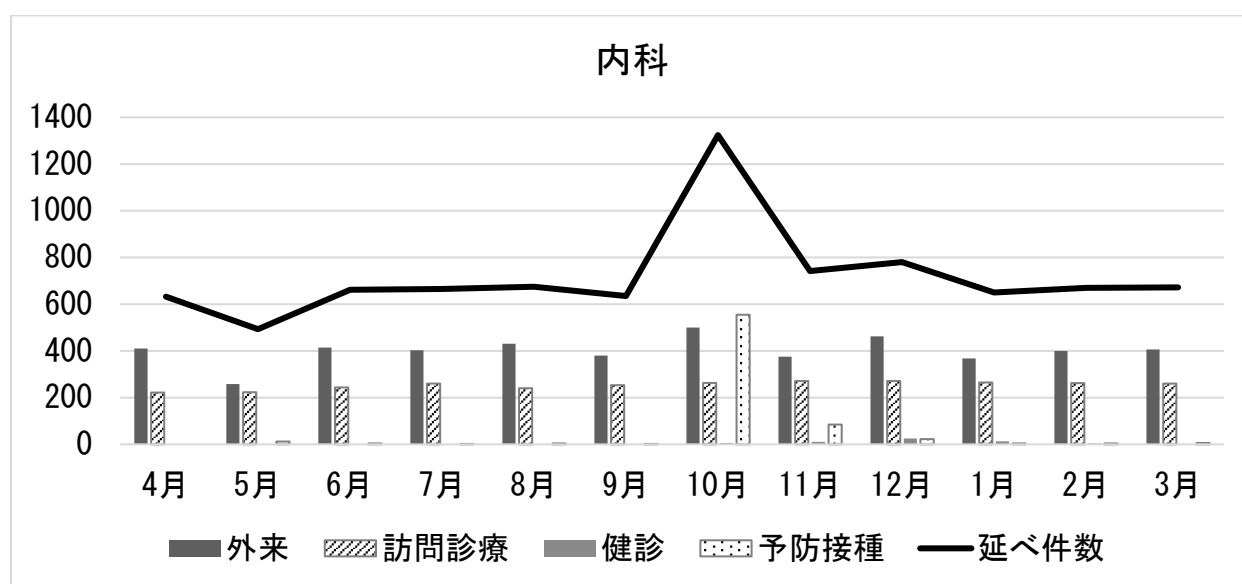
まだまだ、COVID-19感染症との戦いが続いています。ワクチン接種もやっと医療従事者が4月中旬から高齢者の方が5月末から始まりました。ワクチンの配給自体がスムーズに行われないため予約などかなりの混乱がみられています。ワクチンの効果期間が約半年と言われているので第一次(2回接種)が終了したころには、新たに第二次の摂取時期が訪れ、2020年秋と同様にインフ

ルエンザ予防接種も大規模に行わなければならないのではないかと思います。その間に品不足になっている肺炎球菌ワクチン接種、また、最近高齢者に増えている帯状疱疹の予防接種も必要です。一年中、ワクチン接種に追われそうな年度となりそうです。

年間統計＜内科＞

2020 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	410	258	414	403	431	380
訪問診療(件)	222	223	244	260	240	253
健診(人)	0	0	0	0	0	0
予防接種(件)	0	12	4	2	4	2
延べ件数(件)	632	493	662	665	675	635

2020 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	500	375	462	368	400	406	4807	401
訪問診療(件)	263	271	271	265	262	260	3034	253
健診(人)	6	11	25	13	4	0	59	5
予防接種(件)	555	85	22	4	4	6	700	58
延べ件数(件)	1324	742	780	650	670	672	8600	717



2020年度を振り返って <小児科>

2020年5月にこどもクリニックがファミリークリニックに移転しました。スタッフの尽力により問題なく小児医療を継続することが出来ています。医師2人体制となることで、午後でも成人の応急的な診療や通所リハでの急変にも対応することが出来るようになりました。2020年度は移転に加えてコロナ禍で大変な年度でしたが、減っていた患児数も徐々に持ちなおし、また期間限定の加算も付くようになり、ようやく追い風と変わってきたように感じます。今思えば絶好のタイミングでの移転だったと感じ入っています。

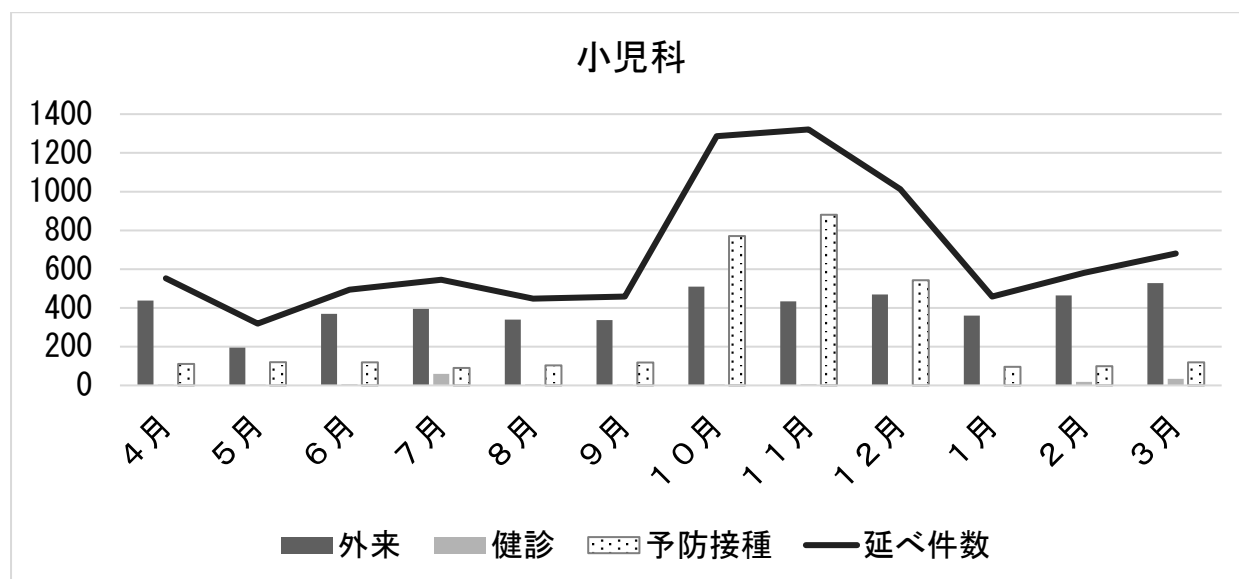
2021年度に向けて <小児科>

2021年度の最大のミッションは、何と言っても新型コロナワクチンの接種を1秒でも早く1人でも多く進めていくことです。ファミリークリニックになりマンパワーが集約された分、より効率よく進めていけると考えています。また、子宮頸がんワクチンの接種率増加にも今まで同様に力を入れていきます。

年間統計<小児科>

2020 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外来(人)	438	195	369	395	340	337
健診(人)	4	4	6	60	5	4
予防接種(件)	111	120	119	90	103	118
延べ件数(件)	553	319	494	545	448	459

2020 年	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
外来(人)	510	434	469	360	464	528	4839	403
健診(人)	5	6	1	3	18	34	150	13
予防接種(件)	771	881	543	96	99	119	3170	264
延べ件数(件)	1286	1321	1013	459	581	681	8159	680



職場紹介

1. 職員構成

管理者（師長） 関 恵美子

主任 柳沼 由加理

看護師 8 名（内 非常勤 2 名）

クラーク 1 名

訪問リハ 4 名（栄光病院外来リハ・ファミリークリニック訪問リハ兼務）

2. 利用者数

訪問看護ステーション利用者延べ人数 1, 305 名（月平均 108. 8 名）

介護保険；56. 3 名（平均介護度 3. 0 ）医療保険；52. 5 名

年間訪問延べ件数；8572 件（10, 034 単位）

月平均 714. 3 件（836. 2 単位）

年間新規利用者 132 名（介護 8 名、医療 124 名）

在宅看取り件数 56 名

部署収入 81, 805, 714 円 （月平均 68, 171, 511 円）

ファミリークリニック訪問リハ 延べ件数 228 件（501 単位）

2020 年度を振り返って

<部署目標>

地域包括ケアシステムの構築に向け、医療と介護をつなぐ キーパーソナルな役割を担い、多職種と連携しながら地域を支えていく。 個々のスキル・質の向上に努め、小児から高齢者まで、幅広い年齢層へ対応できる部署となる。

1. 栄光会フィロソフィーを実践し、利用者が家族と共に安心して在宅療養が継続できるよう、温かいケアの提供を実践する。

2020 年度は新型コロナウイルス感染に伴い、面会制限などにより入院を躊躇する患者・家族が増え、訪問の依頼が多くなったことと、最期は自宅で、家族みんなで看取りたいというホスピス病棟からの退院が増加した。在宅看取り件数もかなり多く、2019 年度の看取り件数が 34 件に対し、2020 年度の看取り件数は 61 件と大幅に増加した。そのためオンコール件数も多かったが、利用者・家族が安心して在宅療養が継続できるよう、在宅医療センター栄光との連携や主治医の指導により、症状コントロール、精神的ケアを実践する事ができた。

2. 法人内外との連携を強化し、高齢者や小児、癌の終末期の利用者をいつでも受け入れられる体制を構築する。

癌末期の依頼が集中した事により、介護保険利用者等の新規依頼をお断りする事が多い年度であった。来年度は人員を増やし、お断りしない様な体制を作る。ターミナル利用者に対しては多職種と連携し、早期に福祉用具を行う事で安楽に過ごせるよう配慮した。

3. 個々の目指す方向性や目標を持ち、それに向けて努力する。

コロナ感染拡大により各種研修会や同行訪問など中止となったが、目標管理シートに沿って、個人でeラーニングやオンラインでの学習を行い、自己のスキルアップ向上に努めた。

4. 職場環境を良くし、チーム力を高める。

訪問件数もかなり多く忙しい業務の中、みんなで協力して訪問調整を行い乗り越える事ができた。

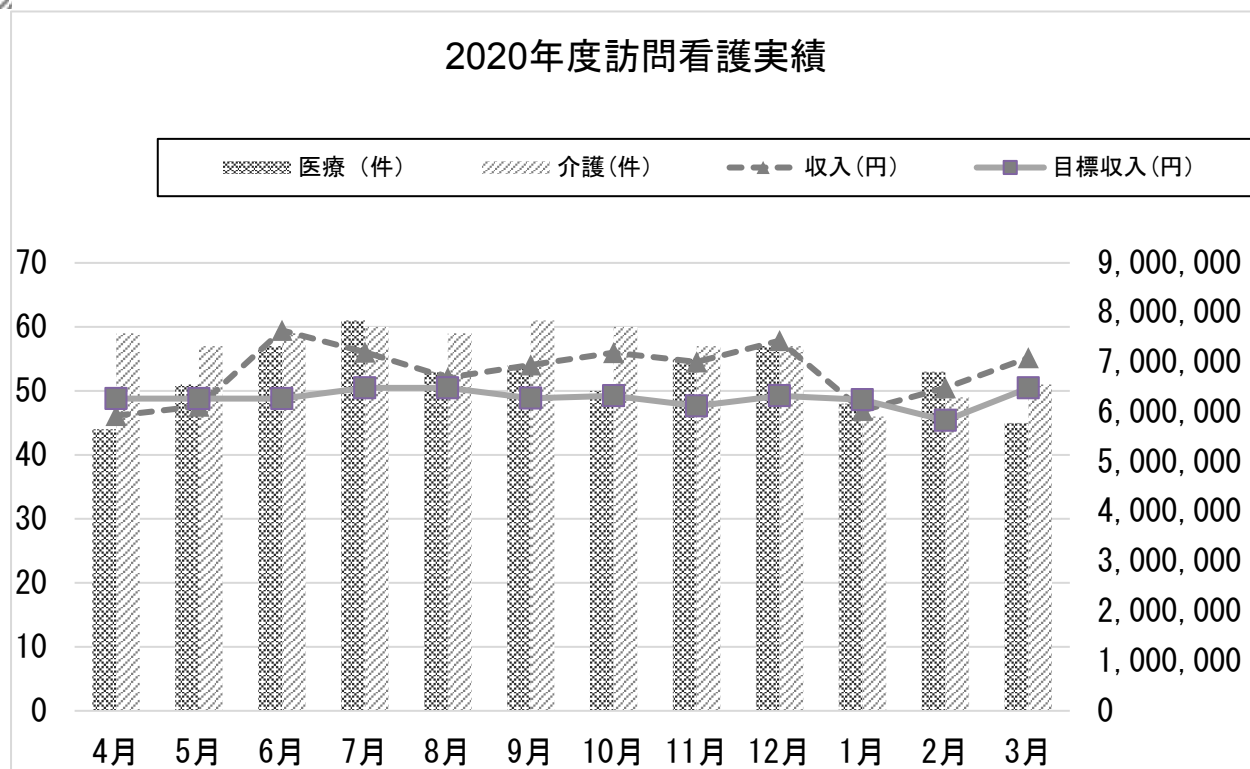
5. 京セラ原価管理手法に基づき、効率的で質の高い運営を目指す

当ステーションは医療保険での訪問件数が多く、収入増に繋がっている。今後も訪問看護の需要は高くなっていくと思われるが、今後も利用者・家族に寄り添い、質の高いケアの向上に努めていく。

2021年度に向けて

1. 栄光会フィロソフィーを実践し、温かいケアを提供する
2. コロナ感染予防対策を徹底する
3. 個々のスキルアップに努め、チーム力を高める
4. 安定した部署経営への取り組み

年間統計



介護事業本部

■ 介護事業本部

本部長 下稲葉 圭一

副本部長 田ノ上 剛

介護事業部 理念

関わる全ての人が癒し癒される介護を実践する

～ Action with passion for mission ～（使命の為に情熱を持って取り組もう）

《基本方針》

- ・利用者一人ひとりに寄り添って、ともに歩むケアを目指します
- ・医療と介護の連携により、日常生活における安心と活力をサポートします
- ・地域のニーズに応え、積極的に地域交流・貢献に努めます
- ・職員が切磋琢磨して、健全な経営を基盤にしたやりがいのある職場を目指します
- ・職員、その家族の物心両面の幸せを追求します

職場紹介

1. 職員構成

介護事業部 職員数 合計63名

《所属部署》

介護付き有料老人ホームかめやま、栄光会通所リハビリテーション

栄光会ヘルパーステーション、栄光会ケアプランサービス

介護栄養管理課、介護事業本部事務

2020年度を振り返って

新型コロナウイルスの感染対策を徹底し安心して介護サービスを受けて頂くために、日々、努力を重ねて参りました。

また、医療介護施設かめやまに併設されていた亀山クリニックが、栄光会ファミリークリニックとして5月から小児科も併設し、新たにスタートをしました。

様々な課題と向き合う中、スタッフ皆さんの協力のお陰で内部連携が深化し、課題に対応できました。

《事業計画》

1. サービスの質を高め、地域に選ばれる事業部を目指す

感染対策を徹底し、安心して利用して頂く体制を整備して参りました。

2. 全世代（こどもから高齢者まで）に向けたケア・サービスの充実

栄光会ファミリークリニックとの連携が深まり、組織として前進できました。

3. 地域ニーズに応える新規事業の計画立案・実行

次年度につながる事業案が継続検討されています。

4. 栄光会における介護予防事業の確立

これからの状況を踏まえ、地域協働部と連携し、継続して企画して参ります。

2021年度に向けて

2021年度は2025年・2040年を見据えて介護報酬改定が行われました。

また、新型コロナウイルス感染症により、社会の構造変容が進みました。

これからのビジョンや方向性の共有に努め、2021年度介護事業部として取り組んで参ります。

《事業計画》

1. サービスの質の向上

- ・ EBMに基づいた医療介護の提供
- ・ ホスピタリティの実践
- ・ ご利用者と職員双方の満足度追求

2. 地域共生を目指した事業展開

- ・ 地方行政との連携強化
- ・ 空きスペースの有効活用
- ・ 介護予防事業の推進

3. 安定した収益の確保

- ・ 介護報酬改定への迅速な対応
- ・ 営業活動の更なる展開
- ・ 経費削減への取り組み強化

4. 働きやすい職場作り

- ・ 教育システムの見直し
- ・ 労働環境の整備
- ・ 部署間または個人間のコミュニケーション促進

職場紹介

1. 職員構成

職種	資格	氏名	勤務形態	
管理者 主任介護支援専門員	介護福祉士	江藤 晃	常勤	
主任介護支援専門員	社会福祉士	森下 茂子	常勤	
	歯科衛生士	田中 まゆみ	常勤	
介護支援専門員	介護福祉士	室 孝二	常勤	
	介護福祉士	鍵本 雄太	常勤	
主任介護支援専門員	介護福祉士	青戸 孝江		非常勤
	合計		常勤 5名	非常勤 1名

2. 業務内容

契約者が居宅での介護サービスやその他の保健医療サービス、福祉サービスを適切に利用することができるよう

- ・介護相談
- ・要介護認定支援、更新手続きの代行
- ・居宅介護サービス計画（ケアプラン）の作成
- ・サービス事業者や行政との連絡調整
- ・施設入所、退院支援
- ・介護予防支援等業務の一部委託

2020年度を振り返って

介護の社会化を旗印にスタートした介護保険制度が始まり20年が過ぎ、私たち栄光会ケアプランサービスの介護支援専門員は、日々40歳以上の要介護認定を受けている高齢者等に適したケアプランを立案提供し、日ごろ地域を縦横無尽に駆け回ってきた。しかし新型コロナウイルスのパンデミックにより、利用者のお宅訪問ができないケースや訪問可能でも個別の家庭の状況の中で、新型コロナウイルス感染に配慮し行動をとる必要がある等 考慮する事案が多く発生した。新型コロナウイルスの流行の状況下で、「新しい生活様式」が必要とされる社会 において、ケアの現場にも大きな影響をもたらし、「新しいケア様式」を生み出す一考となり、私たち栄光会ケアプランサービスにおいても検討すべき課題の抽出や、現場での対応の共有などを図り 会議や多職種連携、日々の業務全般にもICTを活用した取り組み等 業務改革が加速した一年であった。

職場紹介

1. 職員構成

看護師： 常勤 6 名 非常勤 1 名
 ケアワーカー： 常勤 7 名 非常勤 3 名
 支援相談員： 1 名
 介護支援専門員： 1 名
 機能訓練指導員： 非常勤 1 名

2. 業務内容

施設入居者への生活全般に対する支援

2020年度を振り返って

2020年度はやはり新型コロナウイルスの影響が大きい1年となった。地域での感染状況を踏まえながら優先度が高い方から順次入居受け入れを行っていったが、以前と比較すると入居までの期間が若干長くなった。

体調不良での入院や、入居から短期間で看取りとなったケースもあり、稼働率は右肩下がりとなった。外部からのボランティア受け入れなども制限せざるを得ないため、生活環境のなかでの楽しみは減ったが、感染予防に重点を置くことで安全な生活環境は提供できたと考える。

年間統計

稼働率

2020 年									2021 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
97%	95%	92%	91%	92%	94%	91%	91%	89%	90%	89%	86%

看取りの数

2019 年									2020 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1

平均年齢

2019 年									2020 年		
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
89.6	89.8	90	90.1	90.1	89.9	90.7	90.8	90.9	90.8	91.1	90.8

職場紹介

1. 職員構成

理学療法士	3名（内1名 非常勤）
作業療法士	2名
看護師	2名
介護福祉士	7名
ヘルパー	3名（内1名 非常勤）
相談員	1名
事務員	1名
送迎非常勤	2名

2. 業務内容

リハビリ（評価・計画・見直し）

健康観察 状態管理

看護処置

介護・生活支援

2020年度を振り返って

一昨年はコロナウイルス感染拡大予防の為、4月中旬から5月上旬まで休業を余儀なくされた一年であり、リハビリが提供できないことで利用者様に多大なご迷惑をおかけしました。

昨年度は利用者様に対して安全にリハビリが提供できるよう、様々な感染対策をしっかりと行い、安心して利用できる通所リハビリを心掛けました。

その結果、昨年は年間通して安定して利用者様を受け入れ、リハビリを提供する事が出来ました。

今後も、利用者様の生活を第一に考え、地域に貢献できるよう運営してまいります。

職場紹介

1. 職員構成

管理者（常勤兼務）	：	1名
サービス提供責任者（常勤専従）	：	1名
看護師（非常勤兼務）	：	1名
介護福祉士（非常勤専従）	：	2名
ヘルパー（常勤兼務）	：	1名

2. 業務内容

ご利用者のご自宅に訪問し、生活や身体の介護をおこなう。

具体的には、料理／掃除／洗濯などの家事全般から

日用品の買い出し（買い物代行）、そして食事／入浴／排泄などの

各種身体介助が中心となる。

2020年度を振り返って

限られた制度の範囲内で、いかにご利用者のニーズに応えるか、試行錯誤の連続であったことに加え、コロナウイルス感染予防への対策に細心の注意を求められる一年となった。そんな中でも、アンケート調査では高評価を頂くことができたが、これに甘んじることなく、今後も研鑽を積み重ねていきたい。

介護業界は人材不足が懸念されているが、本事業は其中でも特にスタッフの少数化と高齢化が際立っている。当事業所も昨年に比べ、スタッフ数は1.5名減となり、厳しい舵取りを迫られている。在宅介護の要となっている訪問介護を、安定的に運営していく為には、一事業所による単独運営では限界がある。よって今後、事業所間の連携や行政との協力関係を築いていくことも視野に入れる必要があると考える。

職場紹介

1. 職員構成

管理栄養士 1名

委託（日清医療食品株式会社） 調理師 3名

2. 業務内容

献立作成・発注・施設入所者・利用者様食事提供・栄養管理・クリニック栄養指導

2020年度を振り返って

入所者・利用者様に栄養のバランスを考慮し、より家庭的な味を心がけ、安心安全な食事の提供を目標に取り組んできました。

コロナ禍で、外出が難しい入所者様には、季節を感じていただけるような食事を心がけました桜の時期には、桜ちらし寿司や桜もち、夏の暑い時期はかき氷・そうめん、冬は米麴から作る甘酒や大豆から味噌を作ったりと、食を通して癒し癒される時が過ごせたと感じています。

多職種協働によるNST（栄養サポートチーム）を月に1回行う事で栄養の重症化を防ぎ

個々の食事形態や喫食状況を把握、誤嚥予防、体重減少等早期に身体状況の変化に気づき改善策を考える様に取り組んでいます。

2021年度にむけて

入所者様にはより家庭的な雰囲気を味わっていただける様に努めていきます。

通所リハビリ利用者様にはリハビリの状況を把握し、フレイル・サルコペニア予防のため、その方にあった栄養量の提供・補助食品の提案を行う。一人一人スクリーニングを行う事で体重の変化、身体状況をすばやく把握する事で健康寿命をのばし、自分らしい生活がおくれる様お手伝い出来ればと思います。

外来クリニックにおいては生活習慣病予防のため、栄養指導の必要性を理解してもらい具体的な献立の提案を行う。タニタ体組成計を用い、見える化による目標を設定し達成を目指す。

地域包括における栄養士の役割として健康教室・うきうきルーム・料理教室等、最新の栄養情報を伝え食の支援活動を行う事で地域の健康増進、病気の予防、介護予防の役割をはたしていきたいと思えます。

伝道部

職場紹介

1. 職員構成

チャプレン/グリーフカウンセラー 清田直人

2. 業務内容

社会医療法人 栄光会 栄光病院 伝道部は1997年に設立し、病床訪問をはじめとし、患者礼拝、院内キリスト教行事の企画等を中心に活動している。

1) 患者、家族へのスピリチュアルケア、職員へのカウンセリング、
遺族へのグリーフカウンセリング

2) 患者礼拝“よきおとずれ会”“第四日曜礼拝”の主宰

3) 院内キリスト教行事の執行

4) 院内における洗礼式、冠婚葬祭などの執行

5) NPO栄光ホスピスセンター

6) 協力牧師会事務局 栄光ひまわり会事務局

a) 伝道部基本理念

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」
—栄光会創立の精神—

i) キリスト教病院としての栄光病院建院の精神を確認し、「わたしたちの信仰」に基づいてその
目的達成につとめる。

ii) キリスト者スタッフは、まず自らの勤務を通じてキリスト者としての立証につとめ、他のス
タッフや患者・家族に対して、キリストの愛を持ってそのつとめを行う。

b) 伝道部目標

i) キリスト信仰に基づく病院理念の啓蒙

ii) 院内キリスト教行事の充実

iii) 病院理念に基づく魂の救い

2020年度を振り返って

1. 年間聖句：「いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう」（詩篇 23：6）

2. iii) 病院理念に基づく魂の救い

ひとりでも多くの患者・家族・利用者の魂が救われることを祈りつつ病院理念に立脚した
ケアを提供する。

○日々、祈りをもって業務に取り組み、神のいつくしみと恵みがあとから追ってくるとい
う約束と希望に感謝しつつ自らの勤めに励む。

3. 行事

- ・ たんぽぽ 毎月発行
- ・ 祈祷会 毎週土曜日 8:00～8:15 栄光の間
- ・ よきおとずれ会 院内放送のみで開催
毎週火、木、土曜日 9:00～9:30 栄光の間（下稲葉会長、野村先生、清田）
毎週水曜日 13:30～14:30 多目的ホール（下稲葉会長、青戸理事長）
- ・ 聖日礼拝 第4日曜日 10:30～11:30 礼拝堂
- ・ イースター集会
- ・ 協力牧師会
- ・ 第56回追悼記念会
- ・ 召天者墓前記念礼拝
- ・ 秋の特別賛美集会
- ・ 栄光病院クリスマス会（院内放送のみ）日時：12月25日（金）14:00～14:50
- ・ 年末感謝礼拝 日時：2020年12月30日（水）8:30～8:50
- ・ 年頭感謝礼拝 日時：2021年1月4日（月）8:30～8:50
- ・ 第57回追悼記念会

その他 院内葬儀 0件（3月31日現在）

納骨式 3件（3月31日現在）

洗礼式 0件（3月31日現在）

2021年度に向けて

年間聖句：「どうか主が私たちの中にいて、進んでくださいますように」（出エジプト記 34:9）

3) 病院理念に基づく魂の救い

コロナ禍における病床伝道を意識する

○様々な制限がある中でも、しっかりと患者・家族・利用者に福音伝道がなされていくよう祈りつつ、各部署と連携し、患者・家族・利用者の宗教的ニーズを見過ごさずケアに励む。

地域協働部

職場紹介

1. 職員構成

部長 下稲葉 主一 部長補佐 鷹尾 剛 / 林 邦男 通所リハ兼務 和田 優里菜
地域協働部は、栄光会他部署のメンバー諸氏の協力により成り立っています。

2. 業務内容

時代背景

2025年、2040年に向け、時代は「地域包括ケア」及び「地域共生社会」へと向かっている。
仕事として従事する人の不足ゆえの事である。東京一極地集中、核家族・単身家族等、戦後の社会システムを高齢化の中で変化させる局面に入っている。

目的

医療介護と地域社会がネットワークを組み、地域社会で生活をしている皆さまの幸せと幸せな人生最期に貢献する為に協働する仕組みをつくる事にある。

内容

栄光会と地域を繋ぎ、ネットワーク化する中で協働できる仕組みをつくる事。

- ①志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」と「健康教室」の運営。
- ②「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局。
- ③「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局。
- ④志免町内で活動する市民団体との協働。

2020年度を振り返って

A 志免町健康課からの委託事業である「うきうきルーム」と「健康教室」の運営。

「うきうきルーム」は、担当町内会の公民館に理学療法士を中心に訪問し、各種講座や運動を行う。「健康教室」は、通所型で、病気や介護予防を目的に講座や運動を行う。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大によりこれらの活動が中止となる。

秋口より、志免町健康課主催のセンターで行う「うきうきルーム」のみ1回/月で開催される。

B 「志免西・地域協働ネットワーク」という地域活動のプラットフォームの運営事務局。

2020年度は、別府2町内会主催、志免西・地域協働ネットワーク後援で、認知症の方を対象とし、小学生から高齢者の方が参加する「やさしい声かけ訓練」を計画。

新型コロナウイルス感染拡大によりこの計画を実行する為に進捗をさせていたが、最終的には中止となった。

C 「NPO法人志免地域支え合い互助基金」の運営事務局。

当活動を通じて、全町的にネットワークの構築が出来てきている。

志免町在住の中学生及びその両親世代である団塊ジュニア世代を対象とした活動を実施。

王子八幡町内会で結成された「王子福祉のまちプロジェクト」に対し助成を実施。

このチームは、町内会で暮らす高齢者及び生活支援サービスを望む方々に対しサービスを提供する活動を始めます。当チームの構成員の70%は、30代～40代となります。

D 志免町内で活動する市民団体との協働。

コロナ自粛が続くなか、コロナフレイルを気にする方が増えている状況にあることを知り、現状を把握する為、別府3町内会と実験を実施。この実験を通じ、2021年度に実施すべき方向性が明確になると共に、これまで積み重ねてきた事が、コロナにより間違っていなかったことがわかった。

2021年度に向けて

新型コロナウイルス感染拡大により、人の意識が変わった事、感染拡大の中でもやるべき事を実行する為、何をすべきかが明確になった。今年度も、協働部で行っている事業エレメンツを組み合わせたり、編集しながら1つ1つ確実に歩を進め、30年ほど前に進んだ時代に追いつきたいと考えている。

年度統計

志免町委託事業 『うきうきルーム』 参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
別府2	準備月	新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度は中止となる。											0
別府3													0
南里3													0
志免5													0
志免6													0
石橋台													0
向ヶ丘													0
王子八幡													0
モントーレ													0
御手洗													0
サンリヤン													0
保健センター		中止					18	14	13	中止			45
合計		0	0	0	0	0	18	14	13	0	0	0	45

志免町委託事業 『通所型健康教室』 参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度は中止となる。												0

ボランティア統括部

職場紹介

1. 職員構成

主任 1名

2. 業務内容

ボランティア活動が円滑になされるための支援

2020年度を振り返って

新型コロナウイルス感染症の拡大のために、2020年2月23日より、ボランティアのみなさんには屋外での活動である花壇の整備を除いて、活動休止をお願いすることとなりました。感染の収束を願いながらも、1年以上の月日が経過し、今なおボランティア活動の全面再開の見通しは立っていません。

花壇のボランティア活動も、一回目の緊急事態宣言発令の折には休止していただきました。すっかり花の色彩が消えてしまった花壇が、緊急事態宣下に沈む気持ちも相俟って寂しく見えたことを思い出します。そのような中、2020年6月以降、マスクを着用する、病院建物内には入らないといった感染対策を講じた上で活動することを確認し、新型コロナウイルス対策会議の承認を得て、花壇ボランティアの活動が再開しました。再び『癒しの花壇』が病院を訪れる多くの人々の心を明るくしてくれていることでしょう。今、病院の玄関前の花壇には次々と美しい花が咲き、通る人の目も心も慰められていると思います。

その他患者さんに直接お会いすることはできないけれども、折り紙やペーパークラフトの飾り物を自宅で作って送ってくださるボランティアさんがいらっしゃいます。患者さんや病院のことを想いながら、一折り、一折り 作ってくださったことを考えると心が温められます。患者さんの見える所に展示するようにしています。

2020年4月現在、63名の方がボランティアに登録してくださっています。活動休止の期間、63名のみなさんにあてて、はがき、メール、電話 等でつながりを絶やさないようにと努めています。ボランティアさんからも励ましのお便りをいただき感謝しています。またボランティアさんに元気な顔を見せていただける日が来るのを心待ちにしています。

年間のボランティア活動

製作、整備活動

外回りの整備—玄関前ボランティア花壇

季節の装飾—折り紙の壁掛け ・ ペーパークラフトの花

年度実績

玄関前ボランティア花壇の整備

月	新規登録数	延べ活動 回数	延べ活動 時間
4	0	3	2:30
5	0	0	0:00
6	0	13	17:40
7	0	10	8:30
8	0	20	17:20
9	0	11	10:05
10	0	10	9:30
11	0	11	17:55
12	0	10	13:10
1	1	10	6:40
2	0	6	4:35
3	0	11	9:15
計	1	115 回	117 時間 10 分

季節の装飾の製作

月	作 品
4	折り紙の壁飾り 『 チューリップ 』
5	折り紙の壁飾り 『 端午の節句 』 ペーパークラフト 『 カーネーション 』
6	折り紙の壁飾り 『 紫陽花 』
7	七夕飾り ペーパークラフト 『 朝顔 』
8	折り紙の壁飾り 『 納涼 』
9	折り紙の壁飾り 『 お月見 』
10	折り紙の壁飾り 『 ハロウィン 』
11	折り紙の壁飾り 『 秋の風情 』
12	折り紙の壁飾り 『 クリスマス 』 ペーパークラフト 『 クリスマスオーナメント 』
1	折り紙の壁飾り 『 お正月 干支 』 ペーパークラフト 『 椿 』
2	折り紙の壁飾り 『 節分 』
3	折り紙の壁飾り 『 ひなまつり 』 パステルアートの絵はがき 『 桜 』

本部事務局

職場紹介

1. 職員構成

事務局長	1名
事務局次長	1名
課長・課長代理	2名
主任・副主任	8名
一般職	6名
【計】	18名

2020年度を振り返って

2020年度は、まさに新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。年度の始めには、これほどまでに影響が長期化し、また甚大なものになるとは、想像もできませんでした。世界中が、またどの分野・業種においても、その影響を受けた訳ですが、我々医療・看護・介護分野においても、かつて無い程の大波を経験したことになります。

当法人においても、2020年4月の緊急事態宣言発令時には、休業・休止を余儀なくされた事業もあり、またその後も、院内における感染拡大・クラスターを防ぐべく、やむを得ずご家族の面会を制限せざるを得ない状況が繰り返される状況となりました。

感染防止の徹底に努めながら、一方で、当法人の理念である、患者さん・利用者の方々、そのご家族の幸せと生きがいのために尽くす医療・看護・介護をいかにして実践できるか―、日々迷い、苦悩しながら、必死に取り組んで参りました。

このコロナ禍にあって、我々「社会医療法人」がいかにして地域の皆さんのお役に立つ働きを継続できるのか、改めて模索した年度となりました。

2021年度に向けて

2021年度も、やはりコロナの影響を受けることは必至であり、そのことを前提に、常に柔軟に、新しい発想をもって取り組むことが必要です。

コロナ対策においても、当法人の特徴、持ち味、強みを活かしつつ、コロナ患者さんの後方支援、ワクチン接種業務などをさらに推進していきたいと考えております。

コロナ禍にあって、法人理念をその中心にしっかりと据え、スタッフとそれをしっかりと共有し、そして社会医療法人として、私共の果たすべき役割をしっかりと見定めつつ、一つ一つの業務に励んで参ります。

職場紹介

経営管理部とは「京セラ式病院原価管理手法」、「新人事制度」の導入および運用支援を行うために、2013年4月から活動を開始した部署である。

1. 職員構成

本部事務局	事務局次長	小池 英臣
	副主任	川口 佳代子
	職員	田中 義人
看護部	部長	的野 修一

2. 業務内容

1. 毎月の原価管理表作成
2. 全体Mt g、部署Mt g日程調整および運用支援
3. 各部署からの問い合わせ対応
4. 各種課題の部署間調整
5. 新人事制度構築
6. その他

2020年度を振り返って

「京セラ式病院原価管理手法」「新人事制度」の意義、目的については法人全体に浸透しており、十分その役割を果たしているところではあるが、2020年度は新型コロナの影響で全体ミーティングにおける部署発表が出来なくなり、部署別ミーティングもそれぞれの部署での自主開催となり、本来の活動が出来なかった一年だった。また原価管理表についても各部署からの要望等を取り入れていく中で段々複雑化してきたことから、この機に原価管理表の大幅な見直しを行うこととし、2020年度は原価管理表を使用することが出来なかったが、それぞれの部署においては「収入」「経費」に対する意識は十分に持って貰えていたと思う。また、昨年からの引き続きの課題であった「新人事制度」の確立については今後の課題として残る結果となった。

2021年度に向けて

2021年度は新型コロナの影響で外来患者数の減少、病棟稼働率の低下が顕著となり、法人収入もかなり厳しい状況となっていることから「京セラ式病院原価管理手法」の更なる強化による「必要収益の確保」に向け新たな形を模索していくこととなる。また、こういう状況だからこそ栄光会職員が一つになり、この危機をどう乗り越えていけるかを全員で考え、進んでいければと願っている。

職場紹介

「経営の羅針盤」となるべく、法人の経営成績および財政状態を適正かつ速やかに把握し、経営の改善・向上に寄与する」。

1. 業務内容

- 1) 各種財務諸表作成
- 2) 資金の調達、管理、運用
- 3) 理事会、幹部会への財政状態・経営成績・財務分析報告
- 4) 新規事業計画の支援（財務面での検証）、または立案・作成
- 5) 法人の意思決定に資する各種情報の収集

年度統計

外来患者数

診療科	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
内科	1,481	1,234	1,390	1,441	1,537	1,388
外科	173	202	309	337	247	264
循環器科	168	129	157	193	170	187
呼吸器科	174	143	187	194	189	182
整形外科	99	81	126	111	85	116
リハビリ	74	0	0	81	92	113
健診センター	129	4	390	456	481	394
在宅医療センター栄光	120	120	136	118	127	111
その他診療科	116	127	129	132	166	142
〈計〉	2,534	2,040	2,824	3,063	3,094	2,897

診療科	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内科	1,504	1,342	1,539	1,344	1,281	1,572	17,053
外科	337	271	303	205	244	276	3,168
循環器科	192	182	202	186	157	202	2,125
呼吸器科	214	165	223	163	185	193	2,212
整形外科	114	114	111	83	76	111	1,227
リハビリ	149	118	147	25	15	79	893
健診センター	684	1,020	790	361	368	448	5,525
在宅医療センター栄光	121	130	142	118	122	139	1,504
その他診療科	1,329	805	330	210	219	243	3,948
〈計〉	4,644	4,147	3,787	2,695	2,667	3,263	37,655

医業収入

年				2020		2020		2020		2020		2020		2020		
月				4月		5月		6月		7月		8月		9月		
患者数	栄光病院	外来		人	2,285		1,916		2,298		2,489		2,486		2,392	
		健診センター			129		4		390		456		481		394	
	在宅医療センター栄光		120		120		136		118		127		111			
	訪問看護		708		763		908		890		808		869			
	ファミリークリニック	旧 亀刈(外来)			410		270		418		405		426		382	
		旧 亀刈(訪問診療)			223		223		244		260		240		253	
		旧 こどもクリニック			553		319		494		545		457		459	
	通所リハ		511		632		925		1,037		944		1,003			
病床棟	・延患者数 ・1日平均	3A	人	633	21.1	563	18.2	596	19.9	645	20.8	591	19.1	618	20.6	
		3B		680	22.7	614	19.8	578	19.3	576	18.6	479	15.5	520	17.3	
		2C		565	18.8	664	21.4	536	17.9	541	17.5	504	16.3	559	18.6	
		4A		1,142	38.1	1,090	35.2	1,068	35.6	1,127	36.4	1,140	36.8	1,134	37.8	
		4B		666	22.2	658	21.2	638	21.3	675	21.8	787	25.4	707	23.6	
		5A		893	29.8	878	28.3	903	30.1	959	30.9	977	31.5	832	27.7	
		全院		4,579	153	4,467	144	4,319	144	4,523	146	4,478	144	4,370	146	
	・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3A/24	人	88%	37	76%	39	83%	49	87%	33	79%	36	86%	36	
		3B/24		94%	28	83%	33	80%	40	77%	46	64%	22	72%	50	
		2C/23		82%	31	93%	31	78%	35	76%	50	71%	37	81%	28	
		4A/45		85%	73	78%	76	79%	77	81%	77	82%	82	84%	84	
		4B/28		79%	8	76%	8	76%	10	78%	10	91%	12	84%	13	
		5A/34		88%	26	83%	20	89%	29	91%	18	93%	37	82%	30	
		全院		86%	203	81%	207	81%	240	82%	234	81%	226	82%	241	
	有老くかめやま＞ 35室			%	94%		93%		89%		91%		92%		92%	
	その他	・ 時間外比率		%	16%		20%		15%		13%		21%		13%	
		・ 死亡退院		人	33		41		44		41		34		39	
		・ 救急車来院回数		回	13		16		18		17		19		18	

年				2020		2020		2020		2021		2021		2021		
月				10月		11月		12月		1月		2月		3月		
患者数	栄光病院	外来		人	3,839		2,997		2,855		2,216		2,177		2,676	
		健診センター			684		1,020		790		361		368		448	
	在宅医療センター栄光		121		130		142		118		122		139			
	訪問看護		949		879		869		731		800		867			
	ファミリークリニック	旧 亀刈(外来)			1,061		471		508		385		405		412	
		旧 亀刈(訪問診療)			263		271		271		265		262		260	
		旧 こどもクリニック			1,286		1,321		1,014		459		581		681	
	通所リハ		1,092		992		990		763		847		1,052			
病床棟	・延患者数 ・1日平均	3A	人	554	17.9	525	17.5	558	18.0	519	16.7	554	19.8	575	18.5	
		3B		539	17.4	577	19.2	556	17.9	631	20.4	608	21.7	598	19.3	
		2C		531	17.1	580	19.3	634	20.5	603	19.5	538	19.2	489	15.8	
		4A		1,097	35.4	1,003	33.4	1,019	32.9	1,178	38.0	1,105	39.5	1,204	38.8	
		4B		713	23.0	709	23.6	724	23.4	658	21.2	621	22.2	704	22.7	
		5A		871	28.1	847	28.2	943	30.4	956	30.8	917	32.8	985	31.8	
		全院		4,305	139	4,241	141	4,434	143	4,545	147	4,343	155	4,555	147	
	・稼働率 ・入退院 (転棟含む)	3A/24	人	74%	32	73%	33	75%	23	70%	26	82%	31	77%	28	
		3B/24		72%	39	80%	35	75%	45	85%	35	90%	20	80%	33	
		2C/23		74%	42	84%	36	89%	37	85%	39	84%	25	69%	46	
		4A/45		79%	87	74%	77	73%	98	84%	59	88%	66	86%	78	
		4B/28		82%	7	84%	15	83%	11	76%	7	79%	11	81%	10	
		5A/34		83%	21	83%	25	89%	36	91%	20	96%	15	93%	37	
		全院		78%	228	79%	221	80%	250	82%	186	87%	168	83%	232	
有老くかめやま＞ 35室			%	90%		90%		88%		89%		88%		85%		
その他	・ 時間外比率		%	9%		13%		8%		11%		12%		11%		
	・ 死亡退院		人	36		48		37		36		30		45		
	・ 救急車来院回数		回	17		19		12		23		16		14		

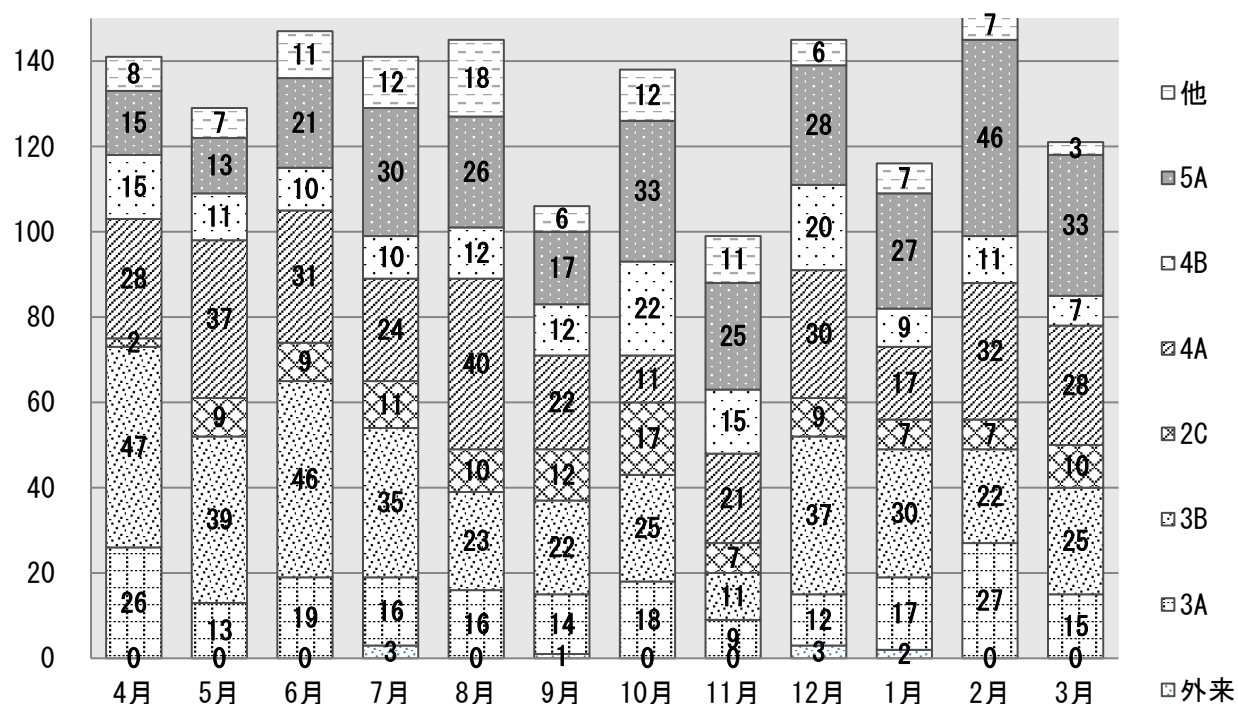
その他

医療安全管理委員会

2020年度インシデント・アクシデント報告年間集計（2020.4.1～2021.3.31）

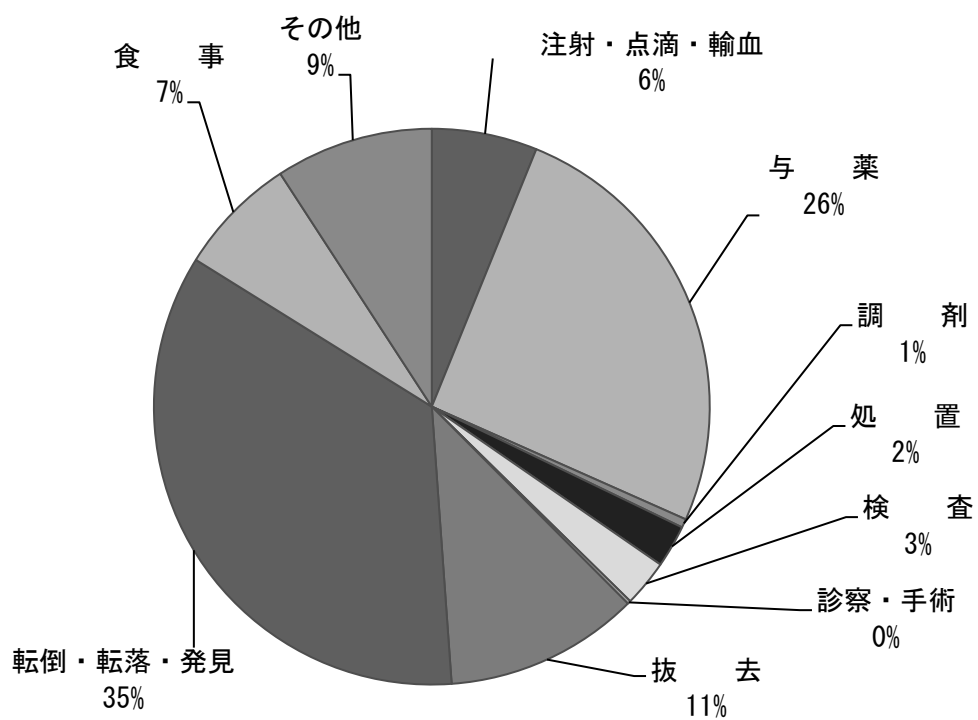
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来	0	0	0	3	0	1	0	0	3	2	0	0	9
3A	26	13	19	16	16	14	18	9	12	17	27	15	202
3B	47	39	46	35	23	22	25	11	37	30	22	25	362
2C	2	9	9	11	10	12	17	7	9	7	7	10	110
4A	28	37	31	24	40	22	11	21	30	17	32	28	321
4B	15	11	10	10	12	12	22	15	20	9	11	7	154
5A	15	13	21	30	26	17	33	25	28	27	46	33	314
他	8	7	11	12	18	6	12	11	6	7	7	3	108
計	141	129	147	141	145	106	138	99	145	116	152	121	1,580

2020年度インシデント・アクシデント報告件数年間推移



2020年度インシデント・アクシデント報告内容内訳（2020.4.1～2021.3.31）

	外来	3A	3B	2C	4A	4B	5A	他	合計
注射・点滴・輸血	1	12	28	6	33	6	4	7	97
与薬	0	43	96	22	121	42	77	2	403
調剤	0	1	0	0	1	0	0	6	8
処置	0	1	2	0	20	8	5	3	39
検査	3	1	4	0	13	5	7	10	43
診察・手術	2	0	0	0	0	0	0	1	3
抜去	0	40	99	4	7	10	16	3	179
転倒・転落・発見	0	94	96	78	56	51	159	19	553
食事	0	2	14	0	29	14	13	38	110
その他	3	8	23	0	41	18	33	19	145
計	9	202	362	110	321	154	314	108	1,580



研修状況

■ 2020年度 新入職員研修スケジュール

≪ 新型コロナウイルス感染症対策 対応版 ≫

研修場所 2F大会議室

4月1日(木)

- 8:30～ 9:00 開院記念日・入職式
- 9:10～ 9:30 井上院長訓辞
- 9:30～10:00 「栄光会の医療理念～いのちを支える～」 青戸理事長
- 10:00～10:20 法人の概況・職員の心構え 後藤事務局長
- 10:20～10:50 人事・労務関係配意事項Ⅰ 川原課長代理
人事・労務関係配意事項Ⅱ／「人事制度について」 後藤事務局長
- 11:00～11:40 感染管理「院内感染防止対策について」 下稲葉(道)師長・副部長
- 11:40～12:20 「看護部の紹介」 的野看護部長
- 12:20～12:30 名札写真撮影 (本部事務局内撮影場所)
- 13:30～14:10 「栄光会における地域協働活動」
～住民が支え合い、安心して暮らせる地域社会を目指して～
下稲葉(主)本部長
- 14:10～14:30 消防訓練実施要領説明 安川課長
- 14:30～15:10 消防訓練 安川課長
＜礼拝堂・リハビリテーション課前自動販売機付近＞
- 15:20～16:00 「良き援助者とは？」下稲葉(順)副理事長・ホスピス長
- 16:00～16:30 「医療安全」・「臨床倫理」 吉田副院長
- 16:30～17:00 人事・労務関係入職時提出書類説明 布川主任

4月2日(金)

- 8:30～ 9:00 永年勤続表彰式

■ 看護部 院内研修

看護部 教育計画（院内研修）

実施日	モニター担当	研修テーマ	講師
10 月	外来	災害時のコーディネート	e-ラーニング
11 月	2C	物語る臨床倫理のススメ ～事例からみんなで考え探す、患者の幸福～	e-ラーニング
11 月	3A	看護必要度 中級編	e-ラーニング
2 月	訪問看護	医療者にとって本当に必要な接遇とは	e-ラーニング

師長（管理研修）

実施日	4月 27日	5月 25日	6月 29日	7月 27日	8月 31日	9月 28日
	10月 26日	12月 14日	12月 28日	2月 8日	2月 22日	3月 15日

■ 看護部 院外研修参加報告 2020年4月～2021年3月

部 署	日付	主催	テーマ	参加数
2 C	10/22	コンバテックジャパン株式会社	古くて新しい創傷衛生—何が異なるのか？	1
	2/13	メディバンクス株式会社ナースの星 WEB セミナー事務局	ニチバン×持田ヘルスケア視聴者参加型スキンケア Web フォーラム	1
	2/18	株式会社 Phronesis	ナニ見てどうする？ストーマケア合併症	1
	3/6	アルケア株式会社	第2回アルケアストーマセミナーin 四国九州 有効なアクセサリ活用術	1
	3/7	メディカルセミナーズ事務局	看護に求められるスキンケアの基本と実践	1
	3/10	株式会社 Phronesis	病棟から在宅までストーマケアの ABC～基礎からトラブルの対処力を身に付ける～	1
	3/17	株式会社 Phronesis	褥瘡ケアの基本～もう迷わない！ドレッシング剤選択を学ぶ～	1
	3/27	アルケア株式会社	第2回アルケアストーマセミナーin 四国九州 社会復帰後のオストメイトの QOL 向上を指した装具選択	1
	3/27	株式会社 Phronesis	漏れないストーマケアの具体策【予防とトラブル対策】	1
				計 9
3 A	8/1	福岡県看護協会	看護倫理～ケアの受け手を支える倫理的関わり～	1
	8/9	緩和・支持・心のケア合同学術大会 2020	がん患者のうつ病・うつ状態（ZOOM）	1
	〃	〃	痛み治療における新展開（オピオイド適正使用について）	1
	〃	〃	現場に活かす乳癌化学療法時の制吐療法	1
	〃	〃	新たな時代を迎えた慢性便秘症診察	1
	8/10	〃	患者と共に築き上げるチーム医療	1
	〃	〃	正しく理解するがん性皮膚潰瘍の治療意義とそのマネジメント	1
	〃	〃	がん性疼痛に対するオピオイド再考（タペンタドー	1

			ルについて)	
	〃	〃	対話を通したACPについて	1
	〃	〃	緩和医療 支持療法 こころのケア全ての領域の医療者に求められるコミュニケーション	1
	8/22	日本感染看護学会学術集会	COVID19 パンデミックから学ぶ	1
	9/26	「渡辺式」家族看護研究会 広島支部	事例検討会「終末期の外泊をめぐる家族間の意見の対立を考える」	1
	10/10, 2 4 11/7, 22	NPO法人 日本ホスピス緩和ケア協会九州支部	ELNEC-J コアカリキュラム	2
	11/23	認知症の緩和ケアに関する研究会	認知症のひとの意思決定支援	1
	12/5, 6	日本アロマセラピー学会	第23回学術総会 病める人にアロマを ～医療現場へのアロマセラピーの導入と実践	1
	2021/1/ 9	日本緩和医療学会教育セミナー	慢性便秘症とオピオイド誘発性便秘症	1
	〃	〃	補完代替療法の見極め方と向き合い方	1
	〃	〃	医療者の勧めを拒否する患者への対応を考える	1
	〃	〃	腹水	1
	〃	〃	緩和ケアにおける行動経済学的意思決定支援の方法	1
	2/13	日本看護協会 神戸研修センター	がん看護領域 認定看護師対象 キャリアアップ研修会	1
				計 22
4 A	7/29	福岡県看護協会	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	8/29	同上	リーダーシップ入門編	1
	9/3	DM 学進歩	新しい SMBG データ管理システムによる治療の見える化	1
	10/1	福岡県看護協会	NEW 心電図に強くなろう	1
	11/23	国立開発法人	認知症の緩和ケアに関する研究会	1
	12/19	アボットジャパン	糖尿病療養指導オンラインセミナー	1
	1/26	福岡県看護協会	フィジカルアセスメント呼吸・循環	1
	6/1	同上	医療安全管理者養成研修	1

			看護必要度指導者研修	5
				計 9
4 B	4/9		バイタルサインで分かる患者の異変 A B C D E でもれなく確認	1
	4/9		それが知りたい採血の技術と基礎知識	1
	4/11		身につけておきたい医療現場の情報リテラミー	1
	4/12		静脈注射の基本技術を学ぶ	1
	5/3		排泄ケアにおける感染予防 膀胱留置カテーテルと間欠的導尿	1
	5/3		はじめての吸引でも自信をもって行える	1
	5/5		自信を持って取り組める 輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作管理	1
	5/5		看護職としての社会人基礎力とは	1
	5/14		情報として使える看護記録 チームで共有するために	1
	5/18		看取り期の患者家族支援	1
			優しく学べる最新エビデンスにもとづいた疼痛看護	1
	5/24		コミュニケーションタイプ診断	1
	5/24		口腔内環境を改善すれば健康に 口から病気を予防しよう	1
	5/24		褥瘡サインを見逃すな 前兆と確認方法・評価方法を理解しよう	1
	5/24		人口呼吸器のファーストタッチ 看護ポイントとアラーム対応	1
	5/28		スタンダードプリコーションと感染経路別予防策	1
	6/5		転倒転落へのあせらない対処法 A t o Z	1
	6/14		多重課題を乗り切るためのコミュニケーションと優先順位の考え方	1
	6/14		本当にそれで大丈夫？薬剤投与の注意点	1
	6/18		認知症患者の看護に必要な医療安全	1
	7/1		1秒でも早くあなたが出来る急変対応	1
	7/14		よくわかる個人情報の基礎と取り扱い方	1

	8/15		心電図モニターの活用方法を知る	1
	8/1	看護協会	看護に活かすフィジカルアセスメント	1
	8/5	看護協会	基礎からマナブ医療安全	1
	8/30	看護協会	新人の為の褥瘡予防	1
	8/12	看護協会	新人の為の感染予防の基礎知識	1
	5/10		チーム医療とは何ですか 何が出来ると良いですか	1
	5/18		呼吸系フィジカルアセスメント	1
	5/19		血液ガスから考える呼吸アセスメント	1
	5/18		倫理的配慮の基本	1
	5/19		1年目から始めるメンバーシップ	1
	5/19		認知症とせん妄	1
	5/22		認知症に特有な倫理的課題と意思決定支援	1
	5/10		立ち止まる臨床倫理のススメ	1
	5/10		チームアプローチがデザインする医療ケア	2
	5/10		チーム医療を成功させる	2
	5/10		質の高いチーム医療	2
	6/13		相手の思いをくみ取り理解するキレーム対応の極意	1
	5/13		物語る臨床倫理のすすめ	1
	8/19		立ち止まる臨床倫理のススメ	1
	7/27	日経メディカル	WEB市民公開講座 脊髄性筋萎縮症とともに	1
	10/1	看護協会	災害看護 職場で災害が起こったら	1
	6/30		認知症と原因疾患と病態・治療	1
	7/30		安全のための改善活動	1
	7/30		個々の力とチーム力を高めるコミュニケーション	1
	5/18	エムハंक	1日で学ぶ人工呼吸器の基礎から観察ポイント	1
	9/28	ネスレ	高齢者の特性に応じた経腸栄養剤の選択	1
				計 51

5 A	12/30	日本静脈学会	弾性ストッキング 圧迫療法コンダクター講習	1
	10/1	福岡県看護協会	最新の心不全看護	1
	10/1	福岡県看護協会	現場で役立つ！褥瘡ケア	2
	7, 8 月	日本臨床看護マネジメント学会	重症度 医療、看護必要度	3
	3/13. 14	ライフプランニングセンター	新リンパ浮腫研修	1
				計 8
外来	5/13		感染（ウェブ研修）	1
	6/26	ライフスキヤン ジャパン	コミュニケーション（コーチング） ウェブセミナー	1
	7/18	ステップアップ メディカル教育研修事業部	内視鏡治療とそのケア 重要度順に学ぶ	1
	10/1	看護協会 （オンデマンド研修）	看護実践に活かすリスクマネジメント	1
	10 月	看護協会 （オンデマンド研修）	現場で役立つ！褥瘡ケア	1
	10 月	サラヤ（ウェブ研修）	感染対策	1
	11/18	看護協会 （オンデマンド研修）	災害看護～現場で災害が起こったら～	1
	1/20 1/30	看護協会 （オンデマンド研修）	心電図に強くなろう	2
	1/30	看護協会 （オンデマンド研修）	災害看護～現場で災害が起こったら～	1
	1/30	看護協会 （オンデマンド研修）	現場で役立つ！褥瘡ケア	1
				計 11
訪問 看護	2020. 11 /16	福岡市こども病院 地域医療連携室	令和 2 年小児在宅訪問看護研修	5
	2021. 1/ 15	九州大学病院 小児等在宅医療推進事業	小児等在宅医療シンポジウム	4
				計 9

対外研修の状況

■ 栄光ホスピスセミナー これまでの歩み

1986年4月の開院当初より、特別医療法人 栄光会 栄光病院では終末期医療に取り組んでまいりました。そして、1989年5月、当院ホスピス3年間の経験を踏み台とし、さらに多くの方々の現場でのご経験を提供していただき、ホスピスケアの確立・充実をめざして学問的にそして实际的・具体的に研鑽に励み末期がん患者とその家族の生活の質を高めることに寄与することを目的として「栄光ホスピス研究会」を設立し、セミナーを開催してまいりました。

	演題 又は テーマ	講師 (敬称略)	その他	参加人数
第1回 89.5.20	医の心 福岡亀山栄光病院ホスピスの3年	脇坂 順一 久留米大学名誉教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	VTR「忘れ得ぬ人」	261
第2回 89.7.15	がん告知は いま	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	看護婦・患者・患者家族・牧師 弁護士の立場よりの発表	84
第3回 89.9.2	医師として 末期医療(ホスピス)に どのようにかわるか	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	37
第4回 89.12.9	ホスピス～全人格的ケア 4つの痛みはどう應えるか 末期医療ケアの現状と今後の課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島 正治 厚生省健康政策局 保健医療技術調整官		230
第5回 90.2.3	ホスピスにおける看護婦の役割	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「病院紹介」 症例発表・質疑応答	118
第6回 90.3.24	残される者へのグリーフケア	河野 友信 死の臨床研究会幹事 都立駒込病院内科心身医療科医長	募集演題発表 4例	82
第7回 90.6.23	がんを病む心・仕える心 ーがん患者の心理をめぐってー	牛島 定信 福岡大学精神医学教室教授	発表 患者・家族・看護婦の 立場より	158
第8回 90.9.8	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について 癌性疼痛とその対策	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 檀 健次郎 福大医学部麻酔科教授	VTR「栄光病院ホスピス案内」 (医師部会)	27
第9回 90.11.10	危機的状況にある 患者・家族の理解と援助	小島 操子 聖路加看護大学教授	発表 VTR「だからみんなで」	123
第10回 91.2.23	患者の家族としてホスピスに何を望むか	患者家族 4名	VTR「いのち輝いて」	64
第11回 91.6.29	安らかな人生最後の日々のために ホスピスにおける精神的援助	ホスピス医・看護婦・患者家族・牧師よりの 発表	VTR「いのちの旅人」	120
第12回 91.10.19	チーム・アプローチと看護 看護の心 期待される看護婦像	海尾 弘 栄光病院看護士長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「ホスピス・ナースの一日」	124
第13回 91.12.14	ホスピスのめざすところ ・ホスピスに期待するところ	患者家族・MSW・チャプレン・ホスピス医	事例検討 VTR	107
第14回 92.3.7	がん告知の理論と実際 ーどのように告知するかー がん告知と精神的援助 ーどのように援助するかー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師	募集演題 2例 事例検討	95
第15回 92.5.9	相即の医療 ー死の彼方よりの医療ー	藤江 良郎 栄光病院院長	事例検討 VTR「われらの困難は天にあり」	93
第16回 92.7.25	痛みの看護	広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「がん病棟24時間」 事例検討	112
第17回 92.10.16	人間の幸福をめざす医療	柏木 哲夫 淀川サト教病院副院長 小島 操子 聖路加看護大学教授 佐藤 智 ライオン代表幹事	(第16回死の臨床研究会 記念講演会)	多数
第18回 92.11.14	WHO方式癌性疼痛治療法と MSコンパニ錠の徐放機構について モルヒネ剤による疼痛コントロールの実際 ー非経口的使用法を中心にー	松本 禎之 塩野義製薬株式会社 製品部・次長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長	(医師部会)	28
第19回 93.3.27	不二の人生に関わって ー精神的援助のあり方を考えるー	森山 健也 栄光病院協力牧師	事例検討 VTR「主よあなたがともに」	157
第20回 93.7.24	ホスピスケアの理論と実際	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 海尾 弘 栄光病院看護士長	症例検討 VTR「主よあなたがともに」	203
第21回 93.9.18	医療現場における思いやり・ 優しさとは何か ホスピスのめざすところ ホスピスにおける宗教的援助の役割 ホスピスにおける看護婦の役割	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR「ホスピス・ナースの一日」 事例検討	420
第22回 93.11.5	がん疼痛の鎮痛薬による 効果的治療法のABC	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長		386
第23回 94.3.26	QOL向上をめざす全人格的ケアを ホスピスケアの内容と課題	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川サト教病院名誉ホスピス長	VTR「主よあなたがともに」	439
第24回 94.5.21	一般病棟でどのようにして ホスピスケアを実現できるか	栄光病院スタッフ	事例検討・意見交換 患者家族の発表	226
第25回 94.7.23	訪問看護婦から見た在宅ホスピス 在宅ホスピスを可能にする 要因を考える 行政側から見た終末期医療	高沢 洋子 淀川サト教病院 訪問看護ステーション 林 治子 西南女学院大学 保健福祉学部看護学科 田中 慶司 福岡県保健環境部長		434

第26回 94. 10. 28	インフォrmコンセプトとがん告知 がん告知、その理論と実際 がん告知、その精神的援助 がん告知、看護婦の役割 終口もは剤使用の理論と実際	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長 武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	事例発表	354
第27回 95. 2. 25	QOL向上をめざす全人格的ケアを ーコミュニケーションをどのようにー 全人的ホスピスケアの実践	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 中島美知子 ホスピタリズム中島医院院長		154
第28回 95. 5. 31	取材を顧みて ホスピスに生きて20年	迎 恵子 テレビ西日本報道部 チーフマネージャー・ディレクター 柏木 哲夫 大阪大学人間科学部教授 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	VTR「ありがとう幸せの日々を」 (TNCテレビ西日本制作)	317
第29回 95. 9. 8	ホスピスにおけるプライマリ・ナースの 症例発表ープライマリ・ナースの関わりー	大内 裕子 淀川キリスト教病院 ホスピス病棟婦長代理		189
第30回 95. 10. 30	モルヒネを使いこなそう ーモルヒネ使用の理論と実際ー	武田 文和 埼玉県立がんセンター総長	(医師部会)	193
第31回 96. 1. 26	ホスピス・ケアの実践 ー全人的理解・全人的ケアー	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	症例発表	184
第32回 96. 5. 18	死を生きる ーホスピスケアに従事してー	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 河野 博臣 河野胃腸科外科医院院長	栄光病院開院10周年記念	399
第33回 96. 8. 3	癌末期患者の症状コントロール 癌告知はいかに	恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長		382
第34回 96. 10. 25	安楽死をどう考えるか 基調講演 シンポジウム	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 広瀬 典子 栄光病院総婦長 浜口 至 北九州がんを語る会 代表 阿蘇品スミ子 久留米大学医学部 看護学科助教授 森山 健也 栄光病院協力牧師 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士		325
第35回 97. 2. 1	在宅ホスピスー看取りを通してー 在宅医療におけるネットワーク活用について 在宅での看取りー訪問看護の実践からー	海尾 弘 栄光病院在宅看護士長 青戸 雄司 栄光病院内科部長 紅林 みつ子 訪問看護婦		256
第36回 97. 4. 19	死を受容し、安らかな死を迎えたある 癌末期患者への援助を通じて学んだこと ターミナルにおけるコミュニケーション	山田 由香里 福岡亀山栄光病院 緩和ケア病棟看護婦 青木 福代 トータル・カンセリング・スクールセミナー講師	VTR 供覧 「魂が癒されるその時まで」 福岡亀山栄光病院制作	235
第37回 97. 9. 13	ホスピス講習会 基調講演1 基調講演2 基調講演3 患者家族の体験談 特別講演・かけがえのない母を看取って	第一部 死にゆく人への心のケア 藤江 良郎 栄光病院理事長 森山 健也 栄光病院協力牧師 第二部 家族の悩み・家族への援助 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 池田 典子 患者家族 熊谷真実・松田美由紀 女優	症例発表 VTR 供覧 「幸福な死を迎えたい」 福岡亀山栄光病院制作	477
第38回 98. 1. 31	市民がホスピスに望むこと 一般病院におけるターミナルケア	波多江伸子 死生学者・作家 高宮 有介 昭和大学病院医師		151
第39回 98. 5. 23	栄光病院ホスピスを語る	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 栄光病院協力牧師 広瀬 典子 栄光病院総婦長	VTR 供覧 「いのちの質を求めて」 福岡亀山栄光病院制作	139
第40回 98. 9. 12	人生に有終の美を	日野原重明 聖路加国際病院・理事長		377
第41回 99. 3. 13	家族への援助ー家族に聞くー 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 森山 健也 協力牧師 広瀬 典子 総婦長 青戸 雄司 内科部長 後藤 隆子 緩和ケア病棟婦長 平井 美幸 医療ソーシャルワーカー 松山やよい 患者家族 佐伯 洋文 患者家族		99
第42回 99. 5. 22	ターミナルケアにおけるがん告知について 基調講演 シンポジウム	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 朔 元則 九州医療センター外科部長 中村 浩子 患者家族 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 三浦 啓作 奥田三浦法律事務所弁護士 森山 健也 香椎バプテスト教会牧師		132
第43回 99. 11. 13	ターミナルケアにおけるセデーション 基調講演 発表 発表	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 吉田 晋 栄光病院緩和ケア病棟医師 堺 千代 栄光病院緩和ケア病棟婦長		132
第44回 00. 02. 26	在宅で看取る 特別講演「在宅でこそ その人らしく」 症例発表「死を生き抜くということ」 特別講演「これからの高齢者医療・ 福祉と介護保険」	佐藤 智 ライフケアシステム代表幹事 崎田 雅子 ケア訪問看護ステーション訪問看護婦 荒瀬 泰子 福岡市保健福祉局高齢者部長		163

第45回 00.05.13	ターミナルケアにおける看護婦の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待する看護婦像」 発表「オーストラリア・ホスピス事情」 症例発表「拒否的な患者への 看護介入について」 特別講演「ターミナルケアにおける 家族への援助ーその危機介入ー」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 深田 美幸 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 小島 操子 大阪府立看護大学学長		302
第46回 00.09.01	ターミナルケアにおける医師の役割 基調講演「ターミナルケアに 期待される医師像」 特別講演「がん疼痛治療における オピオイドと鎮痛補助薬の使い方」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 恒藤 暁 淀川キリスト教病院ホスピス長		106
第47回 01.03.10	スピリチュアルケア 基調講演「スピリチュアルケア」 シンポジウム「スピリチュアルケアの実際」	窪寺 俊之 関西学院大学神学部教授 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 工藤 涼子 栄光病院緩和ケア病棟婦長 清田 直人 栄光病院チャプレン 日野 晴廣 患者家族		229
第48回 01.6.16	家族への援助 基調講演「悔いの多い遺族・悔いの少ない遺族」 ～その援助の理論と実際～ 「最愛の夫をホスピスで看取って」 シンポジウム「家族への援助」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 高島 望子 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 堺 千代 緩和ケア病棟主任看護婦 清田 直人 栄光病院チャプレン 池田 典子 患者家族 高島 望子 患者家族		138
第49回 01.10.27	チームケアにおける看護婦の役割 一般病棟、緩和ケア病棟でターミナル期の 患者をケアするナースの持つニーズ ～その共通点と相違点～ オーストラリアにおける緩和ケア ～日本への提言～	Susan Lee 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり 栄光病院ホスピス長 Susan Lee 栄光病院ホスピス長		午前の部 39 午後の部 156
第50回 02.03.02	福岡ホスピス・フォーラム ～死を見つめ、いのちを支えるホスピスケア 講演「死を見つめ、いのちを支えて」 ～ホスピス医として20年～ 講演「ホスピスで母を看取って」 独唱 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 挨拶 ピアノとヴァイオリンによる演奏 特別講演「ホスピスにおける霊的癒しと医学」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 松田美由紀 女優・患者家族 本田路津子 ゴスペルシンガー 長村 文夫 財団事務局長 良永季美枝 ヴァイオリニスト 松村えりか ピアニスト・患者家族 日野原重明 聖路加国際病院理事長		1950
第51回 02.06.08	ターミナルケア講習会 講演「癒し癒されること」 講演「ターミナルケアにおけるコミュニケーション」 事例検討「キーパーソン不在による 母親としての痛みを支えて」 分科会 a. 症状コントロール b. コミュニケーション c. スピリチュアルケア d. スタッフのケア	藤江 良郎 栄光病院理事長 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 宮原 純子 緩和ケア病棟看護婦		午前の部 145 午後の部 93
第52回 03.01.18	いのちを看るホスピスケア 講演「死を見つめ いのちを支えて」 講演「海外看護留学」 ～オーストラリアの緩和ケアにふれて学んだこと～ 特別講演「いのちを看るホスピスケア」	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 柏木哲夫 大阪大学大学院人間科学研究科教授		359
第53回 03.09.13	グリーフケア 講演「家族の悲しみ 医療者の悲しみ」 ～グリーフサポートを通して学んだこと～ 講演「お父さん 大好きです」 特別講演「喪失と悲嘆：その理解」	下稲葉かおり モナシュ大学看護学科レクチャー 的場章子 患者家族 リンダ・エスピー女史 グリーフケアカウンセラー (通訳:下稲葉かおり)		301
第54回 04.01.17	緩和ケア・コンサルトナースの役割 事例発表「積極的な除痛を拒み 「痛みをとらないで」と訴えた 患者の関わりを振り返って」 特別講演「緩和ケア・コンサルトナースの役割」	田村和恵 栄光病院緩和ケア病棟看護婦 レイリオン・リーズ女史 (通訳:下稲葉かおり)		113
第55回 04.06.19	実りある家族援助のために 講演「癒し癒されてーホスピスの現場からー」 特別講演「実りある家族援助のために」 ～カウンセリング的アプローチによる 援助を通して～	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 田中信生 米沢興譲教会牧師 トータルカンゼンスクール主宰		292

第56回 05.03.05	今、死に対峙する人と共に 記念講演「死に対峙する絶望を支えられるか ーホスピス医として20余年ー 発表「死の臨床における宗教的援助の役割」 記念講演「医療の本質とは」 ー癒し癒され、癒されつつ癒すー	下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤江 良郎 栄光病院理事長	日本死の臨床研究会 九州支部第16回研究 集会と共催	252
NP0法人 設立記念 フォーラム 05.06.18	記念式典 記念リサイタル 講演「ホスピスのめざすものー癒しのホスピス」 記念講演「ホスピスケアを支えるいのち」	千住真理子 ヴァイオリニスト 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 柏木哲夫 金城学院大学学長 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長		372
第57回 06.03.04	栄光病院ホスピスを語る 【第一部】 ホスピス医として ホスピスにおけるMSWの役割 ホスピスにおけるリハビリテーションの役割 患者家族として 1 ホスピスの心ーホスピス長としてー 病棟案内 (VTR供覧) 【第二部】 家族看護に必要とされる予期的悲嘆への援助 ホスピスにおけるチャプレンの役割 ホスピスにおける栄養士の役割 患者家族として 2 栄光病院ホスピスを語るー理事長としてー	吉田 晋 栄光病院ホスピス医長 麻生 直子 栄光病院MSW 林 邦男 栄光病院理学療法士 原田 公栄 患者家族 下稲葉康之 栄光病院ホスピス長 「幸福な死を迎えたい」 石津 暁子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン 藤川富佐子 栄光病院栄養士 徳永 悦子 患者家族 藤江 良郎 栄光病院理事長		218
第58回 06.09.30	世界ホスピスデー 福岡ホスピスフォーラム 福岡県における終末期医療に対する取り組み ー在宅ホスピスケアの普及に向けてー ホスピスの歴史、現状、将来展望 ホスピスにおけるスピリチュアルケア	岡本 浩二 福岡県保健福祉部 理事兼医監 柏木 哲夫 金城学院大学学長 沼野 尚美 淀川クリスト教病院名誉ホスピス長 六甲病院緩和ケア病棟 チャプレン・カウンセラー		122
第59回 07.03.10	こころの聲に寄り添ってーコミュニケーションが支えるものー 心のホスピス・コミュニケーションの心 栄光病院ホスピスを語るーコミュニケーション こころの聲に寄り添ってーコミュニケーションが支えるものー 「『もう死にたい』と訴えた患者と その家族との関わりを振り返って」 こころの聲に寄り添ってーチャプレンの立場からー	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 吉田 晋 栄光病院ホスピス長代理 赤司 宏子 栄光病院ボランティア 中島 祐子 栄光病院ホスピス病棟看護師 清田 直人 栄光病院チャプレン		129
第60回 07.10.20	福岡ホスピスフォーラム (世界ホスピスデー2007) ホスピス その傾向と対策 ー栄光病院ホスピスの現場からー やすらぎコンサート “生き方”としてのホスピス	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス長 Shana 原麻由子 (オカリナ) / 原健太郎 (ギター) 柳田 邦男 ノンフィクション作家・評論家		413
第61回 08.03.08	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 終末期における意思決定の際の 医療者と患者のコミュニケーション スタッフのケア	Susan Lee 明治大学看護学科シニアレクチャー 下稲葉かおり 明治大学看護学科レクチャー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	159
第62回 08.10.25	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) グリーフケアー今、一番伝えたいことー 生と死 いのちに寄り添うこと 星の会との出会いを通して ーともに感じるひとときをー グリーフケアを考える ーちいちゃんの歩みをとおしてー 悲しむ人と共に	武田康男 北九州市立総合療育センター歯科部長 金城亜紀 九州大学病院口腔外科歯科医師 須堯晴美 星の会 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー	レベルアップ 栄光ホスピス研修会 合同開催	247
第63回 09.03.14	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「チームアプローチ」 ホスピスは やはりチームケア 症状マネジメントの考え方の基本 どのように患者さんに説明するか どのように家族を援助するか どのように心の不安に向き合うか	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 下稲葉順一 栄光病院ホスピス医長 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		101
第64回 09.10.24	(レベルアップ栄光ホスピス研修会合同開催) 「かけがえのない今を生きる」 ーがん終末期患者を支えるとはー 「緩和ケア認定看護師への道」 ーよりよい看護をはぐくむためにー 「死について考える」 ーオーストラリア・心のケア教育プログラムに参加してー	山岡憲夫 やまおか在宅クリニック院長 梅野理加 栄光病院ホスピス病棟看護師主任 部屋和子 栄光病院ホスピス病棟看護師主任		217
第65回 10.03.13	全人的ケア ワンポイントレクチャー 「ホスピスの奥の奥に迫る」 症状コントロール 「ホスピスにおける注射鎮静剤の使い方」 コミュニケーション 「『山紫水明』 心をときはなつ」 家族への援助 「家族の悲嘆を支えるケアについて考える」 スピリチュアルケア 「『スピリチュアリティ』に迫る」	下稲葉康之 栄光病院院長・ホスピス主監 吉田 晋 栄光病院ホスピス長 工藤涼子 栄光病院ホスピス看護顧問 波多野智子 栄光病院ホスピス病棟看護師長 清田直人 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		120

第66回 10. 09. 25	(栄光ホスピス実践セミナー2010②合同開催) ホスピスにおけるスピリチュアルケア 「魂の叫びを聴く～ホスピスケアの心～」 シンポジウム: 「温かいもてなし」ホスピスの心で ～栄光ホスピスにおけるスピリチュアルケアの実践～	窪寺 俊之 下稲葉順一 江崎 美子 篠崎智恵子 清田直人	聖学院大学大学院教授 栄光病院ホスピス医長 栄光病院看護師 栄光病院音楽療法士 栄光病院チャプレン・グリーフカウンセラー		284
第67回 11. 09. 17	(栄光ホスピス実践セミナー2011②合同開催) 子どもの命のそばで 「子どもの命のそばで」 「小児ホスピス 私達にできる事・できた事 ～小児科のない当院での関わりを通して～」 「子どもをなくすということ」 「親・きょうだいをなくした子どもたちに寄り添う ～サポートグループの立場から～」	細谷 亮太 下稲葉順一 吉原良子 大井 妙子	聖路加国際病院 副院長・小児総合医療センター長 栄光病院ホスピス医長 NPO法人SIDS家族の会 副理事長・九州地区代表リーダー たんぼぼの会		157
第68回 12. 10. 27	(栄光ホスピス実践セミナー2012②合同開催) 認知症を抱え、生きるということ 「認知症を抱え、生きるということ」 シンポジウム 「あるがままを見つめて ～認知症を抱えて、生きる人とともに～」	大谷るみ子 中尾美也子 永富ひとみ 亀割 圭子	グループホームふみりえ ホーム長 栄光病院ホスピス医師 栄光病院ホスピス棟看護師 いやしの家施設長		141
第69回 13. 11. 23	(栄光ホスピス実践セミナー2013②合同開催) 「人をお世話するという生き方」 「こころの通うホスピスケア ～患者さんが教えてくれたこと～」	池永 昌之 下稲葉かおり	淀川キリスト教病院ホスピス・ 子どもホスピス病院副院長 モナシュ大学看護助産師学科 レクチャー・博士		165
第70回 14. 9. 13	メインテーマ「出会いたいのに ありがとう」 「置かれたところで咲く」 「死を想え ～ホスピス患者さんは私の人生の大先輩～」	渡辺 和子 下稲葉康之	ノートルダム清心学園理事長 栄光病院理事長・名誉ホスピス長		335
第71回 15. 2. 7	メインテーマ「チームアプローチのちから 2」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		58
第72回 15. 10. 24	メインテーマ「聴くことのちから」 「聴くことのちから」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	久保 千春 福永 頼子 村勢加寿代 清田 直人 林 邦男 徳永 悦子	九州大学 総長 栄光病院ホスピス医 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光病院チャプレン 栄光病院理学療法士 栄光ひまわり会（ご遺族の会）		143
第73回 16. 2. 27	メインテーマ「チームアプローチのちから 3」 「全人的ケアとチームアプローチ ～チームアプローチのちから～」 シンポジウム 「栄光病院におけるチームアプローチの力 ～病棟間の連携によって継続したケアが 可能となった一事例～」	吉田 晋 波多野智子 梅野 理加 柴田 冬樹 福地 祐子 下稲葉順一	栄光病院副院長・ホスピス主監 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス棟看護師長 栄光病院ホスピス医長 栄光病院 看護師 副主任 栄光病院ホスピス長		62
第74回 16. 9. 3	メインテーマ「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 「苦しむ人とともにいて学ぶこと」 シンポジウム 「癒し癒されて」 ～患者さん・利用者が教えてくれたこと～	小澤 竹俊 中尾美也子 小宮 真美 田ノ上 剛 藤田 望美	めぐみ在宅クリニック 院長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光会介護事業本部 課長 特別養護老人ホームこころ生活相談員		142
第75回 17. 2. 25	メインテーマ「ホスピスってなあに？」 ～いのちに寄り添うホスピスケア～ 1) 栄光病院ホスピスのご紹介 2) ホスピス病棟での生活とは？ 3) 入院費はどれ位かかる・・・？ 4) 実は ホスピスでもリハビリします！ 5) 在宅でホスピス緩和ケアを受けるには？	下稲葉順一 杉山小百合 増田こずえ 林 邦男 中尾美也子	栄光病院ホスピス長 栄光病院ホスピス棟看護師 栄光病院医事課課長 栄光病院リハビリテーション課課長 在宅医療センター・栄光在宅ケアセンター医長		104
第76回 17. 11. 25	メインテーマ「今、ホスピス緩和ケアに想うこと」 特別講演「ホスピス緩和ケアのこころを深める 講演「ホスピス わが人生道場」 講演「聴く心」 講演「ホスピス緩和ケア」 ～ありがたい『いのち』と共に～	柏木哲夫 下稲葉康之 下稲葉かおり 下稲葉順一	淀川キリスト教病院 理事長・名誉ホスピス長 栄光病院会長・名誉ホスピス長 モナシュ大学看護助産師学科講師・博士 栄光病院ホスピス長		318
第77回 18. 2. 24	メインテーマ「ホスピスの心で看取る」 講演「ホスピスの心で看取る」 ～ホスピスマインドに満ちた老健施設を目指して～ 発表「暮らしの継続とは～看取りの不安から見えてきたこと 発表「在宅ターミナルケア」 ～本人の思いに寄りそう看護ケア～	中尾美也子 安河内貴代 関 恵美子	介護老人保健施設五島福寿園 医師 特養こころエトリ・介護福祉士 栄光会栄光訪問看護ステーション管理者		120

第78回 18.11.17	メインテーマ「悲しみとともに生きること」 講演「いのちと歩む」 ～かたること・みつめること・あゆむこと～ 発表「子どもたちを亡くしてから30年のあゆみ」 講演「being with: 悲しみとともに」	武田 康男 新生児口腔ケア研究会代表 田村 千早 下稲葉かおり 明治大学看護助産師学科講師・博士		126
第79回 19.3.2	メインテーマ「ホスピスケアの目指すもの」 ～病院と在宅の連携の先に～ 講演「病院と在宅の連携について」 ～納得した看取りが出来るように～ 発表「在宅に向けての支援」 ～安心して在宅で過ごすために～ 発表「家で最期まで過ごしたい」 ～一人で過ごすためにはどのようなサポートが必要だろう～	中堀 亮一 わかばクリニック 院長 矢羽田有希子 栄光病院患者サポートセンター MSW 西尾 雅代 在宅医療センター栄光／ ホスピス地域連携室 看護師		86
第80回 20.1.18	メインテーマ「栄光ホスピスのこころ」 基調講演「栄光ホスピスのこころ」 ～関わる全ての方の幸せの 小さなきっかけになる働きを目指して～ 講演①「栄光ホスピスの伝承」 講演②「ホスピスナースとして大切にしている事」 講演③「老健で『いのちの質』を考える」	下稲葉順一 栄光病院 ホスピス長 福德 雅章 函館おしま病院 理事長・院長 堺 千代 大分ゆふみ病院 看護師長 中尾美也子 介護老人保健施設五島福寿園 医師		161

※2020年度はコロナ禍により栄光ホスピスセミナーは実施せず

院外からの研修

No.	研修期間	(時間帯)	研修種別	所属施設・学校名	人数
-----	------	-------	------	----------	----

令和2(2020)年

1	10/15(木) オンライン研修	13:30-17:00	ホスピス研修	唐津看護専門学校	27名
---	---------------------	-------------	--------	----------	-----

令和3(2021)年

2	2/1(月) オンライン研修	14:30-16:20	ホスピス研修	福岡高校	34名
---	-------------------	-------------	--------	------	-----

社会医療法人・社会福祉法人 栄光会 年報
第 21 号

2021 年 6 月 30 日発行

発行者 社会医療法人・社会福祉法人 栄光会

編 集 社会医療法人 栄光会 本部事務局

総務・システム支援課

〒811-2232 福岡県粕屋郡志免町別府西 3-8-15

電話 092-935-0147

FAX 092-936-3370

URL <https://www.eikoh.or.jp>

E-mail eikoh@eikoh.or.jp

理念
～癒し癒される～

私たちは“『こころ』も『からだ』もともに癒され
しあわせに生きる医療・看護・介護”を
目指しています



栄光会グループ

<https://www.eikoh.or.jp/>